京都府立総合資料館所蔵

特
992
31
10

○北村先生編　丹波誌　一部拾五卷

先生に請ひて二部を淨寫し
京都帝國大學圖書館と京都
府立圖書館に各一部を寄託
す

大正拾四年七月一日

北村龍象先生喜壽會

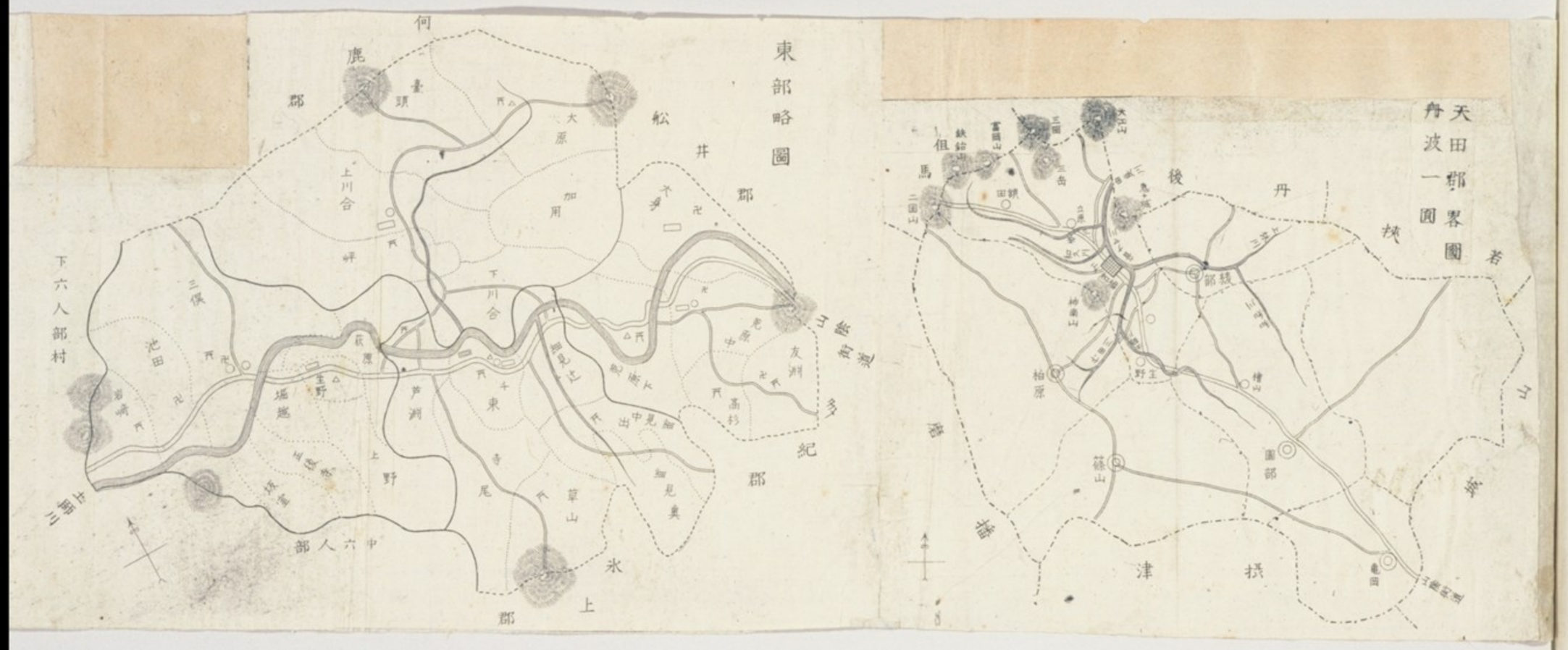
（北村先生喜壽會結末報告書を添附す）

京都府立総合資料館所蔵

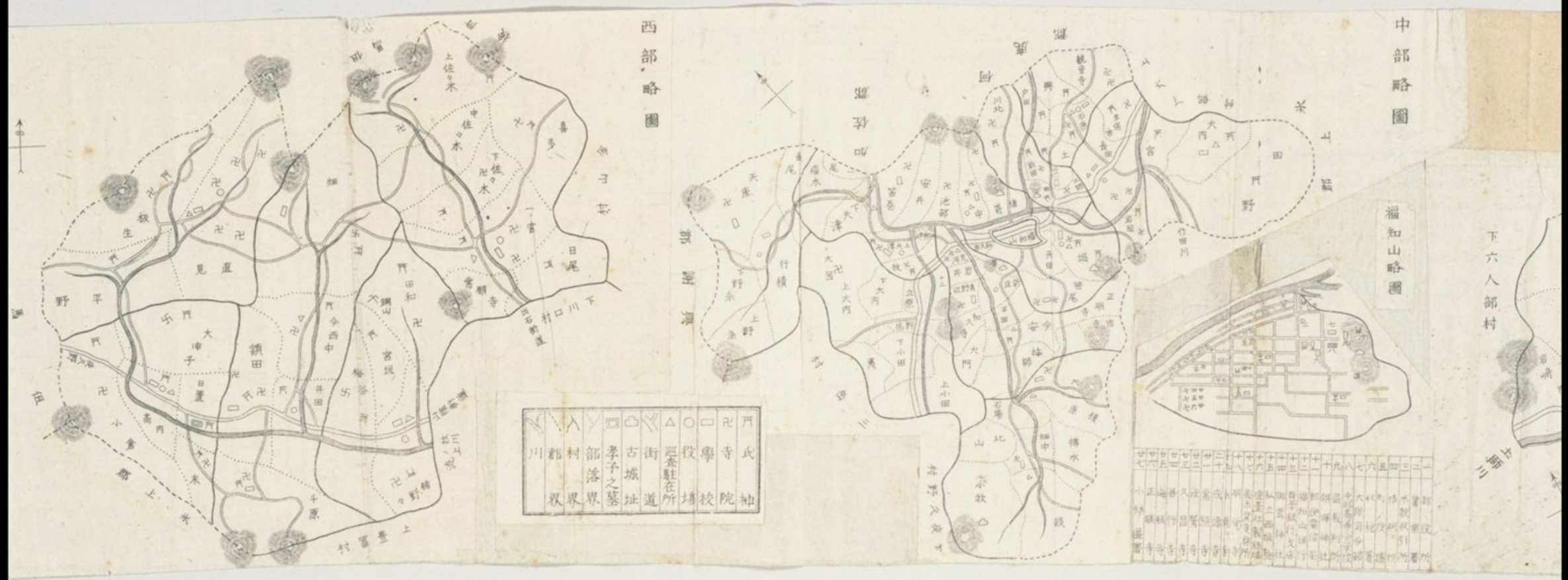
京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵

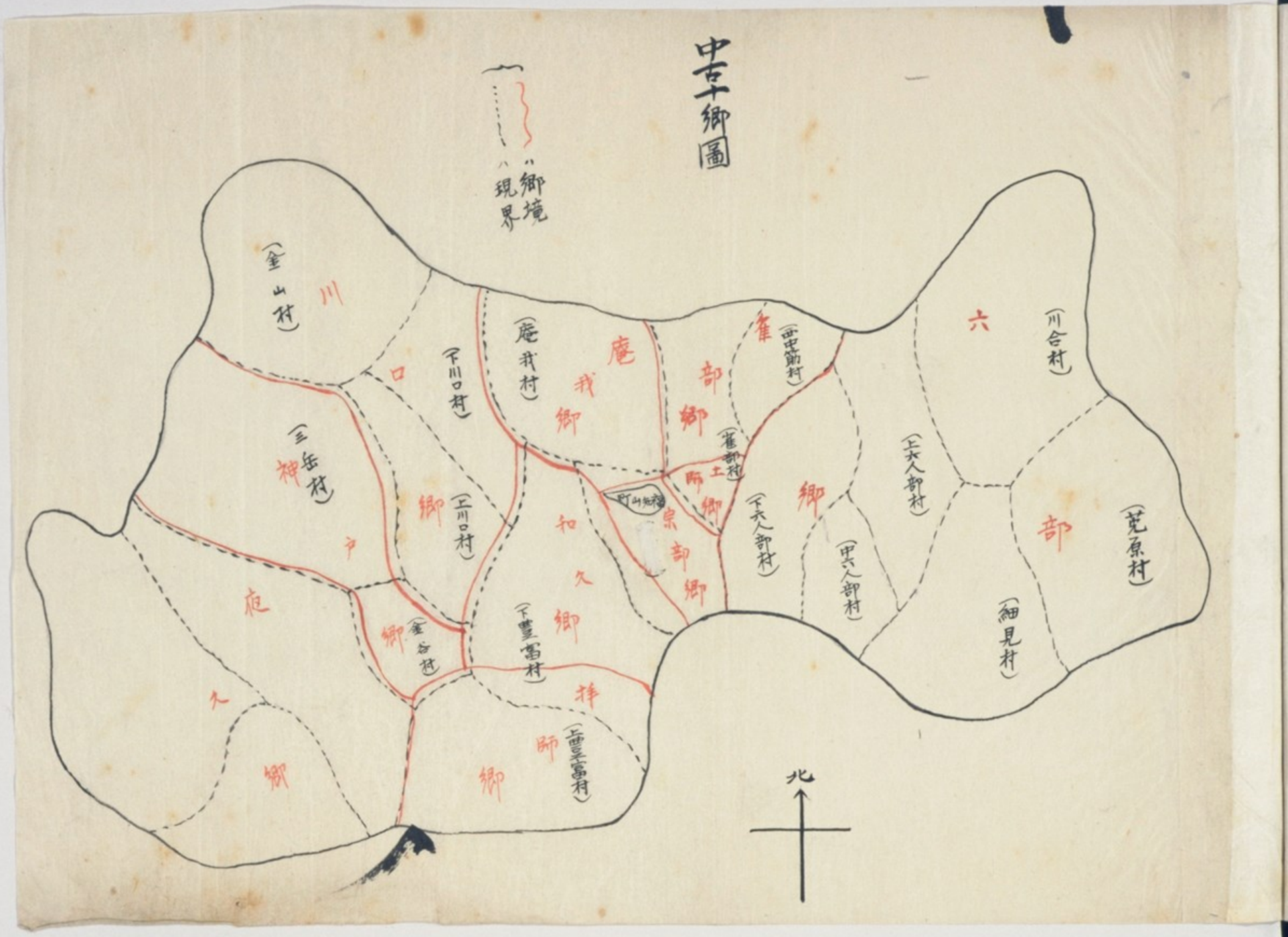


京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

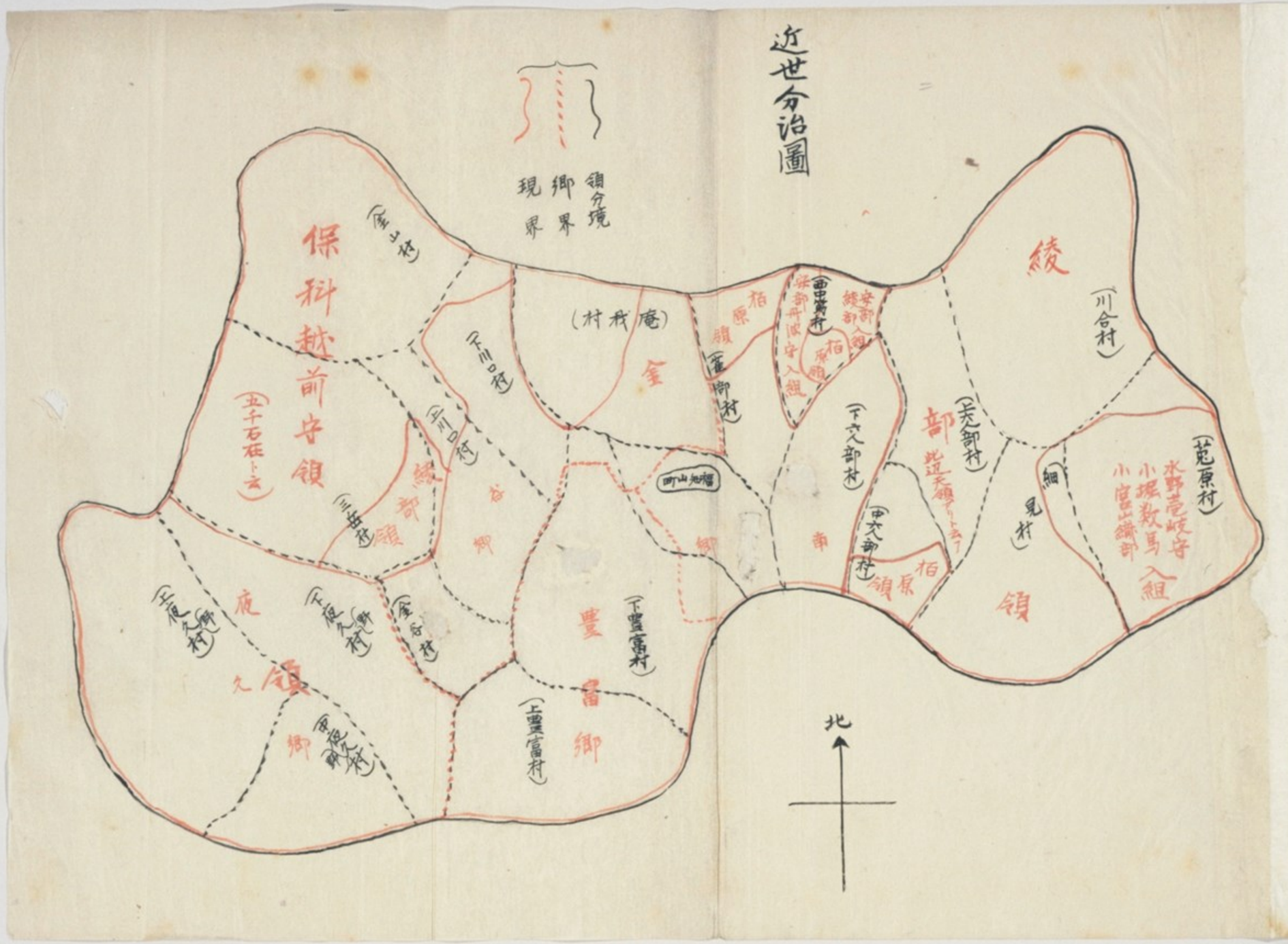
京都府立総合資料館所蔵

中古十郷圖



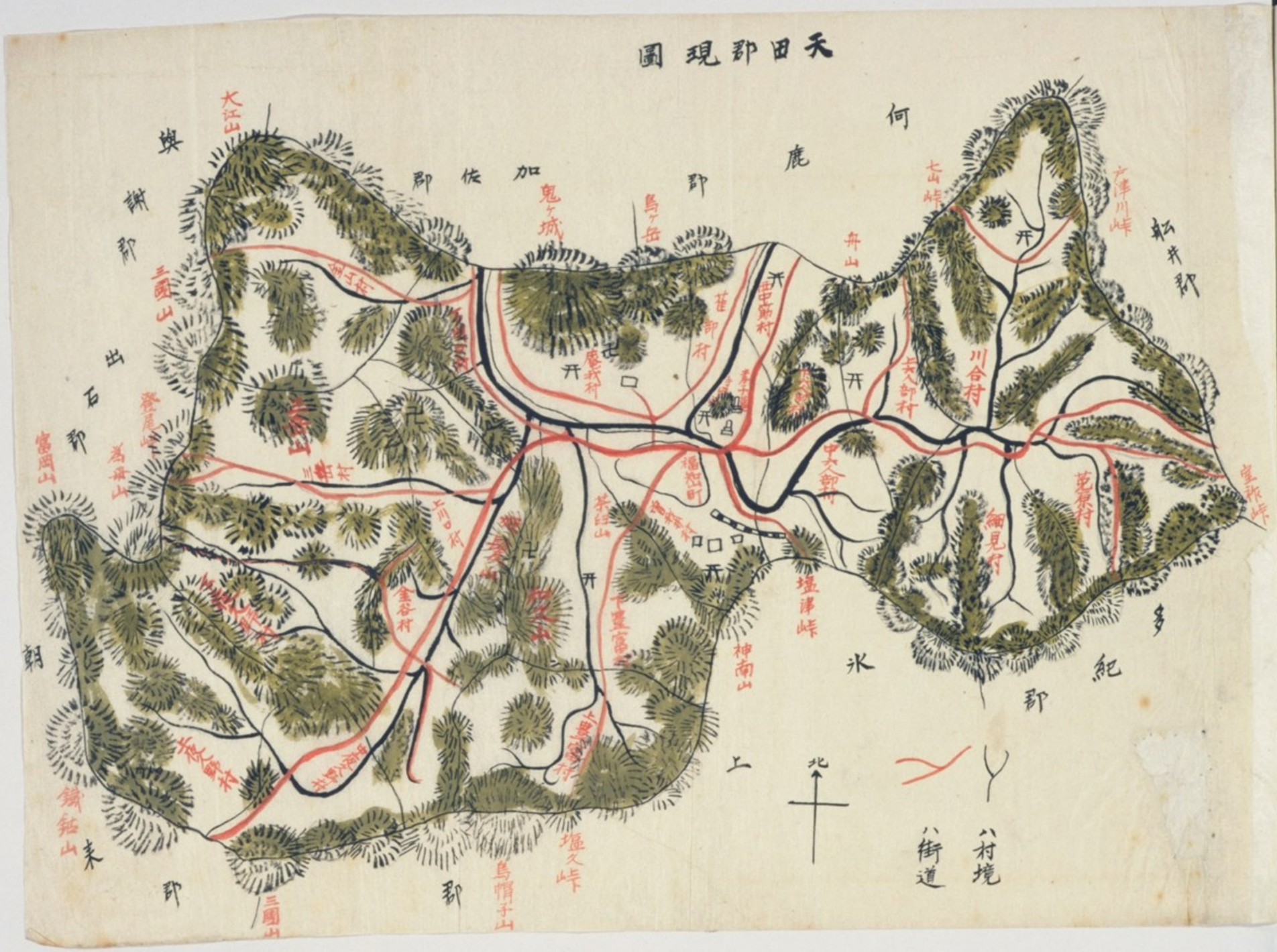
京都府立総合資料館所蔵

近世分治圖



京都府立総合資料館所蔵

天田郡現圖



京都府立総合資料館所蔵

天田郡総論

郡形ハ小狗ノ北ニ向フテ坐セルガ如シ頭顱ヲ船井郡ニ向フ所トシ頸後ヲ多紀郡ニ接シ咽喉ヨリ下ハ何鹿郡ニ背部ハ氷上郡ニ腹部ハ丹後ノ加佐郡ニ向ケ曲折セル足下ヲ與謝郡トシ出石郡トシ尾ノ屈セル所ハ朝来郡ニ向フ所トス

郡名ハ曾我井ノ大字ナル天田ノ弘ゴレルニヤ天平神護二年ノ紀ニ其ノ名既ニ見エ和名抄ニハ安萬多トシ他書ニハ餘田トスルアリ餘田ノ義ナレバ餘部ト同意ニモ解シ得ベシ（南桑田郡亀岡町大字ニ和余部アリ参看）

名抄ハ醍醐天皇延長年間ノ著ニテ今ヨリ千年ノ昔ニ在リ其ノ古称タル知ルベキナリ況ヤ其ノ以

京都府立総合資料館所蔵

前ニサヘ顕ハレタルオヤ丹波ガ田庭ナルニ於テハ（後論ニ出ブ）天田ノ御料ナルヿ大崖會ノ主基地トシテ御田ヲ天ノ御田ト唱ヘマツリ苗植エサセ給ヒタルヨリ起ツレル名ナリトノ説ツレ真ナラン歟（後論主基ノヿ後論ニ出ダス）

本郡ハ丹波國ノ西北端ニアリテ何處船井ノ兩郡ヲ東隣トシ但馬國ヲ西隣トシ氷上多紀ノ兩郡ヲ南ニシ北方ノ西部ハ山脈ヲ以テ丹後國ヲ劃斷シ其ノ加佐郡ヲ以テ當國ノ界線ヲ引ケリ

日本全土ノ中央部ナル紀伊國和歌山ト此ノ國此ノ郡（福知山アタリヲ）通ズル線上大陽時ヲ以テ日本標準時ト定メ大陽ノ南中時卽正午トス

地勢ハ西北ヨリ東南ニ延長シ中央南北ノ距離狹ク東西兩方ハ峯相綴リ中部稍平ナル所一帶ノ山脈千原（下野夜久ヨリ）峠（上川口村）ノ東南ニ趨リ以テ郡勢ヲ兩斷ス故ヲ以テ全郡ノ諸水方向ヲ異ニシテ流レ東源ハ西注シ西源ハ東灌シ未幾ハ終ニ共ニ丹後海ニ朝宗ス

鬼ヶ城山大江山等ノ丹後界ニ於ケル鐵砧ニ國冨岡ノ但馬界ニ於ケル神内千歳ノ氷上郡界ニ於ケル如キ山峰嶽頂相連リ溪谷相達リテ郡ヲ包括ス

福知川ハ郡内ノ最大最長ノ川流ナリ其ノ源ヲ繹レバ氷上郡ノ四五源ヨリシ又多紀郡ノ二三源ヨリシ船井郡ノ一二源ヨリシ北桑田郡ノ數十源ヨ

京都府立総合資料館所蔵

りシテ流下シ終ニ一大巨流トナリテ由良川トナリ北海ニ灌注ス其ノ氷上多紀ヨリ来ルモノハ音無瀬川系ニシテ船井北桑田ヨリ来ルモノハ和知川系ナリ　川流ハ所ニ由リ名ヲ異ニシ氷上多紀ヨリスルモノハ土師川ニシテ船井ノ大久保川ニ合流シテ本川トナリ大久保川ノ一源ニ大原川アリ　和久川ハ夜久野諸源泉ヨリ合流シテ来リ和久ノ舊地名ヲ以テ呼ビ下豊富村ニテ福知川ニ入ル　板生川ハ牧川ノ上流ニシテ上夜久野ノ直見ヨリ下リ畑ノ一源ヲ受ケ佐々木川ニ會シ福知川ニ入ル

郡内ノ川流斯ノ如クニ富ミカフルニ海港ノ遠カラザルヲ以テ舟楫ノ利ハ毋渡他郡ニ之レ無ク文政十二年由良川ノ舟舶ヲ毋後ニ往来セシメテヨリ百貨ノ集散日一日ヨリ熾ニ海産ハ来ルニ從フテ捌ケ陸産ハ集マリ次第出港シ其ノ利遂ニ全郡ヲ潤シ領主モ亦ソノ惠ニ浴スルニ至ル然リ而シテ利ニ伴フノ弊ヤ浅カラズ利ヤ漸次的ニ来リテ知ラズ識ラズノ間ニ潤澤シ弊ハ焦眉的ニ至リテ之ヲ奪ヒ去ル弊トハ何ゾ巨浸コレナリ

福知山ヨリ育田ニ至ル水程ニ里半ノ流域ニモ小舟ヲ浮ベ来往スルヲハ由良川通航ニ後ルヽ数年月ナリキ上流ニハ河身ニ堰シテ儲水シ之ヲ両岸ニ沿ヘル田面ニ引キ夏苗ノ養水トシ両般ノ利途

京都府立総合資料館所蔵

ニ供セラル

丹波ノ鋪金窩ト歌ハルヽ此ノ地モ時トシテハ沉
竈ニ蛙ヲ産シ釜中ニ魚ヲ生ズルノ惨事アリ年ト
シテハ全家漂蕩シ妻子離散スルノ悲ニ遇フ秋雨
霏々ノ夜古寺ノ寓宿長堤ノ假宿ニ夢魂驚キ易ク
水氣肌ヲ襲ヒ人ヲシテ轉タ世ノ味氣無キヲ語ラ
シム抑モ洪水ノ氾濫ハ林政ノ不備コレガ本トナ
リ近クハ堤塘ノ堅牢ナラザルニ由ル林政是レ擧
ガリ治水ヒシテ修マラバ福知山町民及ビ近村ノ
人枕ヲ高クシテ夜眠スベク(ヨシ)緩ヤ半月數週ノ霖ア
ルモ愁眉ヲ顰ムルニ及バザラン然ラン歟堤防ハ
此ノ地此ノ民ノ性命ニシテ而モ財産ノ保障ナリ

官民擧リテ平時ニ其ノ修築ヲ怠ラズ一孔ノ蟻穴
モ忽セニセズ數寸ノ崩壊(壞)モ繕ハザル可ラズ天和
貞享ノ河川決ガ出デタル所以ナリ(総論参看)之ニ加フ
ルニ寛政ノ治決ヤ百廢是レ擧ガリ治水ノ法モ益
々精密トナリ夏霖秋潦モ人民ノ憂苦トナラジト
ノ假想ハ數十年ニ渉ルノ一夢ニシテ爾後年ヲ逐
フテ弛ミ臨檢ノ京都町奉行與カ同心モ慰ミ半分
ノ旅行ニテ謂ハ所ル遠見決ニテ實地ノ臨見ヲ爲
サズ悪習慣ヲ墨守シテ藩吏ノ言巧ナレバ之ヲ是
トシ村民ノ情切ナレバ之ヲ容レ天保時期ハ即賄
賂時期ニシテ樹木植附モ土沙止メ工事モ黄白ノ
數ニテ之ヲ上下左右ニシ繪圖面ノ一瞥ヲ以テ遠

京都府立総合資料館所蔵

見ト稱シ跋涉ノ勞ヲ省キテ直ニ他ニ行クヽ先キ〳〵大同小異ヨレニ加フルニ嘉永以來國家多事

（添論亜米利加来航ノ條参看）京都ハ殊ニ攘夷家ヤ鎖港論客輩ノ集合燒點地トナリ町奉行廳吏ガ勤王黨討幕徒ヲ査定シ捕縛スルニ堪レ日モ足ラズ焉ンゾ能ク地方百年ノ謀ヲカ爲サン哉啻ニ幕府ノミ困ルニ非ズ領主支配所主モ亦然リ農民サヘ吏役ニ取ラレ村吏ハ誅求ニ苦ミ上下擧リテ一日ノ偷安ヲ爲シ山林ノ滋伐ヲ爲スモノハ有リ流下スル土沙ハ之ヲ留ムルモノ無シ河身ノ高キ霖雨暴風ノ時ナラザル等慘害ナカラントヽ欲スルモ得ンヤ後文浸漬ノ情態ヲ讀メ

京街道　福知山町字京ヨリ曾我井（元ノ曾我井村ノ蛇ガ端土師川橋ソレヨリ下六人部村ノ長田上六人部村ノ生野細見村ノ千束菟原村ノ菟原ヲ経テ船井郡ノ大久保ニ向フ此ノ街道京都マデ二十二里三十町餘

大阪街道　土師川橋ノ西ニ於テ右ヘ分カルヽ一道アリ曾我井ノ井口下六人部村ノ岩間ヲ経テ塩津峠ニ至ル峠以南ハ北上郡竹田村ニシテ柏原町ニ赴キ多紀郡ニ入リ篠山町ニ至ル　柏原ヽ六里篠山ヽ九里　大阪ヽ二十四里

綾部街道　土師川橋ヲ渡リ二町計リニシテ左ヘ往ク道アリ雀部村ノ前田西中筋村ノ石原同村ノ

京都府立総合資料館所蔵

観音寺ト興トヲ経テ綾部ニ達ス三里

舞鶴街道　廣小路ヨリ音無瀬川ヲ越エ庵我村ノ猪嶋在部村ノ川北ヲ経テ何鹿郡私市ニ出デ丹後ニ入ル

宮津街道　字鑄物師ヨリ下豊富村ノ和久市荒河下河口村ノ天津ヲ経テ丹後ニ入ル三里十二町ニシテ宮津ニ達ス

峰山街道　右ニ示ス道中ノ天津ヨリ金山村ノ長尾行積天座ヲ経テ六里峰山ニ達ス

但馬街道　即チ山陰道ハ右ニ示セル宮津街道中ノ荒河ヨリ西ヘ分カレ下川口村ノ牧上川口村ノ立原野花ニ出デヽ左シ同村ノ小田金谷村ノ猪野々ヨリ下夜久野村ノ額田ニ出デ中夜久野村ノ日置高内ヲ過ギ但馬境ノ夜久野ニ入リ但馬ニ入ル

出石街道　右ニ示ス但馬街道ノ野花ヨリ右シ三嶽村ノ日尾一ノ宮佐々木ヲ経過シ登尾峠ヲ越エ但馬出石郡ノ久畑ニ出ヅ　福知山ヨリ五里

氷上街道　字仲ヨリ西ニ出デ曽我井ノ天田ヨリ下豊富村ノ厚新庄今安拝師上豊富村ノ榎原石場撫水ヲ経過シ氷上郡ノ遠坂佐治ニ達ス

山陰道　東ハ山城国界（桑田郡篠村字峠）ヨリ西ノ国界（下川口村下天津界）ニ至ル二十三里ノ道中ハ丹波ニ於ケル比較上平坦ナルモノトス屈曲高低アレドモ車上ノ客トナリテ通過スベシ

京都府立総合資料館所蔵

郡ノ廣袤ハ東西十四里四町南北四里二十四町

面積　九方里四分九厘

田畑　二萬三千八百八十五町二餘　明治二十九年調査

戸數　一萬一千三百三十四　右同年

人口　二萬〇三百六十五　同四十一年十二月

五萬三千二十八　明治二十九年

五萬四千　同三十年四月

四萬八千百五十一　同三十一年一月

内　男二萬〇七百九十三人　女二萬七千

三百六十五人

六萬二千八百七十二人　大正元年

内　男三萬〇九百六十五人　女三萬千九

百〇七人

郷名　六部郷（上中下六人部村）　奄我郷（奄我村　在）　土師村

部村　拜師郷（下豊富村界隈）　宗部郷（福知山町）

川口郷（中下夜久野村）　知久郷（當我斗村ノ邊）　在部郷（三嶽村邊半）　夜久郷（上

村數　正保　八十五村　元禄　百四村　明治

一町二十村

高　正保　四萬九千二百六十八石六斗三升

元禄　五萬百六十石五斗三升四合八勺

文久　五萬百七十二石四斗三升二合二勺

二才

文久年間年貢米割當高帳

京都府立総合資料館所蔵

一五萬百七十二石四斗三升二合二勺二才

内

千四百十九石一斗六升四合四勺六才　御代官所

三萬八百三十七石八斗八升一合　朽木土佐守領

二千八百七十八石二斗二升四合一勺　織田出雲守領

五千二十五石八斗三升八合　保科彈正忠領

五千八百八十二石四斗二升五合三勺七才　九鬼大隅守領

千百七十九石九斗一升一合　安部摂津守領

六百三十六石八升三合一勺　水野壹岐守領

七百九石一斗五升一合　武田河内守知行

千石　小宮山定之助知行

五百石　九鬼豊兵衛知行

百三石七斗五升四合　武田勝三郎知行

金九十六萬九千八百六十二圓（明治四十八年收獲高）　金百三十萬一千百圓（大正六年收獲高）

町村基本財産林　五百五十四所　面積　千百七十二町歩　明治四十年

模範林　二十一所　二百十三町歩　右同年

學校樹栽林　五十六所　六十六町歩　右同年

學校演習林　五所　十二町六段歩　右同年

小學　十三　高等小學　三　（明治二十三年）

産物　穀物　生絲　茶　煙草　漆　柳胥折

藍　蒟蒻玉　素麺　木材　薪炭　石材

硯石　砥石　石灰　鑄物　葛　栗子　柿

子　鯉　鮒　鰻

京都府立総合資料館所蔵

維新前ニハ由良川ノ鮭アリ　養蠶ハ維新後全民ノ過半コレニ從事ス

鉈隙　稱德天皇ノ天平神護二年七月敬伍日比解廣成得テ以テ奉ル白鐵ニ似タリ曰ハク是レ丹波國天田郡葦隈山……ヨリ出ヅト以テ京都ノ鑄物師ニ示ス皆曰ス是レハ鉈隙ナリト鐵ハ接合部ニ鎔着スベキ金屬ニテ鉛錫ノ合金ナリトスフ

神野藥ハ丹波國天田郡領鉾執之家傳方元者伊賀古衣姫命之方也　大同類聚方

丹波黄麻呂　天田郡大領丹波黄麻呂職匪懈撫民有方話授外從五位下延暦年中

名所　豐富村　花並里　湊岡　鷺森　千束橋

文政元年十一月十一日主基方　論文賞發之部參看　丹波國

御屏風六帖和歌　十八首ノ内　花並里ノ歌　夫木集

さくらみの里とし経ぬる花なれば君もとしをぬ天橋立

鷺森霜後松星夏

右ハ舞正五位下藤原朝臣隆光

さきのこり霜の降るもあらそはれて操ぬきまつのむら立

日出驛　名ノミ残レリ

音無川　川名起原ハ西中筋村松尾神社ノ條下ニ出ダス

水の名ハさくらの名を展らあり名さそ〳〵めぐる名の川　京城能

四つの名を名をなゝせ〳〵そ名乃所ハかハ〳〵ゆくと考ゆ川　坂足利義

町村字一覽表

福知山町　京　呉服　上柳　寺　鑄物師

京都府立総合資料館所蔵

東長　西長　上新　下新　菱屋　鍛冶　上
紺屋　西　中　内記　裏　岡堀　天田　和
久市　笹尾
産部村　上師　前田　川北
庵我村　猪塙　中　泄部　安井　筈巻
西中筋村　土　石原　戸田　興　観音寺
下六人部村　岩間　長田　多保市
中六人部村　宮　大内　田野
下豊冨村　荒河　岩井　厚　新庄　奥野邊
和久寺　羊田　今安　祥師　正明
寺室　市寺　笹尾
上豊冨村　榎原　石場　畑中　談　北山　樽
水　小牧
下川口村　牧　上天津　下天津　一尾　瘤ノ
木　漆ヶ端
上川口村　十二　立原　上大内　下大内　大
呂　野花　寅　下小田　上小田
金山村　長尾　行積　上野條　下野條　天
産
菟原村　菟原中　菟原下　大身　友渕　高
杉
細見村　蘆渕　千束　寺尾　草山　細見中
出　細見辻　細見奥
川合村　下川合　加用　上川合　臺頭　大

京都府立総合資料館所蔵

原

上六人部村　岩崎　池田　三俣　堀越　坂室

正後寺　生野　上原　萩原

三嶽村　日尾　常願寺　一ノ宮　上佐々木

中佐々木　下佐々木　喜多

金谷村　猪ノ野　梅谷　宮垣　田和

下夜久野村　井田　今西中　畑　額田　千原

中夜久野村　末　日置　高内　大油子　小倉

上夜久野村　平野　直見　板生

神社一覧表　鄉社ノ資格アルモノ二社　村社タルモノ九十二社　内ニ式内ノモノ五社アリ　無格社ナルモノ三百十四アリ　今ソノ存在シテ著明ノモノヲ擧グ　一ノ宮ト稱スルモ五社アリ　孰レカ真ノ一ノ宮ナルヤ詳ナラズ　左ニ記載スルモノハ氏神ナルヲ以テ重出スルモノアリ　心シテ見ヨ

福知山町　鄉社　一ノ宮神社　當秋井村字堀ニアリ　同所

式内茶木神社

廣我村　式内　廣我神社　高野神社　當巻　八坂

神社　安井

産部村　天神々社　土師　天明神々社　前田　稲荷神

社　川北

西中筋村　式内　何昆地神社　興　一品神社　石原

水神々社　戸田　松尾神社　土

京都府立総合資料館所蔵

下六人部村　天神々社　多保市　天神々社　岩間
中六人部村　天神々社　大内　一宮神社　宮　天神々
社　田野
下豊冨村　式内　天照玉命神社　宇安　武神社　荒河
上豊冨村　鳩田神社　畑中　八幡神社　北山　武神
社　小牧
下川口村　一宮神社　牧　是社神社　下天津　山神々
社　齋ノ木　天満神社　上天津
上川口村　三吉神社　上大内　蛭子神社　下大内　大川
林神社　野花　稲荷神社　五京　三嶽神社　三嶽村佐々木
熊野神社　上小田
金山村　尾嶋神社　天産　六社神社　行積　住吉神
社　長尾　三嶽神社　三嶽村字佐々木
菟原村　梅田神社　菟原下　廣谷神社　大身　春日
神社　高杉　梅田神社　友渕
細見村　王歳神社　蘆渕　大年神社　千束　天満神
社　草山　梅田神社　辻　三柱神社　寺尾
川合村　大原神社　大原　渋谷神社　岸　麻谷神社
下川合　勝田神社　加用
上六人部村　式内　生野神社　三復　八幡神社　岩崎
大山祇神社　上野
三嶽村　三嶽神社　上佐々木　天神々社　日尾
金谷村　二宮神社　猪ノ口　八幡神社　梅谷　有徳神
社　田和　一宮神社　宮崎

京都府立総合資料館所蔵

下夜久野村　大年神社　今西中　一宮神社　額田　加茂
神社　井田　八幡神社　畑　熟田神社　千原　大年神
社　同　萩野神社　同
中夜久野村　高倉神社　日置　加津手神社　高内　熊野
神社　大油子　八幡神社　小倉　復江神社　赤
上夜久野村　天満神社　直見　宇徳神社　枝生　八柱神
社　平野
以上
天田大明神社領二十五石　祭神少彦名命　陽成院朝元
慶二年建立トアリ
寺澤村神社　同　十三石　祭神不詳
戸渡村神社　同　十五石

郡内寺院一覽表
福知山町　久昌寺　禪宗　正眼寺　同　海眼寺　同
法鶯寺　淨土宗　常照寺　日蓮宗　善行寺　同
永領寺　真宗　成德寺　同　明慶寺　同
曾我井村　圓海寺　禪　照光寺　真　照仙寺　同
圓應寺　禪　成願寺　真
庵我村　醍醐寺　禪　元正寺　真　養泉寺　禪　觀
音寺　同　覺量寺　同
雀部村　圓覺寺　禪　東林寺　同　賴光寺　同
西中筋村　洞玄寺　禪　多聞院　真言宗　大聖院　同
下六人部村　善光寺　禪　高淨寺　同　願來寺　真
法林寺　同

京都府立総合資料館所蔵

中六人部村　官福寺　真　洞樂寺　禪
下豐冨村　長安寺　禪　大興寺　同　正明寺　同
東興寺　同　福聚寺　同　吉祥院　天台宗　願成寺
真宗　明光寺　同　聖賢寺　同　蓮正寺　同　宗
壽菴　禪
下豐冨村　觀瀧寺　真　雲瀧寺　同　觀光寺　禪
柏林寺　禪　圓住寺　同
上川口村　長爺寺　真　敕念寺　同　天寧寺　禪
大信寺　同
下川口村　永明寺　禪
金山村　普光寺　禪
蕓原村　龍源寺　禪　昌福寺　同　長福寺　同　福

林寺　天台宗　成滿寺　真
細見村　廣雲寺　禪　興雲寺　同　久寶寺　台
川合村　浴釋寺　禪　常樂寺　日　新福寺　同
自性院　台
上六人部村　長川寺　禪　來迎院　真
三嶽村　瑞應寺　禪　威　威光寺　真　金光寺　同　妙
福寺　日　蓮秀寺　同
金谷村　青蓮寺　真　安養院　同　瑞應寺　同
下夜久野村　東光寺　真　善照寺　同　妙龍寺　日
瑞光寺　禪　大智寺　同　圓滿院　真
中夜久野村　東源寺　禪　玉照寺　同　安養寺　真
上夜久野村　教蓮寺　真　本光寺　同　專福寺　同

京都府立総合資料館所蔵

淨念寺　真　高源寺　瑞林寺

以上

福知山町記事

福知山町ハ東西ニ長キ本郡ノ中部ニ其ノ位置ヲ占メ東ニ雀部下六人部ノ兩村アリテ郡内平坦ノ地トス北ノ庵我西ノ下豊屋南ノ氷上郡界皆山村區域ニ屬ス神幸山南方ニ聳エ兩脚ヲ東西ニ延ベ進ンデ北方ヲ圍マントスルノ狀ヲ呈ス

たゝなる吹風の山の名高ハ ちゝ成ぞ ちゝ成ぞとそ思ふ　和泉式部

此ノ歌ハ式部ガ夫ナル藤原保昌ガ丹後ニ赴任スルニ隨ヒ行ク途中此ノ地ヲ過グルニ際シ咏ミ出デタル所ト云ヒ又ハ式部ガ老イテ痼疾ニ罹カリ但馬ノ温泉ニ浴セントテ此ノ所ヲ通リシニ病重リ引返ヘシ檜山ニテ歿セル其ノ時ノ口占トモ傳

フ（船井郡稙山村紀事及ビ葛葉田郡東別院村紀事参看）當時此ノ地ニ吹風山ナル名稱ノアリシ故紅葉ニ掛ケテ咏ミ出デタルモノナルベシ風ヲチト咏ムハ東風ノチノ如シ福智山トシテ城塞ニ名附ケタルハ天正年間杉原家資ニ始マルト云フ而シテ智ヲ知ニ改メタルハ享保年間ノ事トス下文ニ出ダスベシ

和漢三才圖繪ニ云フ福知山東至江戸百四十二里南至篠山七里東至漢部二里至山家三里東至園部十一里北至河守三里艮至丹後宮津九里

宇氣母知神社　稲荷神社　朝暉神社　明治殉節碑　城内

稲荷神社　琴平神社　高良神社　水神々社　堤防筋ニ在リシヲ宇氣母知神社内ニ移ス

稲荷山ノ八右衛門塚ハ校舎ハ右衛門ノ墓トスフ事歴未詳

城塞沿革　小笠原小太郎信氏ガ足利將軍尊氏ヨリ軍功褒賞トシテ本郡ニテ本領七所ヲ賜ヒ一郡討取ノ事ヲ命ゼラレ横山ニ築ク是レ福知山城郭ノ始ナリ横山ハ曾我井ノ地ニシテ元ハ宗部莊ナリ即チ福知山ノ地ナリ

城山古名朝暉ガ岡一名八幡山別稱龍ガ城

小笠原家顛末畧載　甲斐國小笠原長清ハ刑部少輔源義光ノ玄孫信濃守遠光ノ次男ナリ小笠原ニテ生マレ加賀美次郎ト稱シ左京大夫相模守トナ

京都府立総合資料館所蔵

り信濃守ト稱ス源頼朝ノ兵ヲ起コスヤ甲斐源氏ハ悉ク駿河國黄瀬川ニ至リ會ス是レヨリ先キ長清兄秋山光朝ト平和盛ニ屬シテ京師ニ在リ毋ノ大病ニ託言シテ歸省セントセヘドモ許サレズ高橋盛綱ニ就キ懇願シテ許サル即チ奔リテ甲斐ニ歸リ遂ニ黄瀬川ニ至リ頼朝ニ謁シ西征ス範頼ニ從フテ西海ニ赴クヤ頼朝範頼ヲシテ善ク遇セシム又陸奥ノ藤原泰衡ヲ伐ツニ從ヒ承久ノ役ニ官軍ヲ敗リ阿波ノ守護トナリ仁治三年卒ス年八十一騎射ノ法ニ精シ後世其ノ法ヲ傳フ裔孫長康ノ次男源太左信氏尊氏ニ從ヒ小笠原小太郎武者ト稱シ屢〻武功ヲ立ツ依リテ丹波國天田郡ニテ本領七個所ノ庄ヲ賜ヒ一郡討取ノ命ヲ受ケタルナリ

一説ニハ波多野ノ家臣荒木山城守ガ横山ニ楼上ゲヲ爲シ居住シタルガ城寨ノ始ナリ云々

横山姓　信氏數世ノ孫主水頼勝ニ至リ地名ニ因リ氏ヲ改メ横山トス又塩見大膳トモ云フ

戰史　荻野忠朝六角高頼等丹波ヘカヲ展ベントテ來リ攻ム竹田三郎防戰細川高國來援スルニヨリ事無クシテ止ム　頼勝以爲ヘラク本城ヲ堅固ニセントト欲セバ支城ヲ立テ以テ援護セザル可ラズト乃其ノ四子ヲ分カチ四城ヲ四方ニ構フ而シテ長子横山大膳太夫頼氏ハ本家トシテ本城ニ據

京都府立総合資料館所蔵

守ス

牧ノ庄荒河中山城

猪崎城

和久ノ庄山田城

牧村ノ地頭

次男　隙岐守長頼

三男　塩見大膳正利勝

四男　和久左衛門長利

五男　牧伊織助利明

利明ノミハ城居セズ遂ニ和久山田城ニ入リ其ノ後嗣トナリ牧村ノ地ハ隙岐守ノ支配トナル

享禄四年細川高國摂津尼ケ崎ノ打手トシテ出向フ時ニ頼勝ハ隙居シテ堀村ニ閑居スルヲ以テ大膳大夫頼武隙岐守長頼等何鹿郡ノ大槻右京大夫信高波々伯部伊勢守多紀郡ノ波多野等ト細川ノ幕下ニ属シ尼ケ崎ヘ打ツテ出デ六月廿一日ヨリ

三日ノ合戦ニ其ノ堺ヲ去ラズ丹波勢ノ名譽ヲ博セリ而ルニ敵軍一撃高國ヲ斃シタレバ丹波勢モ帰京ス此ノ度ヲ覘ヒ牽朝方ノ落人ナド和知上林ノ山奥ヘ数多逃ゲ来リテ小武士ヲ討捕リ己ガ住家トセリ荻野朝忠モ最浅間敷キ最後ニテ落延ビ夜久郷畑村ヘ引キ其ノ名ヲ匿シ赤松國心モ何鹿郡山ノ口村ヘ逃ゲテ民家ニ下ル其ノ外諸國敗軍ノ武士共流レ来ツテ近在山奥ナドノ民家ヲ荒ラシ鬼ケ城山ニ小城ヲ組立ラントス人家ヲ毀チ之ヲ運搬ス其ノ大將ト思シキモノハ内藤駿河守ヲ始メ宇都大和守中村助三郎ナドニテ在々所々人家ニアル鍋釜米穀ヲ強奪シ人民ヲ悩マス是ニ於テ

京都府立総合資料館所蔵

打棄置クベキニ非ストテ頼氏ヲ始メ塩見筑後守
利勝同播磨守家利同神三郎利光和久左衛門尉長
利等山陰ヨリ攻登リ中山隱岐守長頼同太郎左衛
門長遠牧伊織之助利明桐村勘左衛門實次ハ山北
ヨリ攻上リ一人モ残サズ討取ッタリ

赤井家トノ関係

氷上郡黒井ノ城主赤井悪右衛門ハ天田郡ヲ討取
ラント蘆田次郎太夫為家ト談シ足立右近助光永
ヲ引キ入レラ久下越前守重氏ヲ頼ミ鐵ヲ長澤日
向守其ノ勢五百許下竹田村文田マデ寄セ来レル
ヲ本城ニテハ役ノ業城ノ一門ヲ集メテ評定ス此
ノ時竹田七郎信連計昇ヲ立テト曰ハク敵ヲ大手

マデ引受テ京橋ノ水門ヲ下シ先手ノ渡リ終レル
ヲ見テ橋ヲ引キ流シ大手ノ中ニ縄ヲ巻キ散ラシ
置カント議コヽニ一決シテ待ツ處ニ鐘大鼓カマ
ビスシク打鳴ラシテ蘆田為家足立右近助先陣ニ
向フタリト大音ニ呼ハル去ルニ城内静マリケレ
バ為家等ハ得ズト思ヒナガラ太刀抜キカザシテ
聲カケシト見ル間ニ大手ノヒデツボヲ切リ落シ
軍卒一度ニエイ聲揚ゲテ乱レ入ル茲ニ足ニモツ
ル縄ニ躓ビテアヘグ所ヲ折コソヨケレトニノ丸
ヨリ射卸ス矢ハ雨ヨリ繁クカハス間モナクマタ
ヽク内ニ軍卒許多傷キヌ為家モ家永モ是マデト
思ヒシガマダ太刀合ハサヌ先ニ早曽ヲヌギ捨テ

京都府立総合資料館所蔵

降参ト両手ヲ上ゲテ呼ハルニゾ續テ右近助モ降
参ス大手ノ外ニハ塩見搨磨守家利中山太郎左衛
門長慶牧伊織之介利明庵我城ノ加勢ニハ小幡中
村伺庵郡ノ城主波々伯部源内左衛門義信各勇卒
ヲ率ヒテ四方八方ニ目配セシ所ニ二番手ノ搦手
ニハ赤井五郎續キテ稲継兵部丞真ノ勢三百許丹
口ヨリ備ヲ立テヽ押シ寄スルヲ心得タリト塩見
神三郎利光同藤三郎利茂池部三郎次郎利一和久
右近介武政中山修理亮長信等ノ若武者堀岡等ノ
百姓共ヲ引連レテヒソカニ森垣ニ忍ビ匿レシガ
彼ノ二番手ノ者共堀村一宮明神ノ下迄押寄セシ
ヲ見テ前ノ若武者俄ニ追掛ケヽル所ニ次第ニ水

ノ嵩ムニ詮ナク水田ニ驅ケ入リ猛勢ニテ討立テ
ケレバ稲越兵部駒ヲ早メテ明神ノ渥手ヲ行カン
トスルニ古河ノ渕ヘ象入リテ沉ミシニ敢ナク次
第ナリケリ（コレヨリ此ノ邊ヲ駒ガ渕ト云フ）之ヲ見テ赤井五郎ハ必死
トナリテ一方ヲ切リ抜ケ山道ヅタヒニ榎原峠マ
デ逃ゲ歸ル残ル士卒ノ奴原ハ逞ノ強キハ逃ルモ
アリ或ハ腹切ルモアリ矢傷負ヒテ倒ルヽモアリ
テ誠ニ心地ヨキ次第ナリキ扨後陣ニ向フ大將ニ
ハ赤井悪右衛門朝日ノ城主同苗伊豫守下竹田村
才田ニ陣ヲ取リ三百許ノ軍卒ヲシテ森垣邊マデ
出ダシヽニ二番手敗軍ノ由ヲ聞クカラニ
流石ノ大將モ是レ彼レ猶豫スル程ニ勝ニ乗ツタ

京都府立総合資料館所蔵

ル横山勢ハ已レ本陣ヲモ一揉ニ揉ミ落サントス
田ヲ差シテ出デ行キシガ城主信勝コノ時食事ニ
遠カリテ勇気壽シトテ井口ミ味ニテ墓前ノ飯ヲ
食ス此ノ勢ニ神田岬ニテ水ヲ呑ミ赤井ノ陣ヘゾ
向ヒケル茲ニ敵ノ陣屋廻ハリノ者木蔭ヨリ牝馬
ヲ放ケテ我軍ヲ乱シケレバ横山勢モ乗リアグミ
テアル程ニ敵ハ散々ニ逃ケ退キヌ管領毋波中納
言秀秋ノ使者トシテ濱田織部尉梅原兵庫頭早馬
ニテ駆ケ付ケ兼ヲ申渡シ上意ニ背キ合戦ニ及
ビシニツキ此ノ旨赤井ヘ申傳ヘントアリト早ヤ
軍敗レテ本城ヘ逃ケ返リシアトナリケレバ尚本
城サシテ走セ向ハレキ之ヲ見テ横山勢ハ本城サ

シテ返ルサニ前ノ墓ニテ飯ノ丁思ヒ出デ亡者ノ
飯ニテカヲ得タル丁奇怪ナリトテ以来横山家ハ
之ヲ以テ家紋トナシ、トゾ（何ヲ以テ紋トシタルヤ詳ナラズ）カクテ一族
郎党打揃フテ歸城ナシ、後ニ先ノ降將共ヲ引出
シ太刀ナドヲモ改ムルニ爲家申ス様此ノ太刀ハ
モト平家ノ重寶ナリシガ後ニ新田公ノ手ニ渡リ
黒熊丸ト云フ太刀ナリ是ハ横山殿ヘ献上スト扱
足立右近蘆田治部ヲバ本城ニ歸ラシメタリ此ノ
時横山家ハ一門堅固ナリシ祝宴ヲ張リ萬歳楽ヲ
ヅ舞ヒタリケル
和久左衛門ハ牧伊織外ヲ養子トシテ山田城ヲ續
カセ永禄六年三月山家ニ陣ヲ張リテ知知上林ノ

京都府立総合資料館所蔵

兩谷ヲ討取テ領主トナル尚進ンデ桑田郡ヘモ切リ入ンズル存念アリシ強武士ナリキ而ルニ天正八年八月明智光秀ニ討主ラレ行方知レズナリヌ依テ片山兵内ニ左衛門ヲ討取レト下知アリケレバ兵内勇ミ進ンテ草木ヲ別ケテ尋ヌレド終ニ求メ得ザリキ

横山落城　横山大膳信房ハ賴氏ノ子ニシテ父ニ継ギ本城ノ主ナリシガ波多野ノ幕下ニ属シタリ明智光秀天田何鹿ニ郡ニ攻メ入ルヤ木下小市郎加勢ノ軍トナリ四王天但馬守林半四郎先手トナリ天正八年八月廿一日本城目蕗ケテ攻寄ス城内ノ輩迚モ叶ハジサレト此期ニ及ビ見苦シキ目見

スルハ本意ナラズ好シ死カラ盡シ光秀ノ生首ヒシガンカ扨ハ光秀ニ我ガ首ヲ渡サンカノミイデヤ者共トテ一度ニドワト出デケレドモ流石ノ光秀迚モ又向フ手ダテモ無ク寄ロ潔ク城ヲ枕ニ討死ト極メ茲ニ大膳信房ヲ始トシ舎弟信勝及ビ一家中ノ面々孰レモ一度ニ諸肌押シ脱ギ無念ナリオノレ光秀討タルヽ時ハ此ノ信房ガ怨ナリト思ヒ知レ三トセハ待タス内此ノ怨晴ラサデヤハアル可キト一度ニ腹搔キ破リテ死シタリケル頃テ光秀ハ本丸ヘ登リテ旗ヲ揚ゲ思ヒノ儘ニ討取リタリト大音ニ罵ル此ノ横山ノ残卒篠塚伊三郎切歯レテ唯一打ニト本丸ヘ驅ケ揚ガレバ四王天ノ

爲ニ折タレヌ此ノ時大目附加藤源之丞セメテハ一人ノ御亂ヲ殘サント姥ニ含メテ末子ノ信之君ヲ落シケレバ此ノ君大阪ヘ落延ビシニ大阪落城ノ後德川家ニ屬シ三十七歳ノ時與力組三百人扶持其ノ後四千石ニ取立テニ代加賀大納言利家公ニ仕ヘ三萬五千石ニテ横山内記トヲヘリ扨加藤源之丞ハ城内ノ模様ヲ見屆ケテ其ノ身ハ大呂村ニ落ツ其ノ村ニ其ノ子孫アリト云フ

城代四天王但馬守　落城後ハ城代トシテ四王天政孝ヲ籠メ置キ其ノ身ハ和久中山ヘ攻メカヽリキ

改築ノ縄張　光秀ハ勝利ノ後一旦亀山城ヘ歸リシガ同月ノ末ツカタ再来リテ本城改築ノ縄張ヲナセリ

築城　天正四年十一月廿一日起工シ同六年十一月十四日竣工ストモ云ヒ天正八年ノ起工ニテ光秀伏誅後ニ完全ストモ云フ　規模ヲ宏大ニシテ以テ本國ノ巨鎮タラシメントシ式内ノ社タルヲ問ハズ由緒アル寺ナルニ關セズ巨材アレバ之ヲ取リ大石ヲ見レバ之ヲ輯メ以テ其ノ用ニ供シ近キハ言フニ及バズ遠キハ數里ニ及ビ社寺ニシテ其ノ毒手ヲ免レタルモノ蓋幾許モナカリシトカヤ宗我部曽我井ナドノ地モ見ノ縄張ノ中ニ入レラレ摩岡村嶋村木村等ハ市街トナリ河流ニモ亦

京都府立総合資料館所蔵

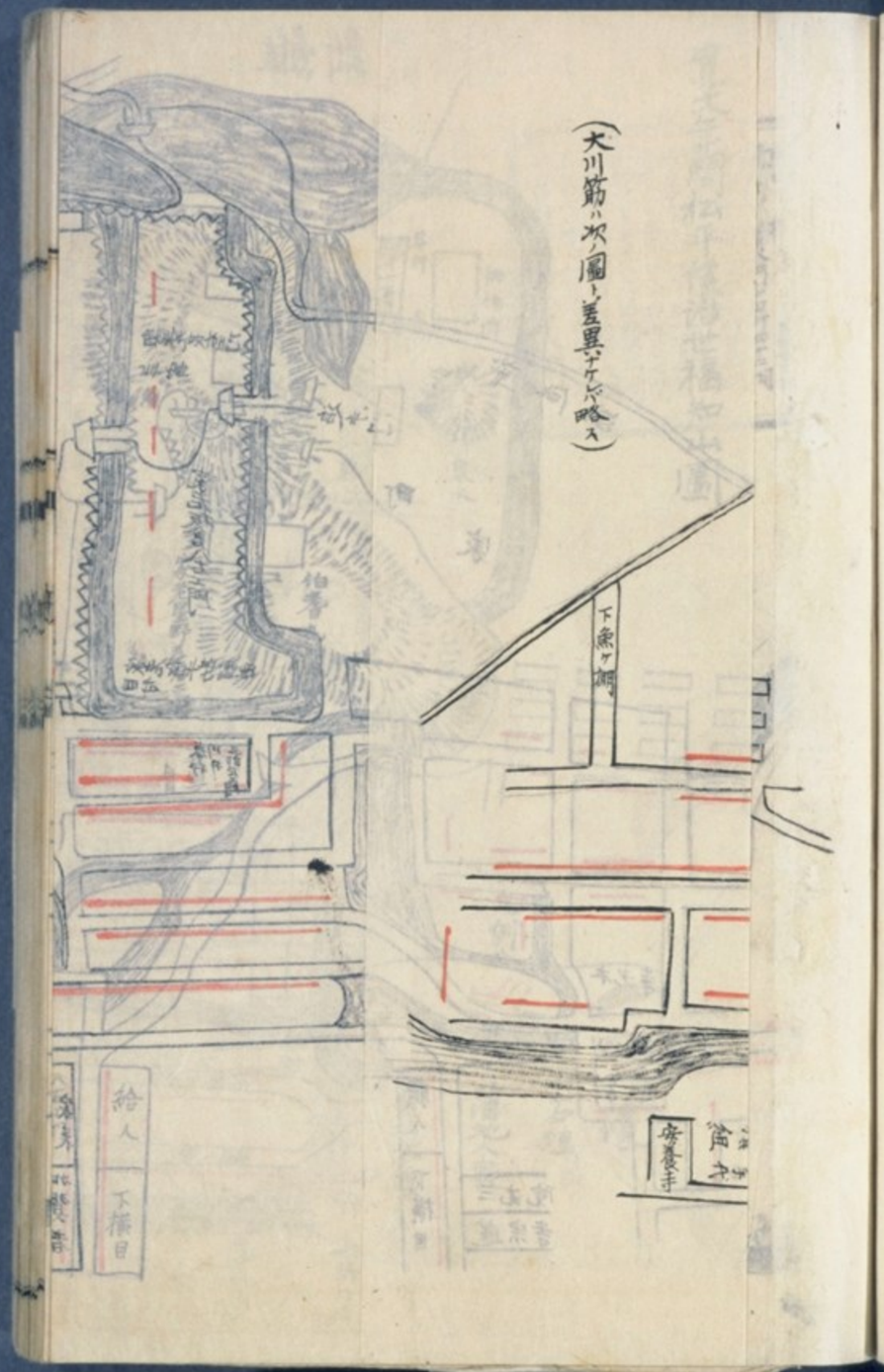
大変更ヲ来タシ南来其ノ水害ヲ蒙ルヿ幾回ナルヲ知ラズ

福知山城　城ハ成レリ福知山ノ譽ハ揚レリ光秀ハ右府織田公ヲ殺シテ後ハ又モ四王天但馬守同又兵衛ヲ城代ニ定メ藤田権八郎牧勘兵衛加治石見守ニ八百人ヲ與ヘテ守ラシメ以テ奥丹波ノ警固トス亦市民ニ除租除役ノ恩恵ヲ施シ一ハ以テ要鎮トシ一ハ以テ時望ヲ收ムルニ汲々セリ

時人謠フテ曰ハク福知山出て長田野越えて助をちやめて亀山へ蓋シ光秀ガ當地ノ處分ヲ了シテ東歸スル樣ヲ云ヘルナリ

三日天下ト謳ハレタル惟任氏ハ天王山下ノ戦ト合戰ニ敗レテ光秀ハ竹槍ノ下ニ仆レタルカ此ノ時此ノ城ヲ管スルモノヲ淺野弾助左衛門高勝入道々世トス後名高勝通稱助左衛門又孫左衛門光秀ニ事ヘテ此ノ城ヲ守ル本能寺ノ事ヲモ知ラズ況テ主家ノ亡滅ヲヤ日數經ル間ニ誰ト言フト無ク其ノ事ノ漏レ聞コユルモノカラ獨左スルヿモ得ナラズ山陰道ハ早クモ秀吉ノ手ノ廻ルト聞キ澁川一益ノ臣ナル妹壻堀田武助ニ倚リ秀吉方トハナレリ秀吉其ノ光秀ノ逆ニ與カラザルヲ以テ罪ヲ問ハズ大津城主淺野長政其ノ智謀ヲ知リ子長政ヲ托ス軍功アリ天正八九年ノ頃尾張ノ人杉原伯耆守平長房ノ子七郎左衛門家次入城シ二萬石

京都府立総合資料館所蔵



（大川筋ハ次ノ圖ト差異ナケレバ略ス）

州洲記

ヲ領スナ一年近江坂本ニ行ク木下家ト杉原家ハ秀吉ニ於テノ親戚タリ由リテ羽柴秀勝ノ輔佐トナリ秀勝ノ領地亀山ヲモ兼ネ治メタリ當地ノ基礎ハ家次ノ計畫其ノ方ヲ得テ大乱ノ後邑里蕃條人民ソノ堵ニ安ンズル能ハヌ所ヲ能ク治メ能ク導キタルヲ以テ乱離ノ民モ復歸シ新附ノ衆モ群至シ聚ヲ爲シ落ヲ成シ遂ニ福知千軒ト稱セラルヽニ至ル秀吉又其ノ規模ヲ擴メシメ寺澤志摩守廣高ニ二萬石ヲ與ヘテ居守セシメヌ東山修理大夫青山勘兵衛等前後城守タリト云フ

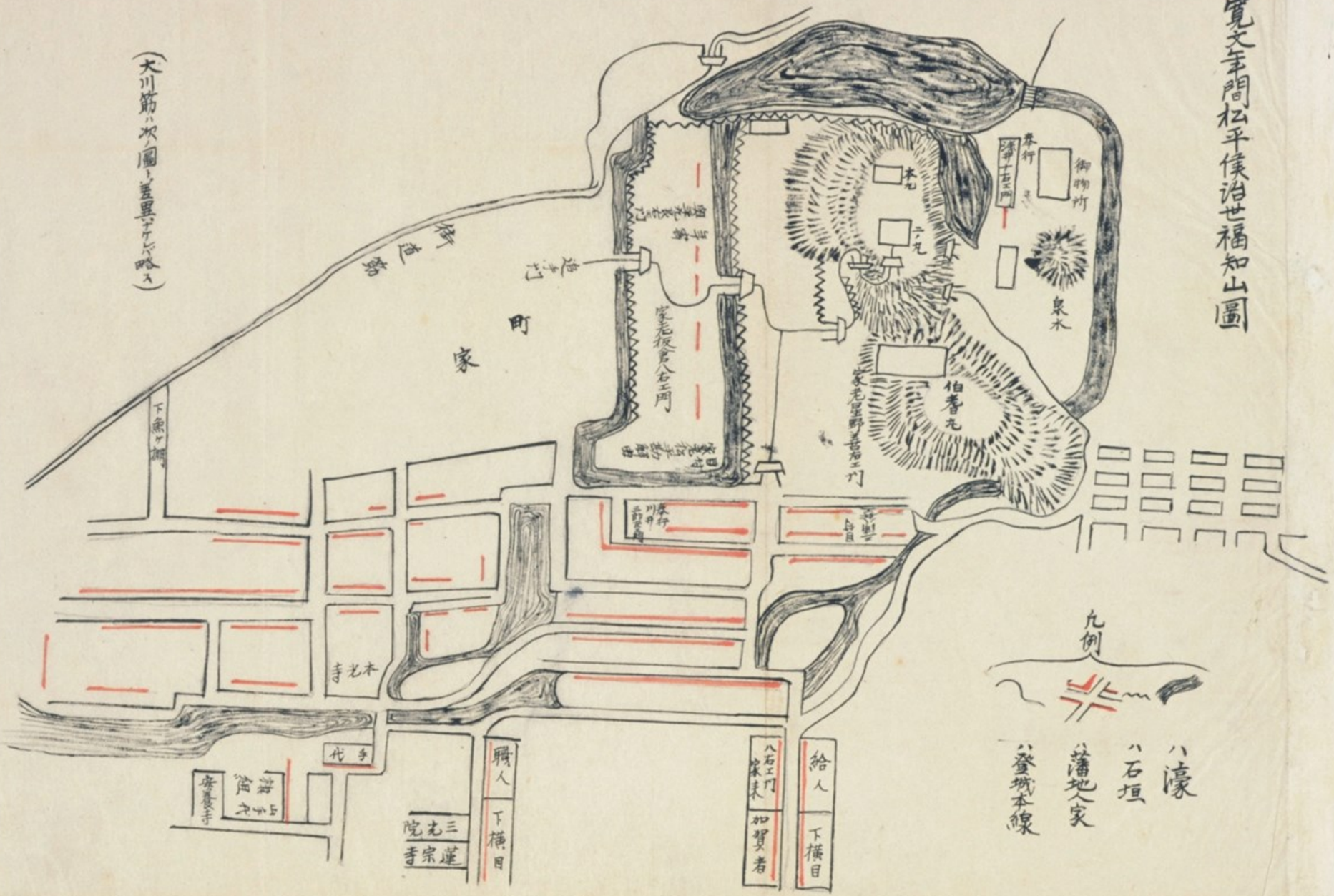
小野木重勝ト其ノ妻

重勝ハ丹波ノ人ナリ然レ氏其ノ何郡何村ノ人ナ

京都府立総合資料館所蔵

寛文年間松平侯治世福知山圖

（大川筋ハ次ノ圖ト差異ナケレバ略ス）



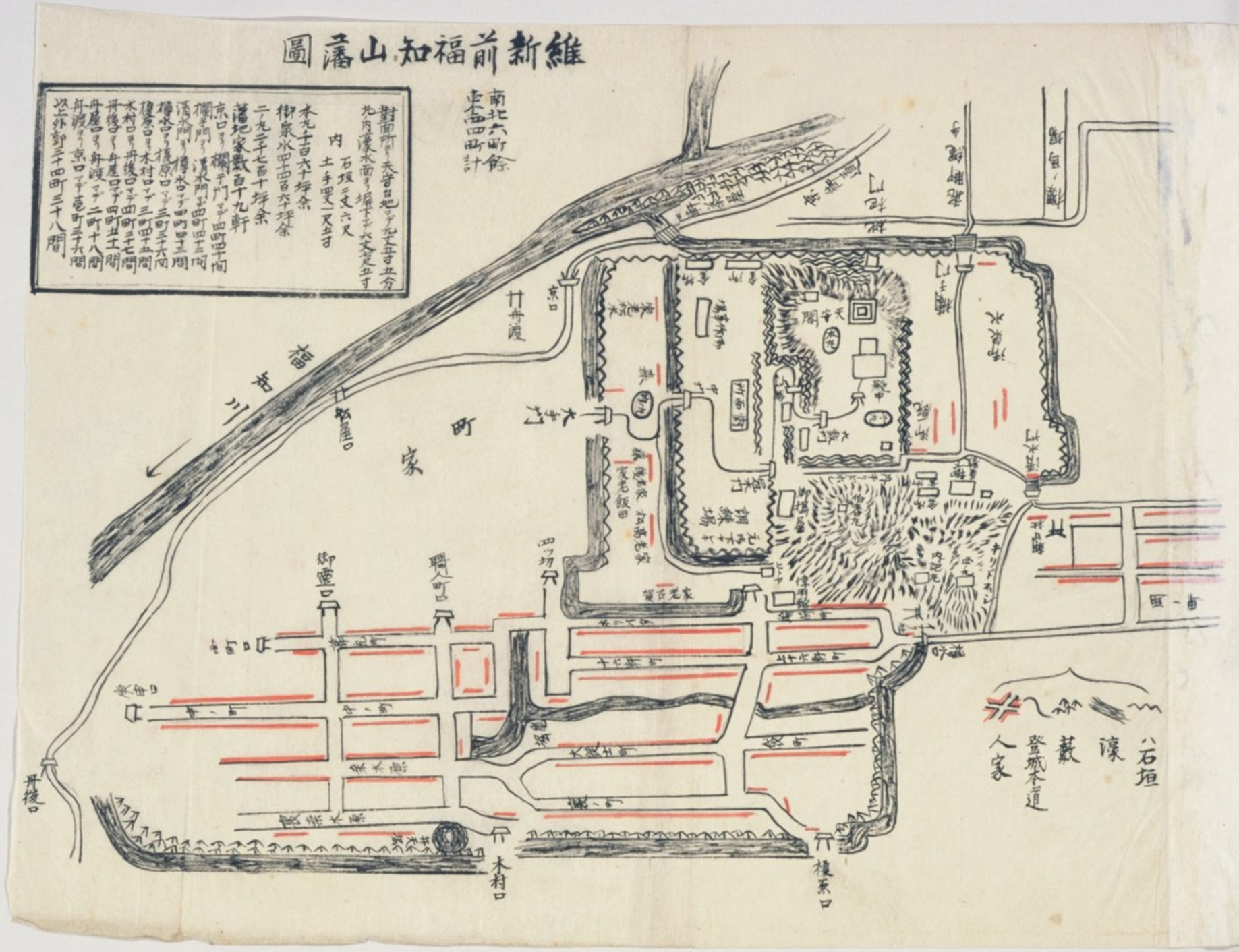
天青山勘兵衛等前後城守ヲメリト云フ

小野木重勝ト其ノ妻

重勝ハ丹波ノ人ナリ然レ氏其ノ何郡何村ノ人ナ

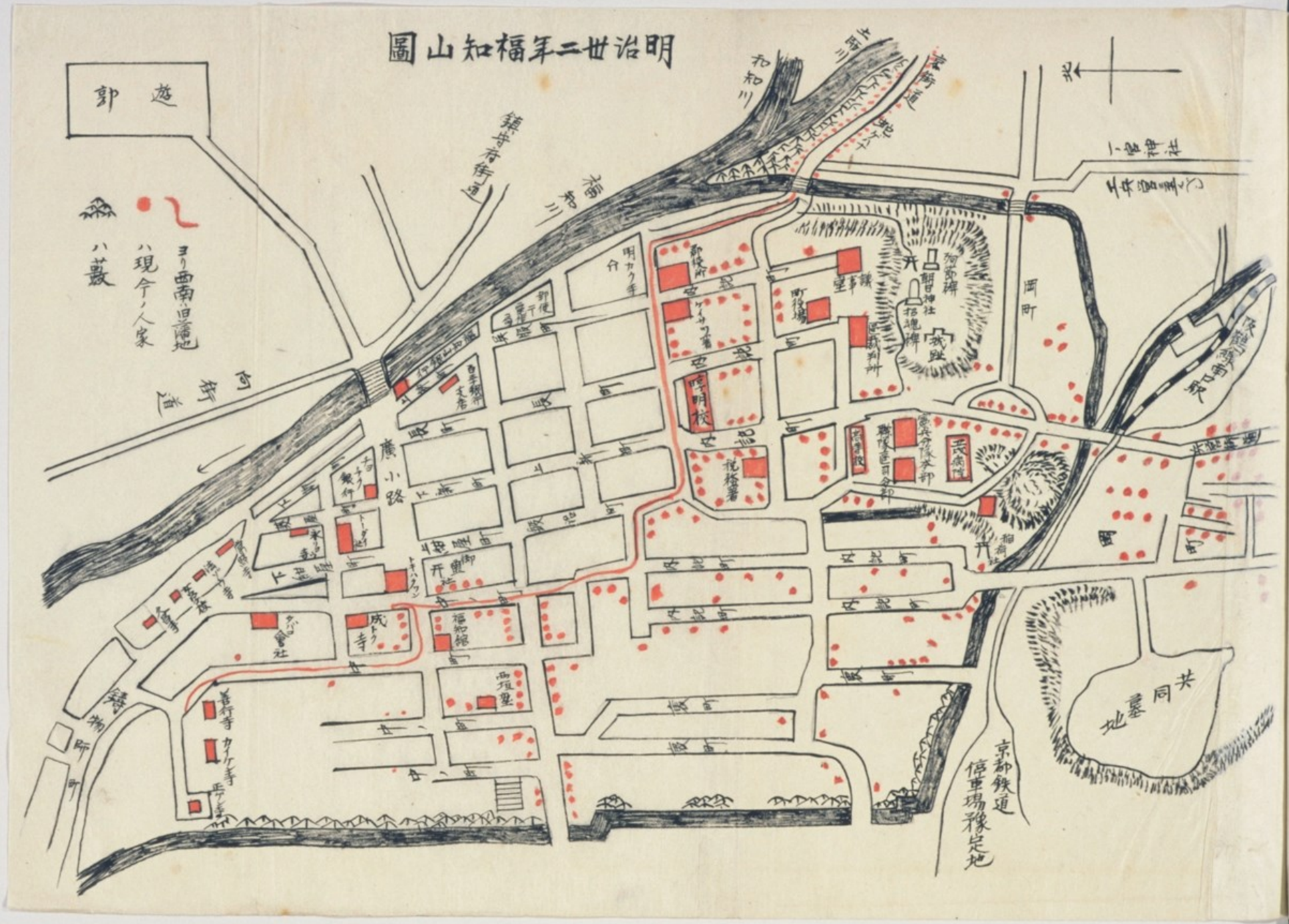
京都府立総合資料館所蔵

維新前福知山藩山圖



京都府立総合資料館所蔵

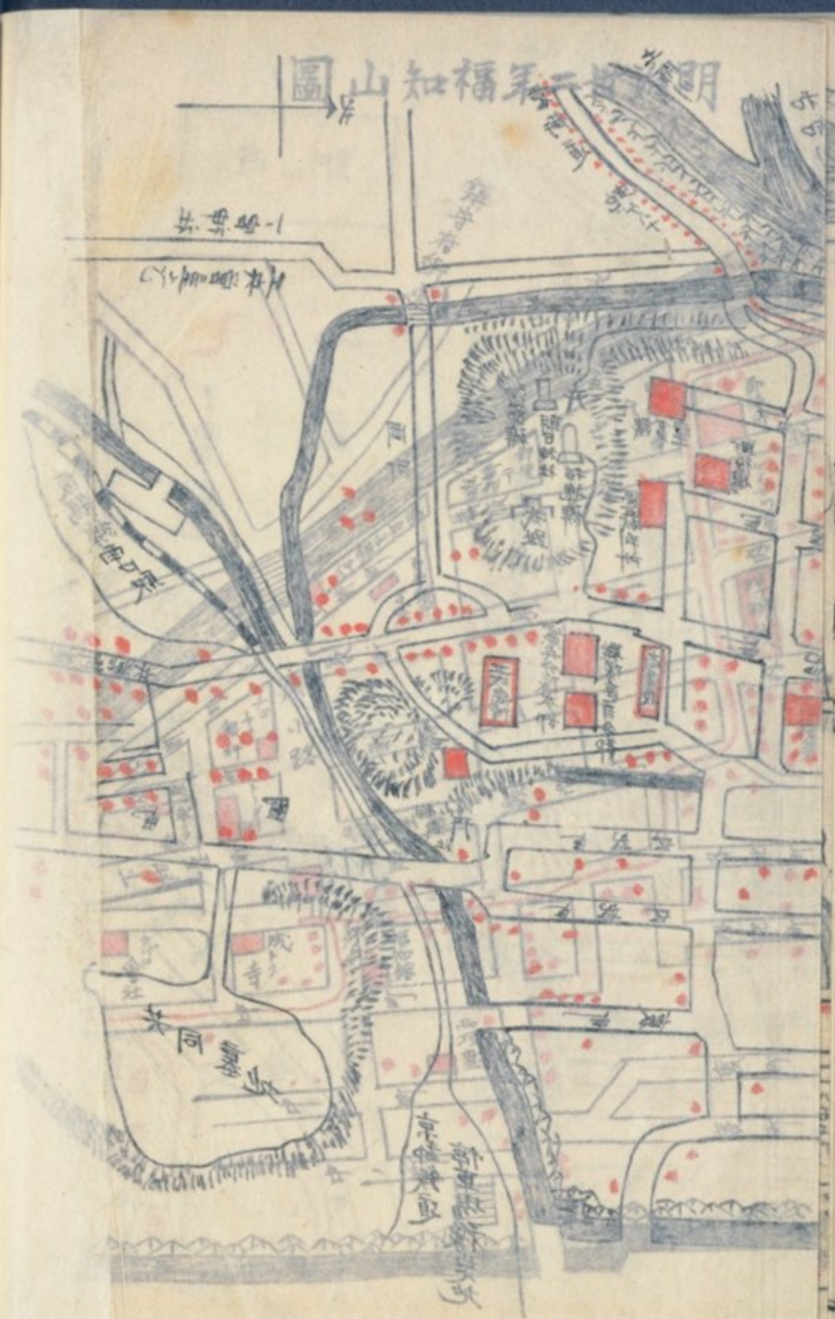
明治廿二年福知山圖



京都府立総合資料館所蔵

近江國　郡小野木村ノ人

ルカハ未詳ナラズ初ノ名ハ清二郎公知又ノ名ヲ
重勝ト云フ長ジテ縫殿助ト稱ス國守波多野ニ隷
シ福知山城主ニ擢ンデラル地士ニ江見源三矢衛
ナルモノアリ重勝コレト郡邑ヲ爭ヒ多方之ヲ蹙
ム源三兵衛孤城ニ據リ降ラズ重勝ノ家人井戸亀
右衛門年甫メテ十七ニシテ者年ニ似合ハヌ強ノ者
ニテ單身敵城ニ潛入シテ之ヲ狙擊シ其ノ首ヲ獲
テ歸リ城陷ル波多野秀治ガ三丹ヲ以テ織田氏ニ
抗スルヤ重勝私ニ東軍ニ通ズ明智光秀コレニカ
ヲ得テ毎ニ勝ヲ制スルヲ得タリ信長丹波ヲ成ゲ
尚福知山ニ據守セシム壹萬八千石ヲ領シ威ヲ近
傍ニ振ヘリ信長亡ビテ豐臣氏ニ臣事ス天正五年



京都府立総合資料館所蔵

討薩ノ擧ヲルヤ軍監ヲ命ゼラレテ叢裕城ヲ攻ムルニカメタリ朝鮮ノ役ニ一千人ヲ帥ヒ晉州城ヲ攻ム関ケ原ノ役將ニ起ラントスルヤ石田ノ黨與大ニ関西ノ豪傑ヲ集メ誘フニ厚祿ヲ以テシ其ノ義擧ナルヲ說ク應ズルモノ爲ニ多シ宣勝亦之ニ應シ其ノ督軍ト爲ル國人藤懸永勝谷衛好杉原長房別所豊治小出吉政之ト同心シ騎卒二萬田邊城ヲ攻ム城丹後ニ在リテ細川藤孝東軍ニ黨シテ守ル宣勝當テ細川氏ニ歃ラザル所アルヲ以テ攻戰尤カム藤孝ハ文武ノ才幹アリ捍禦洽ニ悉ヒ城陷ラントシテ陷ラズ西軍便宣國ヲ築キ漸ヲ以テ迫ル宣勝ノ弟神山嘉三郎其ノ怯ヲ怒リ進ンデ城下ニ迫リ宣傷シテ退ク天使降リテ喻スニ過ニ講和成ル九月圍解ケ城亦開ク西軍関ケ原ニ敗ルヽノ報至ル宣勝使者ヲ馳セ東將伊井直政ニ依リ哀ヲ乞ヘドモ聽サレズ細川忠興弟興元ハ其ノ父ヲ攻メ苦メタルノ怨敵ナルヲ申立テ德川ニ乞フ様ハ小野木逆殿頭ガ居城福知山ハ幸其ガ在所ヘ歸ル道ナレバ歸リ掛ケニ踏潰シ小野木ガ首見テ罷リ通ルベキニテ候フト言上シケレバ家康公モ左様思シ召スヤトアリケレバ慶長十五年十月初旬ニ関原事濟ムヤ否走リテ福知山ニ着シ同十七日城攻ニ取掛カリ只一揉ニト揉ミ立テ城ノ巽ノ方ヨリ差出シ油塙ニ本陣ヲ取ル其ノ下ハ蛇ケ鼻トテ東

京都府立総合資料館所蔵

西引廻シタル大河ノ内ニ堰ヲ造クルヿ故其ノ深キ幾尋モアリヌベシ然ルニ葦アリテ浅ク見ヘケレバ細川ノ先手衆我一ニト飛ビ入ル程ニ若干ノ人溺死セリ後ロ堅固ナル縄ト見ヘタリ忠興コレヲ聞キテ南ノ江ヨリ責メケルニ忠興ノ旧友ナル山岡道阿彌馳セ来リテ扱ニ入リケレバ勝重城ヲ開キ剃髪染衣ノ身トナリ上方ヘト退キケル忠興ノ憤猶醒メズ矢ヲシテ追ヒ掛ケサセ亀山ニテ捕ヘサセ壽仙菴ト云フ寺ニテ敢無ク腹ヲ切ラセタリ法名慮負宗嶽院号ヲ松壽ト云フ（亀岡ノ部参看セヨ）

家臣郡中所々ニ離散シ居民トナレリ

妻古田式ハ織部正ノ妹ニシテ和歌ノ道ニ志厚キヲ聞キ姪モテ縁ヲ結ビケル重勝一日宴ヲ開キシガ其ノ連中ハ小川土佐守熊谷大膳亮宇田下野守木村宗八郎等ナリ此ノ頃重勝ハ小身ナル上貧窮云ハン方無シ坐定マリ人々旁ヲ見レバ翠簾ノカヽリタル所アリ雲上メキタル様ナレバ皆不審ニ思ヒケル重勝人々ニ向ヒ云ヒケルハ愚妻儀モ御會ニ連ナリ度由ヲ申スニ付キ斯クノ如クシツラヒテ翠簾ノ内ニ居ラセヌ哀レ御連中ニ加ヘ給ヒカシトアリテ程無ク歌始マリ食事時分ニ至リシカバ年ノ頃四十バカリノ女サモ氣ナゲナルカ翠簾ノ外ヘ手ヲ番ヘ今日ノ御客ニ饗應ニ参ラスベキ品ナシ如何ニカ計ラヒ申サンヤトアリケルヲ

京都府立総合資料館所蔵

翠簾ノ内ヨリ外ニ丹冊ヲ出サレタリ折柄春雨ハ降リ出デヌ人々ソレヲ見ルニ　月きよし濡る落るれハ春雨のふるやふるとなくうぐひすのなかトアリ良アリテ黒ク焼キ焦シタル餅ヲ反古ニ包ミ折楊枝ヲ添ヘテ出サレタリ風流ノ程コソ面白ケレ夫人ハ夫ノ訃ヲ聞クヤ悲嘆ニ耐ズ自殺セントセシモ婢媼ノ諫止ニ従ヒ其ノ儘寢所ニ入リ暁ニ及ビ其ノ際ヲ伺ヒ絶命ノ歌ヲ残シ又ニ伏シテ殉セリ其ノ辞ニ

鶯のなくこゑおもむく死出の山　さきかけとなれ梅ぞ

ト以テ和漢ノ學ニ渉リシヲ知ル可シ然ラザレバ初五字ハ容易ノ詠ミ出デ難カルナラン清水納言ノ文學ヲ得タリシヤ

有馬玄蕃頭豊氏慶長五年横須賀ヨリ来リ小野木氏ニ代ハル高六萬石豊氏ハ則頼ノ長子天正中従五位下玄蕃頭ニ叙任ス石田三成ノ兵ヲ起コスヤ徳川氏ニ従ヒ下野ニ在リ従フテ西上シ大垣ノ敵ヲ赤坂ニ撃チ之ヲ破ル切ヲ以テ米邑ヲ丹波ニ賜フ慶長十九年休戦ヲ賜ヒ江戸ヲ発シ駿府ニ至ル大坂兵起ルヤ命アリ摂津吹田ニ着陣シ進ンデ天満ロニ陣ス兵熄ミ国ニ帰ル次年ノ役亦同所ニ陣シ同所ニ戰ヒ五十七首級ヲ得タリ出ダス所ノ兵數毎戰三千能ク勉メタリ父則頼金森入道素玄ト德永入道壽昌トヲ合ハセ三法印ト稱セラ

京都府立総合資料館所蔵

レ豊臣氏ノ時ニ大閤ノ相伴衆タリ則頼モ亦剃髪シテ則顕入道トスヲ八十歳餘ノ壽ヲ以テ此ノ地ニ終焉ス時ニ慶長七年七月十七日（上州口村大名ノ天寧寺参照）同十一年正月十九日江戸城経營ノ役起コリ大名十五人役ニ從フ豊氏亦與ル家臣人夫ヲ率ヒ江戸ニ集ル其中ニ福島正則加藤清正等アリ元和六年大阪ニノ丸西北東修築百六十間七尺ノ土功ニ就ク福知山封後町並ノ整頓ニ着手シテ木毛ノ地ヲ區分シ以テ来住者ヲ勸誘シ上柳町下柳町京町鑄物師町ヲ作成シ鍛冶町ヨリ出ツル堀端ニ至ル ノ四ツ切ヲ定メ又御靈口成徳寺口丹後口道仙口（今ノ職人町突當リ）下船戸（音無橋ノ所）善行寺口（中ノ町寺町界）木村口下棚京口魚

ガ棚突當リ（上船戸ノ所）明覺寺口兵助口等ノ地域ヲ定メタリ城内ノ内切通シヲ開ク元ノ伯耆丸ト朝暉岡切拔ノ外ニ在リテ今ノ陸軍病院ノ所ナリ夫役免割ノ法ヲ制ス後世習用シタル有馬驗地法ニレナリ南後福知山町ハ次第ニ開展シ商人四方ヨリ集マリ商勢勃興シ遂ニハ丹波ノ京トマデ謳ハルヽニ至リ夏夜納涼ニ際シテハ流石ノ廣小路モ人モテ埋メラレ飴湯店ノミニテモ到ル所ニ開張スルヲ見テ知リ得ベシ丹後但馬大名ガ此ノ驛舍ニ館スルヤ微行シテ此ノ景況ヲ目擊シ語リテ曰ハク福知山ハ何日通リテモ祭禮ヲシテ居ルノカト以テ其ノ一端ヲ知ルベシ

京都府立総合資料館所蔵

岡部内膳正長盛元和七年亀山ヨリ来リ代ハル高五萬石寛永元年大垣ニ移封ス亀岡ノ部稲葉紀通ハ藏人越智道通ノ子ナリ道通ハ矢庫頭童通ノ嫡男ニシテ童通ハ伊豫入道一徹ノ二男ナリ道通ハ伊勢國多氣渡會兩郡ノ領主ニシテ岩出城主タリ関ケ原ノ戰ニ東軍ニ屬シテ功アリ徳川ノ勸賞ヲ蒙リ田丸ノ城ニ移リ慶長十二年二月十二日卒ス年三十八其ノ時ニ紀通南メテ五歳迷ギ立テ父ノ後ヲ繼イデ年十三大阪ノ役ニ隨フ童名大夫松平下総守忠明ニ女通姫ヲ以テ之ニ妻ハセ舅壻相携ヘテ戰場ヲ奔馳シ十級首ヲ提ゲ徳川氏ニ献ス豪宕ノ氣業已ニ顕ハル元和二年舅氏大阪城主トシテ赴任スルヤ紀通ヲ摂津ノ中島ニ置キ自分ニ男子無キヲ以テ嗣トセント欲シ之ヲ看護輔導セリ寛永元年紀通ニ從五位下淡路守ノ任叙アリテ福知山城主トナルヤ氣滿チ心驕リ慶安元年妻女ヲ離縁シテ愛妾ニ耽溺シ奢侈ヲ事トシテ收斂ヲ重ク シ往来人ヲ捕ヘテ逆使シ意ニ怡ハヌ者ハ刑ニ處ス故ヲ以テ領民嗷々トシテ悪聲街ニ盈チ臣士亦夏ノ暴役ニ堪エズ翹ニ方ニ離散セントス訛言アリ福知山藩謀反スト近傍近國ノ城主其ノ境界ヲ守リ急使ヲ発シテ之ヲ京都所司代ニ江戸城ニ報ズ紀通近隣諸藩ノ来リ攻ムルト誤聞シ城郭ノ修築ヲ爲ス徳川氏ノ淡京阪以西ノ城郭ニ付キ修繕

京都府立総合資料館所蔵

ノ必要アルニ於テハ所司代ノ許可アルニ非レバ
看手ヲ許サズ紀通ガ恣ニ之ヲ爲スヲ以テ近隣諸
大名連署シテ之ヲ訴フ丹後宮津藩主京極高廣ハ
境土相接スルヲ以テ使命相通ズル年アリ一日紀
通特使ヲ以テ物品ヲ贈リ丹後國産ノ生鰤ヲ乞ヒ
求ム高廣冷笑シテ曰ハク彼レ吾ガ國産ヲ乞フ是
レ或ハ以テ權貴ニ賂ハシガ爲ナラン好シ〳〵其
ノ裏ヲ撥イテヤルベシトテ百尾ノ鰤ヲ贈リ言ハ
シメテ曰ハク鰤ノ不用ノ所ハ之ヲ除キ去レリト
紀通其ノ籠ヲ開ケバ鰤皆頭無シ大ニ怒リテ曰ハ
ク何シゾ吾ヲ侮ルノ太甚シキ必報ユルアラント
偶〳〵丹後ノ士祇役シ江戸ニ赴クニ此ノ地ヲ過

グ紀通コレヲ聞キ銃ヲ手ニシ城上ヨリ之ヲ擊チ
數人ヲ殺シテ快哉ヲ叫ブ此ノ報忽チ四方ニ聞コ
エ流言百出ロ耳相屬スヨハク福知山侯及スト城
下ノ農高其ノ堵ニ安シズル能ハズ紛紜元奮愈甚
シク事ニ由リテ近臣ヲ手及ス一藩洶々言論沸ク
ガ如シ紀通始メテ怕レ救治ノ道ヲ所司代ニ謀ル
其ノ答ヘニ曰ハク自首シテ老中ニ陳謝スベシ他
ニ良方無シト使者未歸ラザルニ城下ノ民荷擔奔
馳日一日ヨリ太甚シ曰ハク近隣諸藩ノ兵幕命ニ
由リ來リ討ツト紀通恐懼シテ曰ハク我ヲ亡ボス
乎ト倉皇城ヲ出デ所司代ニ陳謝セント馬ニ跨ガ
リ京ニ入ル所司代板倉周防守重宗令シテ曰ハク

京都府立総合資料館所蔵

此ノ如キ軍事上ノ件ハ大阪城代阿部産次ニ出訴セヨト乃ヲ南下セントシテ途中ニ自殺スヒヲ聞クヤ士卒離散シ城中人影無シ而シテ人民始メテ安堵シテ業ニ就ケリ時ニ慶安元年四月廿日紀通四十六歳ナリ一説ニ云フ紀通ノ為ニ罪蒙リテ惨死セシ者ノ遺族等ガ如何ニモシテ報イバヤト申シ合ハセルガ如ク領主ノ有ルヿ無キヿヲ言ヒ振ラセ謀反ノ企アリナド其ノ證據ヲサヘ擧ゲ城郭ノ修繕ニ事寓セ高櫓撞キ揚ゲ其ノ處ヨリ鉄砲ヲ打ツコト正シク反逆ニ相違無シナド言罵ルヿノ次第ニ高ク四方ニ聞ヱ中ニハ今ニモ打手ノ大名ガ攻メ来ルト騒キ立ツルモノカラ紀通モ氣味悪ク今ハ吾ガ身ノ為ニ申シ聞キシテ見ント大阪城代ノ許ヘ出行ク用意ヲ為シタルニ又思ヒ返シ迚モ逃レヌ運命ナレバ恥ヅカシキ死ニ様センヨリハ快ク自害セバヤト火藥マキ散ラシ吾レ死ナン後ニ火カケヨト令シ腹撞キ切ツテゾ失セタリ近臣其ノ命ニ從ヒテ火ヲ懸ケタルニ燃エ揚ガラザリシトナン男子二人アリ兄ヲ竹松ト云フ四歳ニシテ死シ弟大助幼稚ニアリ稲葉美濃守正則ヨレヲ保管ス父ノ謀反ハ實ナラザリシヲ以テ其ノ資財ヲ相續セシメラル同四年三月疱ヲ病ミ四歳ニシテ五月其日死ス或ハ云フ紀通城中ノ書院ニ自害シ近侍ノ士小原小文治殉死ス紀通ノ將ニ死

セントスルヤ從容筆紙ヲ持チ来ラシメ左ノ一種ヲ懷紙ニ書ス

ちはやをはたとしの聖系よすつるもゝ弥出乃三隆ハ我と小方治

山城ノ妙心寺ニ葬ル

紀通在城中工役　大阪城本丸二十六間三尺一寸七分ノ土工

同　山里丸摩面七間六合ノ修築

紀通ノ免定メ

一高七百十三石五斗八升三合

町分取四百六石七斗四升三合五勺七分

一高十七石九斗六升

同開分取七石一斗八升四合四勺

一高二石五斗四升七合

同川端開取七斗六升五合三勺五分

紀通ノ家臣所トナルニ付城地受取トシテ柏原藩出張シ藩主ノ本陣ハ根原口門ニ留マリ先手物頭石塚三太夫一軍ヲ引率シテ本丸ニ入リ城内ヲ隈ナク巡檢スルニ浪士輩ノ影ダニ見エズ此旨ヲ郎時特使モテ京都所司代ニ報告ス　幕命アリ代官彦坂平九郎小川藤九郎兩人城代トナル番城タル事數閲月ニシテ柏平主殿頭忠房参河苅谷ヨリ移封セラレテ来リ四萬五千石ヲ領ス

引渡目録届書ハ代官ヨリ新領ヘ差シ出セルモノ文面左ノ如シ

引渡目録之覚

一　弓　三百張

京都府立総合資料館所蔵

一　矢　矢ノ根共

一　弓　絃

一　鑓

右

慶安二己丑年四月　　小川藤九郎　印

彦坂平九郎　印

松平大炊頭殿

右事件勃發シテ人心洶々諸大名ニモ疑心暗鬼ノ折柄ナルヲ察シ老中ヨリ左ノ達シアリ

今般稲葉淡路守妻ヲ使理ト家人五氏ヲ殺害する由ヲ以て存るめして糺問せらるべきを兼ねて奉書を下されしに二十日に堪ずして自殺せり今後世上に於ける府こめさらま紀察せず刑に處する事あるまじられハ各心得違あるべくこのうえ

松平主殿忠房ハ慶安二年ヨリ寛文九年マデ領主トシテ在城ス其ノ間ニ領内雀部ノ孝子蘆田七左衛門高助ヘ賞金免租等ノ事アリ（雀部村ニ出ダス）節婦ヲ表彰シ式内名神ノ社ニ田地寄附等ノ事アリテ荒乱政刑ノ舊弊ヲ一掃セリ

寛文七年丁未ノ巡見使

幕府ノ盛時ニハ巡見使ヲ發シテ地方政治ノ良否ヲ檢察セシメ隱密トスルヲ名義ニテ内々探偵セシム巡見使ハ旗下士ヲ以テ之ニ當ル寛政以後ハ有

京都府立総合資料館所蔵

名無實トナレリ可惜了ニ社　巡察使ノ報告ハ一
藩ノ興廢存亡ニ関スルヲ以テ出迎ノ使者ヲ発ス
ル見送リノ役人ヲ出ス茶菓酒食ノ饗應等其ノ意
ヲ迎クルニ汲々タル様ハ今日ヨリ想像スルニ餘
リアリ次ニ出ス所ハ當時ノ宿割及ビ附ケ役人名
前等ノ書類ニ係ル

御宿　扇屋左三郎
亭主　佐渡屋善次郎
御用聞　菱屋藤右衛門
同　竹屋彌右衛門

甲斐左喜右衛門様

御宿　扇屋仁矢衛
亭主　扇屋庄右衛門
御用聞　枡屋喜右衛門

神保四郎右衛門様

御宿亭主　亀山屋甚右衛門
御用聞　門垣屋與一郎
同　菱屋平右衛門

烏居權之助様

當藩ヨリ御馳走役トシテ出迎見送ノ役左ノ通リ
出役シ或ハ機嫌ヲ問ヒ或ハ壽問ニ答ヘ求ムルモ
ノアレバ之ヲ調達スルニ付小役人多分ニ附屬ス

家老　板倉八右衛門
松平勘解由

京都府立総合資料館所蔵

年寄　與平九郎右衛門　酒井彦右衛門
目付　三浦八矢衛　鵜殿七郎右衛門
町奉行　浅井十左衛門　川井三郎右衛門
徒歩目付　三人　下目付　三人
名主　又兵衛
同　彌兵衛

右之衆中門垣屋與一郎度ハ晝夜御詰様子伺有之事

移封ノ際拔擢セラレタル者　忠房治政十九年ニシテ寛文九年六月八日肥前國嶋原ニ移ル其ノ際天田郡前田村愛宕山別當岩嶺山雲前寺住職三世中川清存ガ武道茶藝ニ熟達スルヲ以テ島原ヘ召シ連レニ成リ二百石ヲ給セラレ士分トナル　又

長田村ノ百姓高橋惣右衛門次男小作ニ有用ノ材アリトシテ召シ出サレ百五十石高ナリシヲ三百石迄ニ登庸セラレ是亦召連レラル

入部　領主ガ始メテ領地ニ入ルヲ入部ト云フ其ノ式最モ嚴重ナリ嗣子ガ先君ニ續ギ初メテ領地ニ臨ムモ亦同ジフナリ朽木信豫守植昌ガ入部ハ寛文九年八月廿八日ニシテ前城主ナル松平主殿頭忠房ヨリ本城ヲ受ケ取ルナリ是レヨリ先キ主殿頭ハ幕命ニテ肥前國嶋原城ニ遷ルノ際殘コレ置ケル城代ヨリ同六月八日ニ朽木家ニ尤木村與右衛門ニ授ケ其ノ日ヨリ朽木家ノ城トナリシナリ

京都府立総合資料館所蔵

入部式

先手

組頭　木村與右衛門　騎馬　旗七本　但し三組

人數十四人　弓三十張　但し二組　人數三十人

鉄砲八十挺　但し四組　人數八十人　九藥箱附　長

柄五十筋　但し一組　人數五十人　騎馬　但し一組

人數三十人　以上　同勝郎百人　但小者共

中軍先手

持筒十五挺　彈藥管　騎馬　川嶋惣右衛門　持

弓十挺　矢筒共　騎馬　中目權兵衛　纏壹本

取次役　騎馬　朽木朝右衛門　近習　古賀新平

志村甚兵衛　小姓　津村左之助　古賀角蔵

高松新之丞　小納戸　近藤助左衛門　吉澤小兵

衛　馬廻　本郷喜右衛門　中島又左衛門　木村

貞右衛門　九鬼彦右衛門　中小姓　菅谷兵左衛

門　服部權右衛門　柏井安太夫　山中助太夫

服部與右衛門　野澤猪右衛門　飯田新右衛門

川村勘兵衛　尾嶋彌兵衛　建部儀太夫　高桑馬

醫　佐藤小右衛門　坊主頭　大木正悦　坊主

大山與齋　河合意三　市川久賀　小姓頭　騎馬

田中權右衛門

中軍

引馬五疋　馬取十六人　持筒二挺　三人　立弓

一張　二人　具足二領　六人　甲立　一人　指

京都府立総合資料館所蔵

物持　一人　狩箱四荷　八人　蓑立　一人　立
傘　一人　臺傘　一人　鑓一對　三人　大鳥毛
二人　歩行三十人　但小頭二人　出人六人
内目付三人　長刀一振　一人　枕鑓一本　一人
駕一挺　十六人　十文字素鑓　三人　草履取
四人　引馬二疋　六人　象眼馬　四人　茶雜
當　二人　葛籠馬　二人　長持五棹　十七人
騎馬小姓　榊原甚之丞　田口齋宮　遠藤八郎
太田山三郎　小姓頭騎馬　森傳兵衛　歩徒頭騎
馬　後藤重兵衛　川邊安右衛門　家老騎馬　飯
田嘉右衛門　馬役騎馬　土屋八郎右衛門　醫師
和田柳菴　奥村千菴　坊主頭　岡田圓齋　本

締役　多胡喜兵衛　目付役跡押騎馬　後藤左
衛門
後陣
小荷駄　長持　兵粮　道中掛役人　宿泊小休用
掛諸役
惣人數　四百五十人　費用金五千兩
以上
領地高三萬二千石、此ノ實收豐凶平均三萬六千
俵　銀納若干　城下六十四村　人家七百二十戸
人口三萬六千人　維新前宗旨帳
一高七百三十四石〇九分　福知山町
一高五百二石四斗九升二合　木村

京都府立総合資料館所蔵

一高六十八石五斗八升六合　南岡村　但シ木村ヨリ渡ル
一高二百七十一石八斗五合　同村
一高千六百五十二石　堀村
一高二百八十七石　岩間村
一高四百五十一石五斗　多保市村
一高千三百六十三石五斗　長田村
一高五百五十八石　土師村
一高千六十四石二斗二升　内三十二石九合御藏入　前田村
一高千七十石　井嶋村
一高九百石　中村
一高四百五十七石八斗　池部村
一高二百四十一石六斗三升五合　下天津村
一高九百二十三石二斗五升　上天津村
一高百四十五石三斗一升五合　漆ヶ畑村
一高七百四十六石　牧村
一高百十石　立原村
一高二百四十石　十二村
一高四百十八石　下山田村
一高六百二十五石　上山田村
一高二百八十石　田和村
一高三百四十石　宮垣村
一高二百四十石　猪野々村
一高二百五十石　梅谷村
一高五百五十三石五斗二升五合　額田村

京都府立総合資料館所蔵

一高三百四十一石四斗七合　井田村
一高三百九十三石四斗四升　今西村
一高九百十石　畑村
一高千六百九十六石　直見村
一高六百五十九石四斗二升九合　板生村
一高六百五十四石　平野村
一高二百六十二石　小倉村
一高四百石　大油子村
一高二百八十三石九斗六升六合　高内村
一高二百二十六石三斗四升　末村
一高五百六十四石　日置村
一高六百六石　千原村

一高二百十石二斗二升八合　下尻村
一高三百六十五石三升五合　小牧村
一高五百五石一斗一升三合　詫村
一高五百三十石六斗一升三合　樽水村
一高五百九十九石一升三合　畑中村
一高二百三十七石一斗八合　北山村
一高二百六石　石場村
一高九百石　榎原村
一高九百八十三石　拜師村
一高四百三十石　大門村
一高百三十一石　和久寺村
一高四百三十石　奥野邊村

京都府立総合資料館所蔵

一高五百八十石　半田村
一高四百三十二石　新庄村
一高五百四十四石七斗二升二合　鳴谷村
一高八十三石三斗五升一合　小野脇村
一高八十九石九斗三升　市寺村
一高百二石八斗五升　室村
一高百十一石三斗六合　正明寺村
一高六百十五石　笹尾村
一高三百七十七石　岩井村
一高五百七十石二斗九升　荒川村
一高二百七十七石　厚村
一高百四十石　和久寺村 再出高相違

〆三萬八百八十九石八斗
江州高嶋郡千百十石二斗　實際二千石餘納貢
内譯
一三百七十石六斗七升五合　元古賀村
一二百十一石四斗一升五合　長尾村ノ内
一四百九十二石五斗　東万木村ノ内
一三十五石六斗一升　追分村ノ内
〆三萬二千石

玄米一石銀納相場

寛政三年亥　四十七匁　同十一年未　六十四匁　同十三年申　六十八匁　享和元酉　四十六匁
同二戌　五十九匁　文化元寅　四十四匁五分　同二　三十七匁五分　同三年　四十三匁
文化四巳　四十九匁　同五年　五十三匁五分　同六年　五十一匁　同七年　五十五匁五分

京都府立総合資料館所蔵

文化八年六十七匁　同九年成五十二匁　文政十年五十匁　同十一年子　七十匁
同十二年六十四匁　天保元　七十四匁　同二年六十四匁　同三年六十六匁
同四年九十七匁　同五年　七十一匁　同六年　七十六匁　同七年　百四十匁
同八年九十二匁　同九年戌百三十匁　同十年　五十九匁　同十一年子　五十九匁
同十二年　七十匁三分　天保十二寅六十匁　同十四年　七十五匁　同十五年　七十三匁
弘化二　八十三匁五分　同三年　七十三匁五分　同四年　七十七匁　嘉永元甲八十匁五分
同二年　九十一匁　同三年　百三十七匁　同四年　七十六匁　同五年　八十三匁五分
同六年　百一匁　安政元寅　八十一匁　同二年　六十四匁　同三年　六十六匁
同四年　九十一匁　同五年　百二十五匁　同六年　百十四匁五分　萬延元年百四十五匁
文久元年百三十一匁　同二年　百四十三匁　同三年　百七十五匁　元治元年百四十八匁
慶應元年四百三十匁　同二年　壹貫目　同三年　五百六十匁　明治元年壹貫四匁

金銀相場

安政五年十二月廿七日　金壹兩　銀七十五匁五分　札七十七匁一分
同　六年十二月二十九　同　同七十五匁　同七十六匁五分
萬延元年十二月廿五日　同　同七十七匁五分　同　同新
文久元年十二月廿七日　同　同斷　同七十八匁五分五厘
同　二年十二月廿八日　同　同百匁　同百二匁
元治元年十二月廿七日　同　同百匁　同百十三匁七分三厘
慶應元年十二月　日　同　同百十五匁五分　同百十三匁七分七厘
同　二年十二月　日　同　同百二十匁　同百二十三匁四分五厘
同　三年十二月廿五日　同　同百三十五匁　同百三十七匁八分
明治元年十二月六日　同　同不明　同二百三十匁
元相場　金壹兩　銀六十匁　壹分銀十五匁　大本相場　金壹兩銀百匁

京都府立総合資料館所蔵

- 植綱（民部少輔）
  - 植昌（伊豫守）
    - 植武（和泉守 周防守）
      - 女子三人
    - 植元（民部少輔）
      - 植沿（土佐守）
        - 迪綱（任織）
          - 綱貞（大炊頭出羽守）
        - 秀直（土屋兵部少輔 土屋山城守 綱直養子）
        - 女子六人
      - 植綱（伊豫守）
        - 玄綱（土佐守）
          - 綱貞（大炊頭出羽守）
            - 舗綱（伊豫守）
              - 昌綱（隱岐守）
              - 榮綱（杉木修理 杉木直之丞養子）
            - 彦三郎（松平彦三郎 松平仲養子）
            - 熊之助（牧野熊之助 牧野傳藏養子）
            - 乘保（松平能登守 松平能登守乘薩養子）
            - 女子五人
          - 舗綱
          - 女子二人
  - 三浦志摩守 安次家
  - 内藤右近太夫 政親室
  - 木下右近太夫 親長室
- 昌綱
  - 倫綱
  - 女子二人
- 恒之助（早世）
- 倫綱（土佐守）
  - 女子二人
  - 綱方（土佐守）
    - 女子二人
    - 綱條（信濃守）
      - 綱紀（近江守）
        - 綱張（近江守）
        - 紘綱（河内守）
          - 鮮吉

京都府立総合資料館所蔵

柴田喜五郎室
大久保仁三郎室

昌壽 丹後守
米倉丹後守昌俊養子

一說 植綱―貞綱―元綱―植綱 氏郡ヲ輔
一ニ植綱 一ニ晴綱

藩主継承次第一覽表

植綱 植昌 植元 植綱 植治 玄綱 綱貞 鋪綱 昌綱 倫綱 綱方 綱條 綱張 紘綱 鉐吉

朽木家由緒事情畧載

朽木氏ハ宇多天皇系ヲ昏フス天皇ノ御子敦實親王ヨリ八傳シテ佐々木源三義秀ニ至リ其ノ孫信綱近江國高島郡朽木庄地頭職トシテ近江守ト稱ス曾孫義綱朽木ヲ以テ住處トシ之ヲ氏トス源姓タリ時ニ弘安二年ナリ其ノ十一世植綱（一ニナセトス）ノ時ハ後奈良天皇ノ享祿元年ニシテ畿内大ニ乱レ室町將軍義晴遜レテ朽木谷ニ至ル植綱幼名彌五郎前將軍義植朽木氏ノ世忠ヲ嘉シ諱ノ一字ヲ賜ヒ植綱ト稱セシム特典ナリ植綱將軍ヲ迎ヘ其ノ邸居ヲ仕フラヘ讓リテ御座所トシ又更ニ新館ヲ造リ以テ奉シ款待極メテ厚シ將軍心地ノ善ゲニ逗

京都府立総合資料館所蔵

留シ歸洛ノ後モ朽木家ヲ最頼モレゲニ思ハレ石
レテ侍衆ノ役ニ候セシメ柳營申シ次キ七人ノ一
ニ選バレ信濃守ヲ名乗ラセ又出羽守ニ改メラル
天文八年六月將軍父子又モヤ京亂ヲ避ケ八瀬山城近江
ノ界ニ移ルト聞クヤ兵ヲ率ヒ馳セ將迎ス之ヲ暫シ
テ穴太山中ニ奠ス吊禮供奠ノ式リト懇ニ營ミヲ
當時大臣ヨリ僕隷ニ至ルマデ君臣主從ノ道泯滅
シ只自分々々ノ利慾ニノミフケリシヲ植綱ハ大
義ヲ重ンジ忠節ヲ抽ンデヲレバ其ノ聲望世上ニ
マチ〳〵ナリケル公子義輝元服ノ式ヲ擧グルヤ
石サレテ式列ニ加ヘラル子晴綱天文十九年高嶋
越中守ト俵山ニ戰ヒ之ニ死ス將軍義昭ノ時ニ柳

營無シ本國寺ヲ以テ假館トス而シテ輔佐其ノ人
ニ乏シ逆黨三好ノ黨コレヲ窺ヒ襲フ元綱憂ヲ聞
キ馳リ來ル織田氏ノ兵ノ平グル所トナリ將府寧
キヲ得タリ將軍元綱ノ忠精ヲ賞シ歸フニ吉光ノ
鍛刀ヲ以テス織田氏コレニ副フルニ若干件ヲ以
テス皆得昂カラザル所ノ物タリトシテ元亀元年
春織田信長征越ノ擧アリ淺井長政江師ヲ以テ其
ノ後ヲ窺フ信長怕レテ諸軍ヲ委テヽ路ヲ湖北ニ
取リ湖西ニ沿ヒ京ニ入ラントス元綱コレヲ聞キ
直ニ兵ヲ率ヒテ之ヲ迎フ信長ソノ軍容ノ嚴ナル
ヲ視テ其ノ志ヲ疑ヒシカフ何事ゾ其ノ物々シサヨ
ト松永彈正少弼ソノ意中ヲ察シ申ス樣ハ某罷リ

京都府立総合資料館所蔵

向フテ心ヲ引キ見候ハン若シモ心変ハリノ様見
甲シタランニハ其差シ違ヘテ死ニ候ハンズトテ
行キ向ヒタルニ元綱頭ヲ兜ヲ脱キ棄テ弁ヲ退
ケ其ノ真心ヲ表セシニ由リ信長ノ疑心茲ニ晴レ
其ノ將迎ト其ノ饗應トヲ享受シ途ヲ急キ京ヘコ
ソハ入リニケル世人愈〳〵朽木家ノ世忠ヲゾ賞
讃ス信長薨後ハ心ヲ豊臣氏ニ傾ケ征韓役ニハ士
卒三百ヲ以テ肥前ノ行臺ヲ護衛シ大政所ノ看病
トシテ秀吉ガ歸京スルヤ留守在陣衆タリ慶長五
年大閤ノ葬式ニハ供奉列ニ加ヘラレ素袍烏帽子
着用徒歩百人ヲ隨ヘ伏見ヨリ京都東山ヘ供奉セ
リ　関ヶ原戦役ニハ元綱ガ元来東向ノ志アリシ

ニ妻孥ガ西軍ニ質タルヲ以テ心ナラズ西南大名
ト共ニ石田ノ催促ニ應ジテ美濃ニ出陣シ松尾山
ノ麓ニ至ル南宮山ニハ小早川秀秋在リテ早クモ
志ヲ東軍ニ通シ朽木軍ニ牒シ合ハス所アリ大戰
起コル東軍旗色悪シ、脇坂赤座等南宮山ヲ出デ
東軍ヲ襲撃セントス東軍ノ旗頭藤堂高虎大旆ヲ
打振リ相図シテ約ヲ履マシメ西軍ノ裏切ヲ爲サ
シムヲ令ス猶以テ心元無シトヤ同族藤堂新七郎
ヲ来ラシメ之ヲ促ス是ニ於テ朽木軍其ノ旗鼓ヲ
以テ西進ス東軍コレニ勢ヲ得テ大ニ西軍ヲ敗ル
衛来徳川氏ノ臣籍ニ入リ一父三子其ノ命令ニ服
従ス近江丹波ノ地合セテ五十一村高九千五百九

京都府立総合資料館所蔵

十餘石ノ朱印ヲ賜ハル豊臣氏ニシテ永ク天下ヲ
保メンカ十數萬石侯タルベキナリ大阪再度ノ役
ニハ東軍ノ爲ニ大和ノ暗がり峠ヲ扼守セリ元和
二年四月元郷京師ニ住スナニ月誘伴衆ニ匿マル
德川前將軍薨ズルヤ剃髮シテ名ヲ牧齋ト改メ其
ノ喪ニ服シ志ヲ表シ主恩ニ答フ特志トヅ聞ヲ卫
シ前將軍秀忠將軍家光ト共ニ水戸邸ニ臨ム特召
アリ召サレ相伴ス是レ寛文元年ナリ九年八月卒
ス壽八十四歳三子アリ宣綱友綱植綱ト云フ宣綱
ニハ六千四百石友綱ニハ二千石餘植綱ニハ千二
百石ヲ分領セシム牧齋ノ遺志ニ從ヘルナリ而シ
テ牧齋ノ隱居料トシテ加賜セラレアリシ三千二

百四十石ハ長子ニ歸セシム可シトノ恩命ニ浴セ
リ法眼長久院殿福峰米德大居士福峰ハ領邑ノ名
ヨリ取リ米德ハ其ノ實齡ヨリ取リ生前ノ自選ニ
係カル宣綱ハ大阪冬夏兩陣トモ永井直勝ノ手ニ
屬シテ闇がり峠ヲ守リテ實戰ニ臨マズ功亦無シ
毋波七大名其ノ六ハ山村ニ城郭陣屋ヲ構ヘ城下
ノ人民多クハ半農半商ニシテ都邑ノ色無シ獨福
知山ノミ城邑比較的ニ開展シ北海ノ通航アリ河
川ノ漕運アリ商稅征スベク漁利博スベシ朽木氏
ハ何ニ由リテカ天惠地利ノ具有セル所ヲ德川氏
ヨリ得タルカ譜代ノ臣ニアラズ況シテヤ反感ノ
志ヲ懷ケル侯伯ノ一ナルニ於テヲヤ關ケ原ニ於

京都府立総合資料館所蔵

ケル及旗東向ノ赤ニ殼井タルモノ乎其ノ故邑ヲ
併セテ襲領セシメタル如キ一ニ何ゾ僥倖ナル然
リト雖ドモ幸榮ハ臣士ノ心操ヲ放逸ニシ遊惰ニ
流レ猥褻ニ陷リ少年ニシテ早クモ土手ノ遊郭ニ
足ヲ運ハセ武備ヲ忽諸ニ附スルノ傾向ヲ生ジヌ
ト

民部少輔植綱　幼名彌五郎父名ヲ襲ギ長ジテ植
綱ニ改メ曾祖父ノ名ヲ襲グ元和四年九月一日家
光將軍ノ爲ニ大名旗下ノ中ニテ幼時ノ御伽衆ヲ
撰ミ彌五郎モ兒小姓トシテ召シ出ダサル年歯十
四ナリ同九年上洛ノ供奉負トナリ叙任アリテ民
部少輔ト改稱シ寛永元年堀田正盛等五人ト營中
ノ事ヲ執リ六人衆ト稱ス若年寄ノ前身ナリ九年
番士ノ登營日々其ノ署名ヲ爲サシメ之ヲ監督ス
ルノ役ヲ命ゼラル寛永八年五月小姓組番頭ニ十
年七月ニハ出張番頭ニ累轉シ十年六月二十九日
弓銃ノ事ヲ司リ十一年ノ上洛ニ隨ヒ十二年三月
與力同心ヲ附ケラレ十三年八月十日加增セラレ
下総國食沼一萬石ノ下賜トナリ茲ニ始メテ藩主
トナル十五年參者職ヲ命セラル參者トハ幕中儐
贊ノ丁ヲ掌リ將軍ノ出座大名ノ謁見公卿神官僧
侶旗士由緒アルモノヽ召見等ニ祥謁者ノ姓名献
品下賜品等ノ目錄披露ヲ爲ス等ノ事ニ當ル紋付
黑羽二重長上下ヲ着用ス慶長八年二月本鄉庄右

京都府立総合資料館所蔵

衛門ノ就職ヲ以テ其ノ姓メトス左右衛門勝吉ハ
其ノ祖父治部少輔信吉以来室町家ノ奏者ニシテ
古式ニ堪能ナルヲ以テ命セラレ自後朽木家ソノ
傳ヲ得テ世々之ヲ勤ムルコトハナレリ二十年九
月二十日命アリ一萬石ニ三十人ノ割ヲ以テ夫卒
ヲ出ダシ大名ヲ四隊ニ分カチ十日毎ニ交代シテ
江戸ノ火消組トス由リテ九十人ヲ出ダス
正保三年柳生但馬守宗矩ノ病ヲ訪ヒ其ノ死スル
ヤ阿部忠秋久世廣之ト共ニ其ノ葬事ヲ管掌セリ
蓋シ名家ナリ宗矩ハ剣術ヲ以テ将軍家光ノ師範
役ナルヲ以テ其ノ式ヲ鄭重ニシタリ萬治三年十
二月十三日五十八歳ニシテ卒ス芝泉岳寺ニ葬ル

※者一萬石以上十萬石迄ノ大名之ヲ命ゼラル定員十四名

法名豪徳院殿雄山良英大居士文政七甲辰年十一
月十一日福知山城南旭岡ニ移靈シテ之ヲ神祠ト
シ朝輝社豊磐植綱彦霊神トス（下文参看ノ）
伊豫守植昌初名維殿助季綱嫡長子ヲ以テ嗣グ寛
文九年六月八日五千石加賜合セテ高三萬二千石
ノ城主トナル此ノ加増ハ先人ノ忠勤ニ由ル歟然
ラズンバ代替ハリノ加禄ハ例ニ乏キナリ爾後世
々相襲ギ番城モ居城トナリ終ニ朽木家所有ノ如
クナレリ　第則綱ヲ舊住地ナル近江北ノ荘ニ置
キ二千石ノ知行所主トシ幕府旗下士ニ列セシム
江戸ニ常住シ和泉守周防守トモ稱シ子孫相續キ
明治維新ニ至ル則綱石州流茶事ニ精通シ又學ヲ

京都府立総合資料館所蔵

怡溪ニ受ケ老後澤翁ト號ス植昌其ノ薫陶ヲ受ケ點茶翁トナリ其ノ技ニ精通ス　正德四年二月廿三日卒ス年七十二施政五十七年寛永五戊午年六月廿五日隱居改稱逢殿助　法名隆德院殿馨隱自居大居士　位階ハ從五位　官務ハ參者　地位ハ雁ノ間　男子四人　民部少輔植元土佐守植治伊織迪綱土屋民部少輔秀直（土屋山城守朝直ノ養子）　女子六人　松平兵庫頭乘純ノ室　次ハ松平主水ノ室　次ハ松平久米之助室　次ハ松平主水室　次ハ近藤宮内室　次ハ藤堂源五郎室　植昌施政五十餘年間ノ出來事ヲ畧載セバ延寶五年丁巳四月城下大火民家士舍悉皆焚燬士民ノ困難過大ナルヲ以テ今村四郎左衛門急騎東上ス　救恤大ニ勤ム士民怨嗟無シ　新ニ防火池ヲ穿ツ之ヲ溜池ト稱ス城下ノ中央ニ在リ東西一町半南北十五間　年ヲ經ルコト百五十年ニシテ埋モレ大半平地トナル是ニ於テ城下人ノ願ニ由リ平地トシ人民ノ住所ニス人民怨出シテ之ヲ就ス之ヲ嘉永年間ノ丁トス

延寶八年後水尾天皇崩御幕令ニ由リ香資ヲ奉ル將軍家嚴有院將軍ノ法要ヲ行フニ由リ銀三枚ヲ供ス嚴有院諱家綱

延寶八年霖雨洪水城下死者百二十三人村落不詳

天和元年餓莩城下村落ニ累々タリ　是ハ前年ノ水禍ヲ以テ田禾皆亡スルヲ以テナリ難民一人毎

京都府立総合資料館所蔵

ニ米五合ヲ給ス強者ハ與カラズ

享三年丙寅三月十八日上新町民家失火延燒數十戸同十一月紺屋町民家失火ニ百五十戸ヲ燒ク元祿五年四月廿一日降雹梅谷猪野ヲ害ス甚シ城下ヨリ村落ニ及ブ迄人民ノ困窮年ヲ逐フテ太甚シク米銀ノ貸與ヲ乞願スルモノ日ニ代官所ニ至ル町民ノ證文左ノ如シ村民ノモノ亦同ジ之ヲ畧ス

御米借用之事

一御米三百俵也　代銀

右之御米慥ニ拜借仕候事實正ニ御座候然ル上ハ來ル酉六月限代銀無相違上納可仕爲後日拜

借證文仍如件

元祿五壬申年十一月　町年寄　三右衛門

同　忠三郎

同　三郎右衛門

同　庄三郎

名主　與三右衛門

同　甚右衛門

廣札　同年十月町人疊屋新右衛門藩札廣造ヲ以テ斬首セラル首謀者ナリ從犯二人ハ片鬢剃落トシ追放セラル

櫻馬場　十一年戊寅三月九日竣成

一里塚　十三年庚辰鎮内ニ建設旅人ノ便ニ供ス

京都府立総合資料館所蔵

幕令ニ從フナリ（船井郡園部村十軍谷ノ部参看）

水道　同年袋町堀ヨリ十六軒町ヲ経テ迂廻シ鍛冶町ヨリ廣小路ヲ鑿堀シ水ヲ引ク近年火災頻發スルヲ以テナリ

宗門改　耶蘇教嚴禁ノ爲ニ宗門改役ヲ置キ町村ニ其ノ下役人ヲ置キ其ノ有無ヲ檢視セシムルハ當時ノ政令ニシテ町村ニ死人アレバ之ヲ奉行ニ届ケ其ノ宗旨寺院ヲ示シテ邪教徒ナラザルヲ證ス寺社奉行ハ時々臨見シ寺僧ハ其ノ檀家ニ注意シ生死轉居養子縁組等アル毎ニ寺證文ヲ以テ異教徒ナラザルヲ證シ寺送リ狀ヲ以テ送籍寓留ヲ證ス是レナキモノハ他所ニ旅行来往シ難シ藩士ハ此ノ限ニアラズ　寛永十二年六月付々々ヨリ令ヲ下シ邪教断絶穿鑿ノ下ヲ命ズ前後誅死セラルヽモノ九二十八萬人トヲ

同十五年嶋原ノ乱平ク愈〳〵天主教ヲ嚴禁シ九月二十日令ス同宗門ノモノト缶モ許人致スニ於テハ其ノ罪ヲ赦スト（総論参看）

元禄年間宗門改役

朽木平左衛門
土屋藤左衛門
綿屋小兵衛
銭屋仁兵衛
立原屋市兵衛
門屋平右衛門

京都府立総合資料館所蔵

刑罰　指物屋　仁右衛門

此者丹波國天田郡福知山町職人ニて候處切支丹宗門ニ由訴人有之候故江戸表へ可差越ニ旨從井上筑後守（江戸役人）申進來候ニ付正保三丙戌年相渡於江戸籠舍ノ牢屋被仰付御詮議中ニ寅三月十一日年令（齢カ）ノ暑不知牢死致候父母舅姑相知不申候

以上

千村二十萬人ノ内ヨリ一人ノ異教者ヲ出ダシタリトテ何程ノ「カアラン然リト雖其ノ時ノ事情ハ容易ナラズ人ヨリ人ヘ村ヨリ村ヘト傳播シ國乱ニテモ起コリシカト疑ハルヽ有様ニシテ其ノ取沙汰ハ丹波全國ニ廣ゴリ當地ノ町奉行所ハ勇ノ湧クガ如ク下役人ヲシテ隱密ニ取リ調ベヲ爲サシメ往来ヲ監察セシメタルナド今日ヨリ視レバ一場ノ滑稽ナリシ「舊記ニ見エ道々ニ番所ヲ置キ旅人ヲ一々改メタルガ寛永十八年五月十四日廢止

遠慮

多田助左衛門

右者播州赤穗藩士集と緣者なりしが此度復讐として高家吉良邸へ夜打を爲し御勝元を驚かせたるを以て親類ニ康乗遠慮可仕事

士分ノ刑罰ハ切腹改易閉門蟄居遠慮等トス遠慮ハ最軽ノモノトス右ハ自分ヨリ伺ヒ出デ指令ヲ

京都府立総合資料館所蔵

受ケタルナルベシ刑期ハ三日十日又ハ一ケ月計リ外出對客除髪ヲ許サズ一室ニ閉居ス

地震　同十六年癸未十一月廿三日強震城内石垣上塀等崩ル人畜ニ害無シ

酒造株改定　同月廿五日領内酒造株主ヲ左ノモノトス

扇屋庄右衛門　扇屋源六　扇屋又右衛門
扇屋庄三郎　扇屋太兵衛　門垣屋與一郎
門垣屋小兵衛　門垣屋三郎右衛門　塩屋三右衛門　竹屋長兵衛　竹屋平助　鉄屋仁兵衛　絹屋久兵衛　佐渡屋庄九郎　播磨屋長九郎　以上拾五株右町方

上天津村　治郎右衛門　牧村　治兵衛
額田村　藤兵衛　同村　源兵衛　同村
權之助　同村　宇右衛門　荒川村　半四郎　以上六株右在方（但藤兵衛權之助ハ二人ニテ壹株）

御靈神社　勅請　寶永甲申ノ歳　宇氣毋智ノ神ヲ祭ル

鉄砲改　證状ヲ差出ス　享三年

民部少輔植元　寶永五年父ニ継ギ城主トナル

寶永七年幕府ヨリ巡見使來ルニ付左ノ物價表ヲ進達ス

覺

一米壹石　銀四十九匁

一金壹兩　銀五十八匁
一大豆壹石　銀四十匁
一醤油壹升　錢五十一文
一金壹兩　錢四貫就百二十九文
一上酒壹升　錢八十四文
一味噌壹貫目　錢壹貫百文
一油壹升　錢九十三文
右之通當所只今ミ相場ニ御座候

寅六月十九日
洪水　享保六年辛丑閏八月十五日　大川水嵩一丈八尺欄杆門倒ル　京口堤防決潰ス
享保六年十一月廿四日虎ノ門邸ニ卒ス年五十八
治政十四年間　信仰ニヨリ本所靈光寺ニ葬ル法名鏡心院殿清源湛水大居士
朽木伊豫守植綱　父卒去ノ翌日叙位相續　享保十一年五月五日虎ノ門邸ニ卒ス年齢十九法名玄奥院殿健嚴良性大居士
朽木土佐守植治　享保十一年丙午五月十一日嗣ギ立ツ
孝子　木村ノ民長次郎ニ白銀二枚ヲ下賜ス
福智山ノ智ヲ知トス
檢察トシテ來ル　同十七年幕府代官備米
寛保元年辛酉七月廿八日卒ス隱居後十四年　麻布光琳寺ニ葬リ泉岳寺ニ改葬ス　法号常知院殿

京都府立総合資料館所蔵

孤峰無英大居士

朽木土佐守云綱　初名出羽守　松平兵庫頭系統

ノ子ニシテ養嗣子トナル

船株ノ事　願書ト裏書ノ事

一洪水ニ節御用船名主船頭三人出ル様ニ

仰付奉畏ル依テ船持共願之通船家譜ニ

仰付難有奉存ル然ル上ハ末々迄為申傳

ル作恐御裏書印頂戴仕度奉願ル

右之趣宜敷御披露奉願ル　扇屋嘉兵衛

元文巳二月十七日　船頭　粧屋小兵衛

加葉屋又五郎

名主　市兵衛殿

名主　三右衛門殿

裏書之通相違無之ヒの之

巳閏十一月　中野半右衛門　印

朽木善右衛門　印

以上　外十二名

延享三年十月十一日判物朱印ヲ下賜セラレ登城

御禮老中部ヘ廻禮

寶暦二年年貢米十分ノ一貯藏スベク幕令アリ

同三年四月同令アリ　同五年六月米價高直下々

難渋ニ及ブニ付圍米拂下可致幕令アリ由リテ之

京都府立総合資料館所蔵

ヲ行フ　同八年寺社奉行トナル　此ノ職ハ寛永
十二年ニ始メテ置カレ天下ノ神社佛寺神官僧侶
ノ支配ヲ掌ル政事上宗教ニ管スルヿヲ掌ル　九
年閏七月病氣ニ付免役ス
御靈神社祭禮執行　從前福知山町祭ナリシヲ改
メテ公祭トシ自後年々祭費ヲ藩費トシ士卒ヲ派
出シ警備ノ事ニ任ズ人民ノ出願ニ由ルナリ
十一年五月幕令アリ萬石以上ノ諸藩ハ一萬石ニ
付籾千俵ヲ凶ニ置クベク達セラル　十二年三
月凶籾新穀ヲ以テ詰替フ可ク一萬石ニ對スル千
俵ハ前令ノ如シ
明和二年二月十日逝シ寶暦十年同十二年詰替ニ

ナリタル分賣拂可爲勝手事
明和七年庚寅八月晦日櫻田邸ニ卒ス年六十八七
男五女アリ七男ハ前ノ系圖ニ出ス長女ハ間部
主膳正詮史ニ嫁シ次女ハ柴田左京ニ三女ハ松平
集人ニ四女ハ朽木權佐道綱ニ五女ハ内藤大和守
長宏ニ嫁ス泉岳寺ニ葬ル法名德温院殿俊山良哲
大居士
朽木出羽守綱貞　玄綱子無シ支家迪綱ノ子ヲ以
テ入リ嗣グ迪綱ハ初代植昌六世ノ孫ニシテ旗下
士ナリ　寶暦八年十一月四日相續從五位ニ叙ス
實父ハ石州流ノ茶ノ技術ニ堪能ニシテ風流ニ富
ム　其ノ子トシテ夙ニ家庭ニ學ビ儒學ヲ木下梅

京都府立総合資料館所蔵

渓ニ書道ヲ冷泉流ニ受ケ畫ハ狩野風ヲ慕倣シテ
獨特ノ妙ヲ描ク領内社寺ニアルモノニハ曽我五
郎象馬　一ノ宮神社額　福知山　雪中常磐　愛宕神社
前田村　神馬　荒木神社　曽我井村　鍾馗ノ懸繪　庵
我神社　菴我村　獅子　天照神社　下冨田村　命名ニハ
長田ノ養老水　下六人部村　三千池　菴我村猪崎等参
銘酒菊の露　米や茂兵衛カ初めて製れる　山人乃打神にほふきくのつゆ
うちそそぐすもゝ代ハ経ぬべし
銘酒長月　カ茶屋与兵衛乃製れる　くむ人乃袖もさそふ月のまくらの川乃きくのしたぬれ
同玉椿　吉田三右衛門　若竹　塩や嘉兵衛　養老　門垣小兵衛　花橘　米や孫四郎
初尾花　辻三郎右衛門等製品ニツレ〳〵特種ノ銘ヲ命ズ
安永九年庚子八月六日隠居　天明八年戊申五月
晦日卒去生年七十六靈岸嶋箱崎町邸ニテ終焉ス

泉岳寺ニ葬ル法名寂了院文英義光大居士
朽木伊豫守鋪綱　玄綱ノ子　綱貞ノ養子タリ
安永九年八月叙位任官　天明七年丁未九月二十
日城中ニ卒ス歳五十八土師村圓覺寺ニ葬ル法名
德壽院殿本覺桃源大居士
朽木隠岐守昌綱　綱貞ノ子　鋪綱ノ養子タリ
天明七年九月叙位任官　此ノ秋巡見使来ル左ノ
書付ヲ出ダス

覺書

一町家　九百十九軒
一同人數　三千三百二人　男千六百六十二人　女千六百四十人
一領分酒屋　二十一株　町方十四株　在方六株　一株休

京都府立総合資料館所蔵

一町高七百三十四石九升
一當町寺　十箇寺
一御城　壓六町餘　横東西四町計
一高山　神南山　千年山　鬼ヶ城山
一名物　栗　山椒　蕨
一丹波鄕高郎拾八萬五拾七石
一米壹石代　七十三匁
一白米壹升代八十匁
一大豆壹石代八十匁
一小豆壹石代七十三匁
一酒壹升代　一匁一分四厘
一油壹升代　四匁九分

一金壹兩代　五十六匁二分
一金壹歩代　十四匁五分　此銭壹貫四百五十壹文
一銀　九十八匁
一歳粉一升　一匁七分

右

米價問合ハセ　寛政八年丙申九月幕府勘定役勝與八郎當所本陣ヘ出張シ大辻小兵衛方ニテ米問屋米商人ヲ呼出シ今後毎年十月藏米收納度ノ端米ハ町方ニテ買收シ其ノ平均價格ヲ定メ問屋ト商人ノ連名ニテ京都小堀代官所ヘ届ケ出ツベシト命ズ

文武奬勵　岩溪帶刀又ノ名大掾ヲ聘シ講筵ヲ開

京都府立総合資料館所蔵

キ臣民ノ教育ヲ施ス

武術公開　從前他流仕合ヲ禁ジタルヲ今後何流何流ヲ論セズ武者修行トシテ来ルモノハ之レト立會フコトヲ

目安箱　丹後ロ京ロノ二所ニ之ヲ置キ士民ノ投書ヲ受ク

此ノ君ハ文武諸技ニ往々其ノ妙境ニ入ルノ概アリテ當時ノ大名中此ノ君ニ比肩シ得ルモノ無シトテフ

号龍橋　寛政天明間古錢流行ス錢癖家數十龍橋ソノ癖タリ出雲藩侯松平不昧公ハ風流大名ノ稱ヲ得タリ此ノ君コレヲ師トシテ其ノ藏奥ヲ叩キ遂ニ之ヲ鈴木宗得有馬涼竹ニ授ケ二人ヲシテ風流宗匠ノ名ヲ博セシメヌ又古錢ヲ愛翫シ能ク之ヲ識別ス常ニ勘定方諸役人ヲシテ金錢出納毎ニ珍貨ノ有無ヲ調査セシメ奚類ニ逢ヘバ之ヲ進供セシムルヲ以テ座側ノ奚錢毎ニ堆ヲ爲ス尚以テ足レリトセズ鑒識者ヲ聘シテ四方ニ探究セシム一局ヲ邸内ニ設ケ吏員ヲ置キ幕府ニ請フテ其ノ舊記ニ徵セシメ之ヲ其ノ有識者水戸加治木ノ領主其ニ質シ人力金力ヲ吝マズ年月ヲ積シテ其ノ完成ヲ圖レリ此ニ於テカ半兩貨布貨泉ノ外品ヨリ和銅開珍ノ内稚ニ及ビ珍奇ノ阿堵物一邸ニ集輯ス天明以後古錢集輯ノ流行スルヤ之ニ從事スルモノ江戸ニ幾十百人アリテ此ノ君ソ

ノ頭袖タリ中谷顧山ハ有名ナル愛読家ニシテ孔方鑑珍及ビ貨鑑等ノ著アリ世譽リ其ノ名鑑ニ販セシモ此ノ君ノ為ニ其ノ誤謬ヲ指摘蔑掘セラレテ顔色無カリシトテフ新撰錢譜泉貨鑑寿錢奇鑑等ノ著アリ圖象ヲ掲摹シテ上木シ貨泉ノ形影ヲ了然タラシムルハ此ノ君ニ濫觴ストカヤ　二男前ヲ二女　長女蔣田連三郎室　次女松平正次郎室

倫綱　土佐守　寛政十二年庚申正月嗣ダ嗣養子ナリ

出火出水　享和元辛酉年七月二十日鑄物師町ヨリ出火シ四十九戸ヲ焼キ同夜豊留村大水損害太甚ク人民活路ニ泣ク為メニ救助米ヲ下ス

村民教育　自著岩間の水ヲ以テ講書トシ臣下ノ文字アルモノヲシテ同ニ年三月ヨリ村々ヲ巡回教育セシム左ニ其ノ全文ヲ掲グ　下六人部村ノ靈泉ヨリ名ヲ取ル　参看スベシ

岩間乃水

紀ニハねんごろニ殺し兄弟中よく夫婦むつまじくくらすこと和らぎうたがひなくやうニ旅く言ひ合せて夢にそのを後乃人とゝふなる家ゝみさくゝえる孫の繁昌する基と是うすぎ氏ゝと日出度なりとゝ歌をそゝつゝ殺し兄弟中あゝく夫婦むつまじくすゝうずかりそめるも後だちつゝうて家内こゝ

ゝあるハ人乃形みゝて人の心あゝく鳥けだ

ものも同じまうて京乃宿屋に泊りて暮
と銘々ふくみかくべし　はなは紀のたまもとなれ
ば已がんめまゝみすべくうらぶれかなまな
りて紀ゝかうもみもひかくもかもひかくもかもひかくべ
しとふく考くそんよ叶ひなふやうよいうすはゝ
春生の紀ゝ以ふまでもなく空しくなりて芸の下
ゝ埋れ居る紀ますてもうらうらぶべし紀のうらうらぶ
やうみすまを考ゆとゆふそのうらうぶやうよす
るゝ紀のかゝふるを中一とすると紀乃かなか
るとふゝ廃へば何場へ参宮すると道すがら在
所のまを思ひ味の深きとく登れば山吹の方を
ふゝうくり大うゝ父ゝ喜うるを喜じて伴旅へ出

たるが宮あて鈴も多く起き夜も遅く夜さぞ夢所
見ん何とぞ乃も毒ある母乃しあと中よく参宮を
祈さこのゝと思ひかうるべし又毋ゝ伴紀のまを
まなれ参方へ出るが旅ふきぬとのふれば さぞ
何のまつきうれるつうきゆゝ思ふべしと風のふ
きるのふうるも吹集し過ゝて神や仏よ祈ふるど
ゆゝ　あらうべゝと思ひやゝ　長祈ふこげすを案じ
くれうるゝまを思へばとゝ逢ずうて妨ふゝ又ゝ
百度ゝ祈伏ぞをしてはのエ人祈をかけてとか
らぞ一ゆるうるも多く帰りてあ結をまをうこと
びの新を又とたべるのまるも案をつけ又案
うありて服のうつまあるとも恐忍をして方をつ

しみ侍るべく事のやうなるものを以ふみうくよ
人乃紀のかゝやみよあらねども こをたとふるべくは迷ひぬる哉
と以ふめく紀のみを男ふゝたとくん方もふく侍よ
男ひもうらぬるまでを雷じ姫ふとのあれバいさ
きらのもうも人をつけて素の以たるぬやうよゝ以
たるらべし
年寄りたるものゝ次第なる絵べものゝ風俗もまつ
ぐ又ゝ一しほあつく考むく覚ゆるとの
のなれバ考るものゝ数をもつぎたるものを若よ
づきものをも絵べ平し姫思をして絵べものも年
寄のたぐうきうみさらく夏ゝ涼しく冬ゝ温
うみるやうゝ以くし考きゝ物をどゝ様文人をつく
べし考きゝ姫思をいうきで色ゝ年寄ゝらくを
させるるきくし
多き人のかうも七十八十すぐもうとぶくゝまれ
なる事あれバ年寄りたる紀あるうれゝ春ゝぐく
嘆しく男ふべしされども年の寄るましたゞひ衆
もうくなり目もうまく耳もとほく足とをなど
あしきを考てゝ紀迷もこをとをふれたるへうと
しくなられうるゞいつまでも側よつきをひ紀ふ
夕をのきふしのまゝもしして乗をきもせめてゝ
ヨう生れてうう苦ひはぐくみ出をいうよいつも
懐ニいうき褒めもし以うまして姫之のたき若芳
をも厭りず人に逆しくれらもたる山ゝうも言く

京都府立総合資料館所蔵

海うも例を恩をかしなうとも返へ〜たく思へ
ども其日やうすうてゝもうを恩をうへを日数も多く
あるをもしく永き世かうこのれうも経過てうんうと
一つこゝ祝の心を保をて命のもをうちうこび又
一つよゝ祝乃心をういのうたうをうへたるを事ゞた
そのを諸る一日〜と日のたち時乃うつるをも惜
みの命〜思ふ心をてつかふる時ゝ竹紀もよく
わきをうぎき祝のうちうこびゝ以ふるでもあく一家
祝歌をるようちうびて孝乃とと人をいうをうを抜た
をうべし
情愛をうを好むうものゝ術をるゝ生れるをうの水
ゆもをあをその方乃ををうを祝是乃も皆数〜こ

あううろ〜とさうをひをたてゝ以ので なうたる
や知るうをもを孝く諸に情えうせをるごとく産れ
をるうとゝ祝ゝ生産をの墓不るゝでも孝給るれば
誰ひとう問ひ弔ふ者もなく苦れひ〜ちやり屯
けらの位のうをう又位ある家ゝ人のをようう
或ゝうをうをづを知るいたし霊祭をうの者とと
生えうをて生ふうもなきやうをふるうをうつを
くと思へゝあをれ例を病からぼうも生えを
次第あう太のるを祝太の例ををるれぞ又山仮を
つぐてたるをれく捨てうをうも仏をを卒れて例をゝ
祝を思ひ生をたる星ををひ〜く思ふ故をうとふふ
事をうをて人も生れを祝をしたひ生をたるを生

京都府立総合資料館所蔵

不を歎く男ふ人のなりさとにいあしされどんむ
とつのもちかくるを紀元弟に強をさせ芝紅ようつぐ
きくる古き家をも跡方見もならやうにいたるる氏
上もなく不孝なる銘にふく情に常に人やすく出
なるものいんをつけはのやうの事なるやうの故に
べし
紀元もしんねちうひあしきるならば機嫌のうき
時分を見合りてよくいひきうべし紀元とし服
立ものして考紀元の事をいめるも時にまづだ
まして代人をつけねんぢうに殺し又きんのうち
時分にいひ出さべしうやうよ義兵も来ればいるる
紀元も感ようびんを改むべしすべて紀元

あるさとのいなくたのあしき事をするも多くい
るの動の方れ屆うぬ故なりと知るべし　年齢
りたるものいたりの村の家と思べし為をとれい
はの奉たるの時命に生きまくるとれば人々の衣
新たべるの家兵をどを奉とい思とぶ筆計のうきを
見くくべてに不足にのみ思はのようもすく殺し
故人ありて後こに弟代を取れし田畑をすうるあり
されども年齢たるものいあ方乃約すしくむぎうよ
をして農業を精出したる事をうく以ひ少まれば
人の為方を切新まく思ひ人を改めて耕作に力を
以色家をうくおちて紀元に家伝をさせるとなる
りはお何うるつけ重要に法令まれば人れるうと

事多し美きを好み作るものも年貢を守合きべし　長多たるものは養生のためおしい酒をたべるものは酒と毒とを身の大毒と知るべし然に多の人うきと思ふべし　長百姓は田畑を多く持ち農を自分作るとは解り多も作きうきうのある故百姓の解けて耕作をいたさせるものなれば百姓をとがめの是なく乃ち大切に思ひ田畑乃免合は以ふ近も長く減免の元引につきても氣づよきを持ずおとなしやうよ者く動作を如きべし又百姓は長百姓の田畑をあづかりもかうげうて耕作を如しあ後くも のなれば百姓をとが致のめく思ひ如し又

よ政きべくのうれ村を人の身に廢つて又ハ百姓ハ頼ふ百姓ハ手足なる百姓を百姓をうく いたうう立れくやうよあ計らふ時ト百姓他づうたあり田畑をも多く作り又肥料も作きお のづうち作り物の出来ものよく田畑をも加長百姓の世話もおく又是うもなるうき村が うよある事ハつきたる目ようく物を見て手足の種俵を及さ如やうよ者ロうてハすく物をた べて手足乃かうらい如抜よいうす時ト手足おの つうち大夫にうよく働き立居ふうひ百田 るくしてら多すくやのなるる田ど又長百姓たの いくうう立すこてある姓立ちゆきうあるの時ハ田

物をも多くに好作らんに成ては入料成も好商うに成して自ら作物の出来るも何しく田畑をする加様を
と出る時の共労をあづうう所よい長百姓も共に
三四のぬやうよう村がらもあしくあり中々事頭
みつきたる日いふさぎみて手足の疲れをもおそ
事をかすそずロハいよのをたぐずして手足よりの
らさつけぬ時ハ手足弱やせかりへ或い経
我ありどきしてゆ働うぬ加之春百姓ハ
ハ手身疲るに日ど
らハしきるあれバ手足も共にくるしく手足よ痛
あれが所も共にあやむごとく長百姓ハ
う時ハ下百姓の身ものうう下百姓困窮をすれバ

出る姓のいろみるもきうるあれバ手和を洗ようく
ハ好てあるたにめきなれ可らず 俵しも俵さ
ずしていきらぬるるう右ハなるうたを身農業をお
こうう又ハ飯を食ひるあるごうて俵食をかしたら右ハ
御ごうさし差しを力身物ふう又ハきあらぬ災難
る逢ひうん どちらるく金物をかるうよもあるべし
不仕るる事ようう金を惜しきうたものハ人を殺ふん
を平一るもうて殺仕るるうものハ殺殺をいたらし
ぬやうハ人ぶくるこそ天道るも けひ悔きて家と
きうあべし貪窓の人あるて三利をうう殺仕るる
うあく四和山林をとを見ぶけるま乃ちうう上の
もの手伝みもう男ひきううねて鬼や角というすを

京都府立総合資料館所蔵

少しは意恕の心なく勢係み倦怠をの中跡をいを離
きせ田畑山林を多くとり集め田畑を耕といえれ
て志ゝ新なるい人もなく取くきをの跡をいい天
罰のこれうくかるべし　衣服たべをの家所なる
ど以つとなく奢ゝがの しくをを費多き所自然困
窮を及しかりろへたる村がらもあり新きく及び
其家の男ふをを実級中年ゝ
名俗ゝ作作出るい　百姓ゝ俗い
藩級を者ゝ髪をもらを以て つをなかるを古年の
風俗ゝ以登近年以つとなく奢を長ど自分の格を
高もあおを ゝ不法者用い者ゝ髪も油を結を用
ひをお百姓いみの笠のゝ用いかるを変常ゝい

年分を用ひ右を過ひかて次第ゝ夢用し人用多
くあ取かるを村柳も衰ゝ新数改しかを成れ一人
致新数かるを右ゝ者年貢ゝ返納柳ゝ雑納ゝ成村
方新俗ゝ年貢ゝ右ゝ示をのため代皮
を代出ゝ新ゝ俗藩貢ゝ中原しかるゝを代すら右
ゝ通の上ゝ百姓ゝ百文ゝ少したるとも書ゝ
古代ゝ俗ゝ印紙ゝ百姓ゝ飾業の為ゝ新ゝ
新又ゝ村ゝ髪結床ゝ有ゝ俗ゝ不時のをゝ
以年番ゝ百姓俗ゝ段ゝ過ゝ奢ゝ及農業をゝげみ
をゝ　右ゝ所新浦ゝ新ゝ言ふをゝ考ゝ
の柳領ゝ　福田原ゝ　ゝ有り
ゝたゝ百姓ゝの珠数をを出ゝ有ゝ

も世の中ハ老人並ハまちぬものなれバ一統の者
うつりて心ならず流されしと見えたり何事俄か
る者ハかしも世なるとうそうらだ村ミうてよく云ひ
答らせ何事も可成丈ハ昔の振を手軽く先達作る
事すべしおよも言ふめく以つとなく寄り来るす
於若き者ハ御案りとハ思はず昔の掟を事すり殊
まふつらく老紀なる事と思ふべし去りなから然
多年を寄せて親族なる若又居祖父之祖先の極息
以たし若したる事なれバその子孫たるものゝなど
つとめざるべきやされバ自ら困窮をも致さず村
ち作へたる田地家禄を手放す事もなく又此うけ
あき孫や子を奉公ニ他国へ出しみず知らぬの他人

ゝかけうきつらき目を見するも有るまじき一
つるハ先祖ヘ之孝行まゝ子孫への印も顕るゝ
庄屋役人並百姓ハ村の和事あれバ程是よく心得
年寄たるものゝ申合せて百姓ゝ先だち
候よう致 御出ら御法を守りうつくおこなふべし 公
庄屋役人並百姓ども百姓と同じく掟自身御さ
耕作を致すべし長じ者よく御ゆけバ其下ハ程文身
を勤めて田畑の手入作念なく[illegible]不なく
よき村柄となるべし 庄屋役人其心得あし[illegible]
きバ忽一村の難儀となる事疑なし都而一村
不和ニして公事出入あるハ其村滅亡の基と知る
べし 人の不幸を根ニ持られ己が欲を欲くべしの

京都府立総合資料館所蔵

らぞ己天を行りて衰葉乃如く除念なるものいや天
の惠あるて飢さぐゆるほどの程度に至らぬる疑
なし此の乃理を解へ知らずして己の貪慾のみす
るづのものを爭ひつのりて五人班いふ迄もなく
村の乃外とりう大野と名そのうちを費し耕
作よりをられまどするいたりひ道理によりもんな
のようらぬるえすして生産の術を解すいに怪変あ
しきを知らずかゆうの者あらば記之次并に仰記
の者うく以ひのきべし己れなりも恩を第一と
致すべき者なり　乃姓いに農業の外稼あなし者
ひゝ利潤を望むんあるいを考ふ初とらべし蠶
うひも宜敷きゆるれども厚く部弁を防すべきも

のゝ　古き話よりどが嫁菜むしのを菜の中へ
直を帰りて我と似よゝと云ひて育つる時いそのの
菜虫のを似我嫁ゝるるゝ云ふるあり人のるもそ
の如く紀乃義乃元名をせかゝみてよくもあり
しくもなるとのるあれバあるを持ちたるものいを能
くんなて教ゝまく知き物に遠く離て農業を勧む
るを結く見名をし之紀ゝつゝきたる古き家乃
云つまても喜へ由情を致すべし　女いに紀の四
ゝ乃らはいに紀之中の言ふ拾ふ話し嫁入して聲
貿易の云ふ拾に成しを多りていてるがるの言ふ預
ゆ致すべきものなり　生年いに為を女性紀之中の月
をかゝるき見びるらぬるを防し身を云ゝづらに

京都府立総合資料館所蔵

打つ者多くある新手きたべり諸に与戰のかたぐ
も四とるうていとうくてきう所年之都て何を知
らぬ女ゝ必嫁入してまを立ねるれきど世年為つ
るけゝ然るくて〻世家ハならぬとあくんをさし
きるみこゞ俳るきう俳をゝ舅夫をなゝゞしろに
いくく又継子あれバ仇ろくみのめく思ひうゝべる
ハ結きるうをくを四れるゝ むおくあるう記るの
恩愛をいつくくるる霧いきくうも考く家四られくみ
るくて四畑山林の争ひも敢まやうこくあるものの
と知又支たるるめ人ゝあるべきるる 村の四に
俳家やをめみまくど又ゝあるき病をるて新作
もぬいくくず考て結俳るる者あらバ結く言ひ伝

せて人をつけ粉集ゝゝ結まぬ敵をゆ及び世乃上
きるく考ぞくく思ふるこ是ゝ底伝紙人妖め一統乃
人ゝ見ぬ宮くきあくと又も考くく嫁くきるに思ふく都て
人を敵ひ助くるゝ人ろ為くうるもなくて天乃
へくゝ和ゝ思ふべし 俗るるもねぢけもとりて
人乃邪魔を路くく又ゝ人のあるく結るる事を路く或
ゝ目に立ちたる風俗髪つきなどをして人のうる
さうりゝ世ゝ通すをバ結きるると思ひ通ゝ者をき
言いるゝハ笑すれ者くかやうの者あらバ記乏
世ハ言ふ逆も考くんゆき友達ども言ひ少る路あ
きるべし あるも現る通ゝ記る考をつくし
目うくなる者をうやまうゝ好ゝ上なる人るさかうふ

ものあるものなどさうらふ人をみるべきあるべきを
おるべき都の方姫君の御中に有る對し乳母なるべし
さのみ殺し中しつくるといへどもとうく切られうど
の目上なるものをうやまふべきもの級人
の中しつくる事をも用ひずこれ別なる人なき
うらふしうしの畢竟
仏法を他宗に及ぶもあるべきの悪
しき業をも殺すべし成生へ手れを殺したるものは
ものあれば天下一統定まりたる法なれ
のものなれば勿論他の家中の人と以ありとも其
れ殺さるべし他家の侍も之
あるべき事なれば家臣級人長の姫君伊勢を申し訳と

未だ長崎遠も今慰のわらやうを申し出の出るべ
きのをかつかしきものとあれば何者に出べし殺
なれば生村に人の人も出るものなるべ力
を入るべし　旅人の他の欲の者をもかしもの
なる殺すべきなれ　我家に切られうどるものあれば
下の殺人もなるべき申しなんぢたる事あらば少
しも慰るべく申し出づべし事なりと見る給
と入出かくべし　欲分し者は何我家がみのの如
くなるべきなるものと明けくれ男あまく是
うも知るべ　ねんごろみ殺し是中うく夫婦むつ
まじく俗物を第一として事実なる者の意うう
如やうたくものもたくべきやうみ殺しうるこば

京都府立総合資料館所蔵

せよ又拙作をもてはやし世に弘しと教ふるもの
はあるを存じ奉りて守るべき旨を申すあり

享和二年壬戌乃至[illegible]

本右ハ享和二年十二月廿日年三十六泉岳寺ニ葬
ル法名義運院殿忠山成功大居士　二女　長女板
倉城中守勝資室　次女木下大和守俊敬室
村木土佐守綱方　昌綱ノ子ニシテ嗣ク先君ニ子
無キヲ以テナリ文化七年九月幕命ニ由リ粂米三
千俵ノ貯藏ヲ爲ス一万石ニ付一千俵ノ割合ナリ
同八年八月令アリ豐年ニ付去年置米ノ外粂一千
俵貯蓄スベシト　文政二年己未七月十三日鍛冶
町ヨリ出火シ類焼數十百戸ニ殆ントス從前火災
毎ニ類焼多キハ藁葺屋根ノ多キニ由ルヲ以テ自
今藁葺萱葺杉皮葺ヲ禁シ一切瓦葺トスベキヲ命
ズ營繕ノ資カナキモノニハ代金貸與ノ法ヲ設ケ
其ノ旨布達ス町奉行山縣直右衛門ノ懇諭ニ由リ
數年ナラズシテ殘ラズ瓦家根トナリ火災ノ延燒
ヲ免ル丶ヿ巨多ニシテ他ノ城下ニ希ナル美觀ヲ
呈スルニ至レリ　文政三年庚辰六月三日退隱願
濟　天保九戊戌年二月廿一日江戸大久保邸ニテ
卒去ス退隱後十九年齡五十一泉岳寺ニ葬ル　法
名泰運院殿壽山春齡大居士　遺命ニ因リ奥野邊
長安寺ノ後山ニ碑石ヲ立ツ下豐富村長安寺記事
中ニ其ノ文ヲ出ダス　在世中文學ヲ以テ藩士ヲ

京都府立総合資料館所蔵

特勵シ學校ヲ起コシ其ノ子弟ヲ從學セシメ大ニ
藩習ヲ更革セリ今ノ福知山町立學校惇明館ノ名
ハ其ノ遺物ナリ左ニ其ノ記文ヲ載ス

惇明館記

福知山老侯之始立也篤志治務欲躬行以率先士民
以其教化之本在學校也乃命營一館於城西以爲講
習之所選選人材任學職使闔藩子弟日就業於此名
此館曰惇明初　德壽公在天明中既有黌舍之舉時
稍選其名將用惇明字館未成而　公則逝矣今從其
遺意乃以此名之事在文化二年乙丑矣既而　老侯
以病致仕二十餘年物換時移而此館弗替　今侯克
繼前志其於學政也將　其未盡之旨以脩明之館偶

未有記因屬坦記其所以名館與所以修明之以諗士
子也顧坦嘗受知於　老侯於　今侯最辱眷愛今日
之徵安可辭哉乃爲之言曰學校之設所以講明夫人
道也人道有五曰父子曰君臣曰夫婦曰長幼曰朋友
此天下之達道也其德有三曰知曰仁曰勇此天下之
達德也其所以講明之者亦有五曰博學曰審問曰愼
思曰明辨曰篤行此爲學之條目也古之教者以此爲
教學者以此爲學則德成而材達體立而用行人倫明
於上而小民親於下乃至於上下相輯而信以惇禮俗
相與而義以明士民翕然興起於仁義之風者其不此
之繇乎書惇信明義　先侯之所取以名意蓋如此士
子其可不知所從事乎雖然猶有可言者今之講學者

京都府立総合資料館所蔵

誰不謂以明倫爲本而其所爲率不過口耳講說而已故其聞見之博講說之辯亦惟埒於道聽塗說或甚至於長傲飾非而無補乎教化萬一則學校之教遂爲虛設焉耳矣其必以身心講明之而後見其學問思辨皆爲篤行之所在乃等知行於同功撰身心於一體是今侯乃所以脩明之々意士子其亦可不知所務焉乎抑余爲士子申言之曰爲學苟在口耳而已則講明惟此館而足耳必以身心矣則朝書暮起居食息無所適而非講明之地則無所適而非惇明之館也士子其視家以爲此館可也視國以爲此館可也是則余之所以詒士子而乃今侯之望於士子即老侯之所以設此館也士子其識之哉

天保二辛卯十月中澣　江都　佐藤坦謹記

朽木隱岐守綱條　綱條三女子　長女牧野遠江守康哉室　次女諏訪因幡守忠誠室　三女朽木山城守綱美室　綱條ノ養女實ハ妹ニシテ養子綱張ノ室　倫綱ノ子ヲ以テ嗣グ　文政七甲申歲十一月十一日城南岡ノ餘ニ於テ祠宇ヲ草創建造シ豐磐植綱彥ノ神靈ヲ齋鎭祀祭ス朽木家本城ノ始主ナリ是レヨリ先綱貞ノ治世明和中始メテ城內ニ小祀ヲ設ケテ奉祭シタルヲ今其ノ規模ヲ成セルナリ神體ハ始祖所佩ノ寶刀ナリ　一宮神社々司福林雅樂助ノ長短歌ニ曰ハク

きくらきの公のうたてとゝ玉鉾の乃あゝ伊代ゐ

京都府立総合資料館所蔵

あるる遠の作物うつくしうつくしきをみ作ん
は旅とくあるい君とをの乃も正しくる孫
み作へし正と五44は あひきまつらひ作きつて世と
きのまわて丹波なる方田乃縣しまよりも多くも
あるう みナとせみるけらしか久方のそほ
乃新。第代にかぐらしらさるゆけるをとのた
めしとなのまよ水海うきるのすうそしねの八束
みしまふ初穂をハ作しらせる方者乃あてのに
るしつるる振弟乃うるへた。。。。その餘をけも
謝うも るして新嘗ようらしをしつかい人もると
きのえつたつるひ乃うくもうるひ花ほちもうれしき
時代にあふるとたしき業と言る出ていひやをさみ

産殿の神乃功のるしのまく新味たまのふゆみ
のぐろうへるうしときを彩をいめるうぬ現乃時代
此新見とて作まよふ物てしうるのしといるし
のうとのはまりみンいるひまつりてその神をし
うせうるみいつけもと作言。。それうしのるよ
うき有るたなすうけす。。も第代こうしき年
ハあるといつどなるまのとしの芸なの人るの生日乃
まる日をい祭ひ宮あて丹波なふ日照りる多日を
きもうる新るのるの乃上の下ついるねる言在たしきうて
作多根みい吉やのあうるて引き物日ひ猫ちもうぬる
新宮ニいつき多うてとちるるみ神の。。うる在のいや
とれきつとしの初穂をび けよ郷る山神なる

京都府立総合資料館所蔵

あるるかるる所あるすゝもうのたきつくるうん
ゝ山藤をすゝ引の積山のうゝとうるうて指うゝうお
みてくらを○○みゝをありし時を山川のそゝらし
つゝ天このくしませる大男の長著の者ともをゝ五ひ
しゝ孫の四十乃綾もまゝうゝとて川ゝうゝくるみゝこの
らの作りかしある五ゝさの稚ゝうみゝのも八多種に○○○
やおゝらせの稚のゝらも多袋に入ゝる代のうゝしら
す。

かゝしゝうゝ

能ゝうゝす家のゝうゝねゝ下ゝあゝして世をゝさゝつゝえゝを
きみゝゝあゝきゝうゝて
うゝうゝならゝ代のゝきゝうゝえゝゝ老態のゝうゝあゝひの

さゝのゝうゝうゝと

文政十一戊子三月廿七日祭禮執行始メテ能樂奉納アリ祭禮ノ主管者扶持醫池村新平助役ニ大辻小右衛門其ノ他ニハ名主年寄各分擔シテ周旋ス謡曲師田中負治岡田三平野口彌五郎小原幾八郎ヲ招聘シ町方上流家ノ子弟ニ學習セシメ此ノ年ノ役者ニハ特禮ヲ與ヘ熨斗目麻上下ヲ着用セシム　能狂言左ノ如シ

番組　高砂　子供仕舞　俊成忠度　鞍馬天狗
舩辨慶　山姥
軒葉さくら　松ヲつり蓙　いろは　急記
法　膏藥ねり　祝言

京都府立総合資料館所蔵

南後謡曲師ヲ町住居セシメ町方ノ少年ニ學習セシメ風義ヲ向上セシメントス开ハ近来町人ノ品行年ヲ逐フテ下劣ニ趨ムクヲ矯正スルノ一策トカヤ聞コエシ社前ノ舞臺建造モ之レニ基レ由ルトカヤ

天保年中相撲興行ヲ願ヒ出デ其ノ日ノ午前ニ能狂言午後ニ角力アリ嘉永年間ニハ能樂一層盛ンニ行ハレ若狭ノ能師赤松次左衛門来住シテ其ノ道ヲ講習シ遂ニ社宅ノ賜與サヘアリテ名ヲ幸之進ト改メ藩士ノ此處ニ集ヒ謡曲ヲ錬習スルモノサヘ出デ来リ幾分士氣ノ悟廢トハ成ル

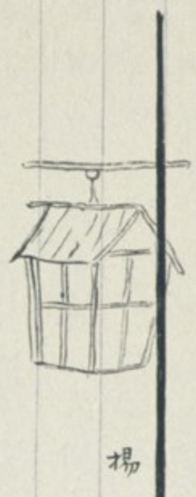
明治十一年京都府ヘ藩士谷中修等出願シ郭地城跡ノ下渡シ許可アリ朝暉神社ヲ天守臺址ニ移ス谷中修ヲ社守トス年齡七十老後ヲ社殿ニ送ル社納毎年四石ト賽錢若干

御靈神社　祭神　宇氣母智神　元文二丁巳年町方ヨリ奉行所ヘ出願シテ祭禮ヲ執行ス子供相撲作リ物等アリテ賑フ少年ノ相撲ハ年々行ハレタリ舊八月十八日

光秀供養ノ高燈籠　毎年盆期ニ之ヲ掲ケタリ其ノ初ハ彼レガ謂ハ所ル三日天下ノ時ニ町民ヘ施セル恩惠ニ對ヘシガ爲ニ彼レガ小栗栖ノ果敢ナキ最後ヲ吊フトテ家々ヨリ掲ゲタルモノガ後ニハ習慣トナリ維新前後マデ或ル家々ニテハ之ヲ

京都府立総合資料館所蔵

熙ジヌ今ヤ其ノ迹想ム北桑田郡周山村盆ノ白張
挑灯ノ所ヲ参看セヨ世間全班ノ施餓鬼用熙燈ト
其ノ起原ヲ異ニス



楊燈籠ノ圖

おうめ井戸　城山朝暉神社前ニ枠蓋ノミアル大井戸アリ畳岩ト刻メル石標ハ井銘トモ云フ口碑ニ田ヒバ往時発掘数ニシテ水ヲ得ズ軍用トシテハ一日モ無カル可ラズ深ク掘レバ崩ル丈岩土崩壊スルノミニテ才效無シ此ノ上ハ人身御供ノ外ニ道無シトテ少年美女ヲ四方ニ捜シテ長田村ニテ（下六人部ノ内ニテ）おかめヲ得コレヲ地底ニ埋メ遂ニ成效シタリト　一説ニ上カラ下マデ掘リ方ガおたふく面ノ輪廓ニ為ツテ井ルノデ名ヅケタリトモ云フおたふく江戸ニテおかめト云ヘリ輻頭上下八九尺軍用トシテハ可ナリ水面マデ五十尺水深百尺ト云フ縄十七尋涸渇セズ　水質最上　岩石ヲ以テ右カケトス周圍雑草モテ蔽ハル

八右衛門塚ハ松平主殿頭家老板倉八右衛門ノ葬所稲荷山ニアリ萬治元成年五月死去

洪水　文政十一年己丑七月十七日ノ夜洪水アリ享保六年以後ノ大水ニテ水量二丈ニ及デ米搗部

京都府立総合資料館所蔵

屋ヨリ炊出シ救助ニ從事ス

御影參　伊勢參宮ノ夥伴十人百人伴ヲ爲シ列ヲ爲シ屬々東行ス四月下旬ヨリ町方有志施行ヲ始メ飯汁酒肴草履草鞋鐵葉ヲ給シ乞フモノハ申スニ及バズ其ノ乞ハザル者ニモ之ヲ與ヘ婦女小兒及ビ足弱ニハ駕ヲサヘ給セリ當地ヨリモ援ケ參リスル者陸續踵ヲ接ス之ヲ咎ムルモノニハ神罰アリトヱフ

天保七年丙申五月廿八日櫻田邸ニ卒ス齡三十七

泉岳寺ニ葬ル法名寶盛院殿格心全忠大居士　資性篤德且ツ學問ニ勵ミ佐藤一齋ヲ師トシ藩士ノ範トナリ後嗣ノ模トナル一宮神祠ノ自書奉納シタル額アリ篤敬ノ二字ヲ書ス　百姓の原しゝ汗の稻乃露　ひがおでるよハ取らぬ秋の山ナドノ句アリ

朽木河内守綱長後近江守ニ改ム本多下総守康禎ノ次子ニシテ養子トナル　三女子アリ　長女ハ牧野遠江守康哉ノ室　次女ハ諏訪因幡守忠誠ノ室　三女ハ朽木山城守綱美ノ室

此ノ秋稔ラズ餓莩塗ニ盈ツ謂ハ所ル天保飢饉ニナリ是レヨリ前ニ誰レ言フト無ク天保ハ一代人ノ口ヲ千スト有識ノ士以テ凶兆トセリ蓋シ天保ノ二字ヲ他ノ字ニ割リ當テタル識トカヤ米相場沸騰シ壹石銀貳百匁以上ニ及ブ上下擧リ粥施

行ヲ爲ス御靈神社前ニ炊出所ヲ設ケ晝行之ヲ行
フ翌八年正月ヨリ米價狂騰シ二百八十文トナル
是レ一ハ大塩亂ノ波及スル所タリ大塩平八郎悴
格之助ト共ヲ大坂ニ擧ゲ窮民救助ヲ名トシ諸所
ノ豪商ヲ砲擊シ近畿ヲ騷擾セシ事實アリ丹波諸
藩ハ京都所司代ノ急命ニ接シ非常警戒ヲ執行ス
當藩ハ塩津峠ニ見張番所ヲ設ケ一小隊ノ士卒ヲ
派遣ス　此ノ秋ノ豐熟豫想ニヨリ米價下落ス
冬初一石代銀六十匁トナル
巡見使　九年戊戌四月湖幕府巡見使到ル　巡見
使一行ハ旗下士ヨリ成ル小藩主コトニ任ズルヿ
モアリ行政能否ノ視察ニアリ食事一汁一菜ニテ
禁酒ヲ恒例トス　福知山本陣ヨリ差シ出ダセル
書面左ノ如シ本陣トハ公旅館ノ總稱ナリ

御受書之覺

一　木綿　六十五文
一　昼畫食　上十七文　下八文
一　白米壱升七合五勺
　　代銀　百八十四文
　　外ニ昼食代百文
　　〆三百四十九文
　　戌四月　朽木河内守領分福知山
　　本陣　三右衛門　印
　　名主　小右衛門　印
御本陣ノ御ハ巡見使ヲ敬スルノ意ヲシ連署ハ證

明スハモノトス

巡見使ヘ差し出セル臣下禄高役名左ノ如し是レハ表役ノミニテ勝手役人ハ載セザルヲ例トス

本陣勝手元ノ掲示

一此度御巡り之台所泊り畫休とも兼ネ候作法外ハ一切御置ヲ申ス事

一諸色買物ハ役ハ所ヲ以テ相對御代官所ハ手代又ハ役人ハ支配人ヘ一ヨリ談事

一當宿ヘ外他ハ畫休泊とも此方ヨリ呼寄ヲヤトヒハ用意ヲシテ他所ヨリ人を雇ハ役ヲ用ヒル

但先方ヨリ女一切出ス何ス

一此方ヨリヤトヒ行ヲ家来下ヨリ一切旅義中ヲ勤ル事

不作法又ハ非役有ミハ不迎此方ヘ一ヲ所限ス

急ヒヲ筆ヲ以ヲ及ハ後日必ス當方不申所ヲ

所見家ヲ諸色ハ品ヘ此方ヨリ呼ヲ少ヒ宿ヲ

させハ又ハ給矢ヲハ不限ス迎ヒ方ヘ一ヨリ

ヲ行ハ

右之通相背申ス者也

天保九戌年月日

差入

京都府立総合資料館所蔵

一　世話掛役宿仕ル変遷ヲ以ル事ニ
御座ル事若番頭ヲ多ク使ヒ人数ヲ多クス
事都合之ヲ以テ此営時宿ヲ設ル引請ヲ延ル事
人ヲ使ル為ニ年ノ内ニ一度ヲ掛ヲ第一ト為ス事ヲ以人
数ヲ中ヲ第ル者ハ為ル一度ヲ一緒ニ為ルヲ以テ人
中ヲ為ル

差支ヲ及ル事ハ私ヲ多数ヲ以
延ル為ニ延ル者一緒ニ為ル用ヲ延ル
為度ヲ以ル件

天保九戌年　寅四月十二日

山本七右衛門殿
清水紀人市様

清水話人用ヲ覚

一　札九十匁　清水下宿　西尾次郎右衛門殿
一　同　銀九匁　塩屋茂兵衛殿　宮地代
一　同　銀三匁　鬼ヶ塚　出雲ヶ谷八幡
宮ヶ谷保八幡宮
一　同　廿八匁　六厘
一　同　十八匁　四厘
一　同　四匁　四厘
メ　七匁三分二厘九分四厘
内　銀七匁　本銭第代ヲ拂入
引残　六匁九十八匁四分四厘
右之通相違無御座ル以上
清水市様

京都府立総合資料館所蔵

戌五月廿四日　吉田之右衛門

所帯役人中様

家老ヨリ差出シタル分限帳

千石　家老　飯田嘉右衛門
三百五十石　家老　森忠左衛門
三百五十石　家老　飯田助之進
二百五十石　家老　高松彌次右衛門
二百石　物頭郡奉行頭取　清水安右衛門
百五十石　小姓頭目付　平田十郎左衛門
百三十石　小姓頭　河瀬條右衛門
二百三石　小姓頭　篠尾又助
百四十石　小姓頭　中目小左衛門
百五十石　物頭　古川藏太
二百石　物頭寺社奉行　瀬川兎毛
百四十石　物頭目付　小串佐右衛門
百石　郡奉行目付　山田文之丞
百石　郡奉行目付　小島龜右衛門
百十石　町奉行寺社改　山縣直右衛門
百石　町奉行　服部與右衛門
百石　町奉行目付頭取　中野數馬
二百七十石　目付　朽木確之助

以上

倹約御沙汰書天下中ニ布達セラル幕府老中水野越中守ノ發案ニ懸カルモノニシテ士民ノ別無ク

京都府立総合資料館所蔵

遵奉セシム絹布着用婦人粧飾ヲ始メトシテ禁止
條例嚴重ナリ町家ノ長押ノ粧飾ハ取リ外シ屋根
ノ破風ニ制限ヲ附シ衣類ヲ上中下ノ三等ニ區別
シ各自其ノ貪冨ニ應シ踰越ス可ラザラシム　孔
化元年甲辰五月十日江戸本丸燒失ニ付献金ス金
高詳ナラズ　嘉永六丑年將軍家慶薨シ家定嗣ギ
立ツヲ以テ翌年安政元五月六日例ニ由リ誓書ヲ
奉ル亀山藩篠山藩ノ部参看
養蠶特勵ノ意ヲ以テ蠶種ノ購買ヲ始メ池部喜作
ノ紹介アルヲ以テ之ヲ陸奥國ニ遣ス時ニ安政二
乙丑四月ナリ此ノ時殖産興業ノ論議ノ輿論ト
ナル　萬延元年庚申六月町方ノ正直會所ト名ヅ

クル金銀融通業ヲ爲ス所ノ萬屋次郎右衛門方ヘ
強盜押入リ留守番人天津屋喜助川北屋仁兵衛ヲ
殺害シ大金ヲ奪フ幾日ナラズシテ町奉行ノ手先
ノ者之ヲ捕鞫ス一人ハ信濃國ノ生レニテ松本信
太郎ト言ヒ一人ハ西郷半十郎ト言フ無宿者ナル
ガ信太郎ハ牢獄中ニ死シ半十郎ハ死罪申渡サレ
京都所司代ヘ願濟ノ上和久市村ノ三味ニ於テ斬
首セラル看者堵ノ如シ
強訴顛末　謂ハ所ル福知山強訴トテ近來ノ大珍
事　ソノ活劇ノ主人公ヲ蒹葭堂明啓トス通稱木
村瑞四郎堂號ヲ以テ名ヲ四方ニ著ハス大阪ニ産
ル醬油製造ヲ業トシ祖先ヨリ業ヲ大ニシ名ヲ廣

京都府立総合資料館所蔵

フス彌四郎資性濶達ニシテ俠氣ニ富ミ感スル所アレバ之ニ投シテ黄白ヲ吝惜セズ狂歌ヲ善クシ日夜文筆ヲ弄シ交遊日ニ廣マル狂名ヲ鹿乃舍真萩トシ又ノ名ヲ曉ノ鐘成トス風流ヲ以テ四方ニ遊行シ遂ニ丹波ニ入ル當時ノ丹波ハ道路險惡交通ノ路往々梗塞スルヨト有ルニモ関セズ悠々トシテ行樂シ諸方ニ新シキ交際ヲ求メ終ニ福知山ノ知人某々方ニ聽寓遊處セシガ到ル處暴君汚吏ノ爲ニ人民ノ苦惱ヲ培ヒ今ヤ難苦ノ最頂點ニ達スルヲ見聞シ彼レガ特有ノ俠氣抑ユル能ハズ又此ノ難関ヲ空シク通過スルニ忍ビス一時ハ其ノ舊新朋友ノミノ苦悶ヲ救助セバヤト志セシモ日ヲ経ルニ従ヒ俠心次第ニ膨張シ衆ヲ集メテ其ノ方法ヲ議シ衆ニ勧ムルニ數願書ヲ出スベクスルモ衆中一人ノ筆ヲ執ルモノ無シ皆無文無能カ將又後日ノ譴責ヲ怯避シテ乎彌四郎默視スル能ハズ筆硯ヲ呼ビ直ニ一通ノ訴狀ヲ書シテ之ヲ與ヘ代官某ノ宅ニ達セシム嘗ニ聞カレザルノミカ訴狀ハ叱罵ノ聲ト共ニ返戻セラル彌四郎之ヲ聞キ怒氣滿々又筆ヲ操リ見聞スル所ノ失政十數個條ヲ歷擧シ之ヲ福知山領町村ニ配布シ人心ノ激發ヲ促進セシメ茲ニ百姓一揆ノ勃興トナル其ノ顛末ヲ左ニ畧載ス

寛政ノ治ハ水野越中守ノ改革ニ始マリ儉約主義

ヲ立テ士卒ハ文ヲ修メ武ヲ講ヒタルノ效果ハ顯ハレテ諸大名ヨリ多クノ旗下ニ至ルマデ相應ノ貯蓄モ出來タルヨリ天保年中多少ノ天災地害ハアリタルモ泰平ニ醉ヒタル驕奢ハ次第ニ夏ノ度ヲ高メテ國用足ラズ加フルニ米價ノ下落ハ以テ藩費ヲ支スル能ハズ茲ニ因リ領民ニ用金ヲ強ヒ納額ノ多キハ士分ノ格ヲ與ヘ常帶刀ノ許アリ家宅ノ構造ニ於ケル破風表門路次門云關ヲ許ス等有ラユル手段ヲ以テ領内ヨリ金銭ヲ捲キ揚グルノ政畧ヲ取リ事々物々運上ヲ名トシテ御手傳ヲ名トシテ誅求スルノ故ニ農商共ニ奉行所ノ呼出ニ應ズルハ刑場ニ臨ムノ心地スルモノカラ往々門戸ヲ鎖シ逼塞札ヲ貼リ出セリ逼塞トハ當時ノ破産ニテ世間ヲ憚リ門戸ヲ閉チ交通ヲ謝斷スルノ義ニテ甚シキ不名譽ノ行ナルモ今ハ已ムヲ得ザルノ窮策ニシテ之ヲ以テ領主ノ要求ヲ避クルノ口實トハナシタルナリ福知山藩ノ疲弊モ極度ニ達シ收斂ノ方法モ是ノ上ニハ施スベキ餘地無キニ迄至リ君侯ノ江戸ニ參覲スル費用モ大阪ノ富商ニ借リテ一時ノ方便ヲ立テタルカ丈レサヘ度重リ稱貸ニ應ズルノ金穴家モ無ク進退谷マリ江戸在住ノ家老原井惣左衛門改革説ヲ主張シ同派ノ士數名ヲ率ヒテ福知山ニ至リ大ニ爲ス所アラントシ經濟方想ヲ有スルモノヲ物色シ

京都府立総合資料館所蔵

テ市川儀右衛門ヲ得タリ之ヲ中段ノ士席ヨリ抜擢シテ祐筆ト爲ス祐筆トハ幕府ニモ之アリ書記官ト云ハンガ如キ職名ニシテ政治上ニ干預スルヿヲ得ソノ人ヲ得レバ家老用人ノ腹案トモ爲リ往々藩権ヲ左右スルヿアリ別シテ市川ハ才器アリ口辯アリ江戸家老ノ抜擢ニテ御政革御用掛リト云フ肩書アルニ由リ藩中數百人中誰一人其ノ命令ニ戾ルモノ無キ迄ニ意見ノ行ハルヽヨリ長上ヲ凌ギ已カジヽ所見ヲ執リ自分等ノ爲ス所ハ即チ政令トナリ一藩ノ権利ヲ掌握シテ終ニ用人席ニ登リ愈ソノ所見ヲ突キ通シ得ル資格ヲ得タルモノカラ一般ノ節儉律ヲ施シ絹布ノ着用ヲ禁ジ家老ヨリ木綿ノ外着用セシメズシテ其ノ下々ニ及ボシ兩天ニ外出スル者ハ番傘ヲンベリ中菅以下ノ身分ニハ之ヲ用ヒシメズ被リ笠ニ合羽又ハ簑着用ノ制ヲ布キ別ニ殖産興業ノ新法ヲ立テ内職ヲ執ラシメ人民ニモ此ノ趣旨ヲ體シテ農暇ニ餘業ヲ務メシメ出入船舶ニ課税シ町民ヲシテ冥加金ヲ奉ラシメ薪炭ニ魚鳥ニ各自ノ産物ニ問屋ヲ置キ掛リ役人ヲ立テ明細ニ調査スルノ方策税スルノ法微密ニ渉リ苛刻ニ流シ人民士卒ノ怨嗟ハ市人ノ雙肩ニ重荷トナリテ顕ハルヽモ知ラズ高價他轉シ農民田宅ヲ賣賣シテ流浪トナルモ亦知ラズ物價騰貴シ賣買ノ道杜塞スルモ亦知ラ

京都府立総合資料館所蔵

ズ日ニ同類ト簿書ニ對シテ收斂ノ道ヲ見出サン
ト勉メ而シテ自分等同僚ハ利得金ヲ融通シテ驕
奢ヲ爲スヲ見テ何人カ斯ミニ怙札ヲ爲シ

市川やにゝハを焚きて待つゝ居れやのけごせ（縁脇）（断前）のふち（縁状持）ぢさるれる

ト惡口シタルナドアリ當時偵察ノ任ニアル大目
付及ビ目付横目ナドノ役人ハ何度ニ目ヲ付ケ居
タルニヤ禍亂ノ目前ニ迫リタルヲ知ラザリキ萬
延元年八月ニ至リ農家ハ不作ノ見込ヲ立テ年貢
丈ノ米ヲハ得ラレズトテ囂々タリ諸村ヨリ檢見
ヲ出願シ減税ヲ嘆訴スルヿ切々ナレバ郡奉行ノ
清水某齊藤某市川某等手代役々ト共ニ發セント
スルニ際シ奥郷ノ方面ニ於テ郷訴アリトノ風説

町々ニ盛ンナレバニ〻吏員ヲ派シ鎮撫セシメタ
ルニ却テ夏ノ反激ヲ買ヒシニ過ギズ其ノ十七日
ノ夜郷取締役ナル長田村ノ高橋惣右衛門同役某
々ト共ニ市川方ヘ參集シ事情ノ容易ナラザルヲ
陳叙シ産物課税等ノ淡ヲ廢棄セラルヽニ於テハ
強訴ヲ鎮靜セシメント言フ市川之ヲ諾ハズ惣右
衛門等ハ嘆息ノ聲ヲ殘シテ城外ヘ出ヅルヤ早其
ノ翌朝ニハ竹槍席旗ノ町々ニ入ルヲ見タリ正直
會所札座ハ第一着ニ破却セラレ藩政ノ下ニ立ツ
ヲ利益ヲ斷ジタル百有餘軒ノ商人ハ第二着ニ
破却ノ運命ニ遭遇ス此ノ時ハ暴徒ノ數非常ニ加
ハリ數十組ニ分カレ土藏ト云ハズ居宅ト言ハズ

京都府立総合資料館所蔵

手當り次第ニ滅却シテ他家ニハ波及セシメズ其ノ日ハ當地ノ御靈祭日トテ遠近ヨリ集ヒタルモノ甲詰リ乙傳ヘ期セズシテ己々ガ村ニ歸リ黨與ヲ集メテ相呼應セシメタルモノカラ十八日ニハ疫久ノ鄉民數百左原ニ紀集シ十二村ニ出デントスルヤ附和雷同スルモ數千人トナリ他領ノモノマデ驚キ出シ川北、河守、アタリノ者マデ馳加ハリ産物破リトテフ名稱ヲ立テ人民ヲ塗炭ヨリ救ハシト言ヒ立テ組々ヲ分ケテ頭ヲ置キ今ヤ城門ニ向フテ進ミ若侯ニ直訴セントト宣言ス城内ノ危機一發第一番隊ハ本丸ノ枡形ヨリ繰リ出シテ大手門ヲ守リ二番隊ハ續ブキテ出デ持場々々ニ就キ三番隊ハ本丸ニアリ物頭以下甲冑シ各自得物々々ヲ携ヘテ雉堞ニ乘リ茲ニ闔藩戰時情態ヲ演出シ城外ニアルノ士卒ハ言フニ及バズ其ノ家屬ヲモ入城セシメテ城門ヲ鎖シ郡奉行以下其ノ屬僚ハ兵粮方トナリテ炊事ヲ掌リ戰士婦女小兒等ヘ分配送附シタリ東西ニ聞コユル鯨波ノ聲家屋ヲ壞ツ土煙中々ニ物凄ゴシ斯カル内ニ會議ハ大廣間ニテ開カレ市川モ亦軍裝美々敷ク具ノ席ニアリ衆逼リ之ヲシテ鎮撫ノ任ニ當ラシメテ曰ハク爾ニ出デルモノハ爾ニ返ルモノナリト市川罷勉出デ、大手門ニ向フ之ヲ見テ士衆一時ニ喧騰シ其ノ前後左右ヲ擁シ口々ニ罵リテ言フ此

乱賈ニ見ノ方ヨリ起ル見ノ方出デヽ防ゲト市川面色忽変ハリ口舌顛ヒ其ノ言フ所聞ク可ラズ其ノ間ニ一揆ノ勢進ミテ將ニ城ヲ凌ガントス俄然一発ノ銃聲雉堞ノ砲門ヨリシ一揆中ノ一人ヲ仆ス是レハ惣禮席ノ士ナル安達周八ガ蕃論ノ一致セズ鞭令ノ怠慢スルヲ齒撥シトシ思ヒ切ワタル所行トヅ聞コエシ一揆ノ勢ハ激シタリ猛烈トハナレリ大手門ノ方ハ之ニ由リテ退却シタルガ市街ヲ乱妨狼藉シツヽ廻リテ四ツ切門ニ至リ之ヲ破リ入リテ市川邸ヲ攻メントスルモノヽ如シ蕃論猶以テ一致セズ戰フモノヽ如ク戰ハザルモノヽ如シ斯クモ首鼠両端的ナルハ何故ヅ百姓相手ニ大名ガ戰フ之ニ勝ツ尚恥ヅベシ況ヤ勝タザルニ於テオヤ是レ其ノ大廣間ニ於ケル會議ノ決スル所且又領分中ニ斯カル大騒動ノ起コリシ罰ハ到底免ルヽヲ得ザルヲ以テ成ル可ク事ヲ穏便ニシ以テ幕府ノ責問ニ辞アラシメント欲シ因循姑息ニ陥リシナリ見ヨ守門ノ隊長ノ爲ス所全ク暴徒ニ左袒スルヲ看四ツ切門ノ片扉ハ開カレタリ暴徒ハ踴躍シテ竹搶席旗ヲ城内ノ隅ニ入レタリ市川さゝト叫ブ聲ハ追々ニ進ミ忽ニシテ門高塀ハ壞タレ玄関ニ坐敷ニ看ルガ内ニ土烟ヲ揚ゲ聞ノ聲ヲ揚ゲ今ハ土藏ノミ残ル土藏固クシテ壞レズ一揆ノ中ヨリ土方メケル一隊町方ノ呉服店ヘ

京都府立総合資料館所蔵

驅ケ附ケ數十餘ノ木綿ヲ畧奪シ来リ之ヲ縄ニシテ土藏ノ四方ヘ掛ケ申々聲シテ引キ遂ニハ之ヲ倒シ市川ノ妻子ヲ索メタルニ獲ラレズ残念ノ餘リニ何カナ怒ヲ洩ラサントシテ曰ハク斯カル堅キ藏ヲ建テタル受負人モ悪人ノ味方ヲト言フヤ否暴徒ノ一隊ハ大工職ナル磯八ノ宅ニ至リ一瞬息ノ間ニ其ノ家ヲ敲キ潰シ今ハ思フ存分ヲ遣リ通シタレバ引キ場ケヨ此ノ上ノ事シテハ御領主ニ對シテ謀反スルニ似タリトテ城内ヲ退クモノ次第ニ増シ城内ノモノ始メテ安堵ノ思ヲ爲シタルカ市街ハ相昏ラズ騒カシ産物掛リ冥加金取立掛リ運上掛リノ家々ニテ餘憤ヲ洩ラシツヽアル所ヘ大賣吉田三太夫ハ焚出シ方ノ有志ヲ申シ込ミ飲食ノ供給ヲ爲セシカバ一揆ノ頭分其ノ門前ニ立テ乱妨ヲ制シタレバ一家其ノ惨害ヲ免レヌ富商大賣酒肆米商ニシテ一揆ノ餘毒ニ罹ラザルモノ蓋稀ナリ二十日ノタ刻ヨリ夜ニ入リテハ乱ノ極ニ達シ寂寥ヲ破ル悲聲哭聲處々ニ聞コフ此ノ時藩議漸一決シ鑑江清兵衛ヲシテ鎮撫ニ當ラシム清兵衛ハ給知（給人知行ノ略語ニ）トテ自分ハ上士班ニ在リ父ノ寛大夫ハ政治ニ參與シ清廉ノ譽アリ市川ノ施ス所ニ反抗容喙シタルヲ以テ原井ノ爲ニ惜閔セラレテ民望アリ其ノ老ヰタルヲ以テ其ノ子ヲシテ事ニ當ラシメタルナリ清兵衛モ亦父ノ志ヲ

京都府立総合資料館所蔵

遂ゲントシテ收斂ノ新政ニ反對シ閉門謹居ヲ命ゼラレタルガ城内ノ騷々シキニ不審ヲ懷クト雖謹慎ノ身ナルヲ以テ其ノ情況ヲ知ルヲ得ズ君命アリテ召サル伺候スレバ此ノ命アリ常服ノマヽ馬上優ニ城門半開ケテ出ヅ暴徒ノモノ出タリ〳〵ト叫ブ清兵衛一騎甲冑シタル兵卒ヲ押分ケ出デヽ廣小路ニ至レバ暴徒多ク此所アリ清兵衛ヲ知ルモノ指顧シテ曰ハク鎧江様ナリ静マレ〳〵ト清兵衛令シテ曰ハク引取レ君命ナルヅ今度ノ粲頭人ハ誰ゾ衆中答フルモノアリ曰ハク市川儀右衛門デゴザルト清兵衛顧シテ悠々馬ヲ回ス暴徒漸散ジ一人ヲモ縛セズシテ事治マル蓋此ノ時一揆モ出タハ出タガ直ニデ城ヲ攻ムルノ目的モ無ク退キテハ爲スヿモ無ク進退ニ窮スル折柄コノ清兵衛ノ言フ所ヲ機トシテ退散シタルナリ市川ノ政ヲ希クヤ暴威以テ下ニ臨ミ已ニ反スルモノハ士庶ヲ論セズ入牢閉門ニ處シタルヿ數ヘ難シ

殿豆腐家中赤味噌庚がらしあぶみ辛うふてしたがたまらんト云フ俚歌ハ但馬出石ニテ流行シタルモノナルヲ中村ノ民甚左衛門が之ヲ謠フテ福知山ヲ徘徊シタリトテ捕縛拘禁シタルヿサヘアリ當時放歌ハ禁制ノ限ナラザル故何人モ之ヲ高聲ニ唱ヘクリトテ叱責セラルヽ無カリシニ甚左衛門ノミ捕ヘラレシハ其ノ曲意ノ市川ガ所爲ニ

京都府立総合資料館所蔵

匹適スルヲ以テナリ市川ガ警権濫用ヲ爲セシヤモ知リ得ベシ一乱ハ漸治マリヌ乱ノ挑發者トシテ市川ハ招喚セラレ奉行ヨリノ宣告ニテ揚リ屋入トナル揚リ屋ハ士分ノ者ヲ投ズル牢獄ナリ其ノ凡牙ナリシ問屋ノ関三藏黒谷ヤ忠兵衛安井屋八兵衛ハ牢獄ニ投ゼラレタルガ八兵衛ハ獄中ニテ自縊シテ死シ二人ハ後日出牢ヲ赦サレタルモ人ニ齒遇セラレズ何處ニカ遁逃シタリ藁葭堂ハ赦唆ノ罪ニ問ハレテ入獄シ萬延元年十二月十九日獄中ニテ死サル年六十八　著書アリ藁葭堂雜談猪著聞集攝津名所圖繪滑稽湯盡其ノ外猶在リテ世ニ名アリ知ル者之ヲ惜ム　市川ノ揚リ屋ニ

入ルヤ親族知己交〻来リ其ノ自刃ヲ勸告シタルモ從ハズ當時士人ハ罪アリトモ割腹スレバ罪ヲ其ノ身ニ止メテ其ノ家ニ及ボサヾリキ士氣ノ養フ方法ナルガ市川ハ之ヲ處決スル能ハズ荏苒日ヲ送ル内原井惣左衛門ノ甥ニテ醫ヲ爲ス荒井泰菴之ヲ見聞スル能ハズ小刀ヲ携ヘテ揚リ屋ニ入リ詰腹切ラセテ事全ク濟ミタリ藩醫ガ士分ノ罪人ニ向ヒ詰腹サセルナド出来得ベカラザル所ナルガ井ハ家老ノ内命ナリシ丁後ニ知ラレタリ

國元ニ於ケル非常ノ騒乱ハ落著シタルガ落著シカヌルハ公邊ノ沙汰ニテ老中若年寄大目付側用人等幕府ノ當路者ヽ内願スル賄賂スル國元ノ秩

京都府立総合資料館所蔵

庠恢復ニサヘ容易ナラヌ失費ヲ要スルカ上ニ貧乏ノ上塗リヲ爲サヾル可ラズ幸フジテ所替減禄ノ惨運ヲ免レ翌年酉四月奏者役召シ上ゲラレテ外櫻田ノ賜邸ヲ没セラレ事濟ミヌ國元ノ秩序恢復トシテハ壞破セラレタル家ニ付キテノ片附ケ方士卒ノ家族ガ城中ヨリ自分々々ノ宅ヘ歸任スル商賈ノ地方々々ヘ逃走シタルモノヽ歸住等ニテ奉行ハ下役ト共ニ晝夜奔走シ其ノ年ヲ終ル頃ニハ復舊シ一揆ノ丁ハ昔語リノ中ヘ入レラレタリ（藩士中市川同志輩ノ免黙等アレド畧ス）

文久三癸亥年但馬生野暴動起コル出石藩出征スルニ付應援出兵ノ令アリ出張ニ先ダチ事治マル

將軍名代トシテ四月三日日光社參奏者番トナル　大阪警備一小隊ヲ出張ス　更ニ近江坂本ノ警備ニ任ズ

綱張卒去ハ慶應三丁卯三月十三日ニアリ土師村圓覺寺ニ葬ル　法名錦江院殿成德惟馨大居士

養女アリ建部内匠頭政和ニ嫁ス

朽木伊豫守爲綱或ハ紘綱トモ名乗レリ改稱近江守實父ハ朽木佐綱ナリ養父ノ早世スルヲ以直ニ祖父ノ後ヲ受ケ藩主トナル　大阪安治川尻ノ船番所預リ役ヲ命セラレ役人ヲ出張セシム　京都警備ノ命ヲ受ケ戊兵ヲ京都ニ送ル　赤坂今井谷邸地返上セシメラレ濠町水野出羽守邸ヲ下賜セ

京都府立総合資料館所蔵

ラル　元治元年征討軍ニ屬シ藩兵長州ニ向フ將
軍家茂大阪ニ薨シ征長ノ役罷ミ歸藩ス藩中ニ定
論無ク右往左往スルノミ慶應四年王政維新ニ付
天氣伺參朝ス　正月二日伏見鳥羽戰爭起コリ官
軍ニ屬ス改元明治　名代トシテ經盛參内
北越征討　德川脫走ノ士率會津藩外十八藩合同
シテ官軍ニ抗スルヲ以テ藩士榊原甚五右衛門士
卒一小隊ヲ率ヒ北越ニ赴ク　明治四年藩籍返上
土地奉還藩知事新任ノ詔藩ニ同シ　同年免職
更ニ縣知事トナリ家祿三千石ヲ賜ヒ東京府華族
トナル
爲綱率去明治十六年　青山墓地ニ葬ル

藩制
家老年寄衆　給人獨禮衆　中餃　同心足輕　大
別シテ此ノ四等トス
城代家老　祿高千石　年寄　六百石ヨリ二百五
十石ニ至ル　給人　二百四十石ヨリ五十石ニ至
ル（祿制四ツ物成トス百石ニ付四十石）　中餃以下
五十俵三人扶持アリ二十石二人扶持アリ（一俵
ヨリ外ハ扶持トハ一人ニ付一日五合ツヽ）　二人扶
持銀十枚アリ金二兩二歩二人扶持アリ（銀一枚ト
ハ丁銀一匁ノ相場ニ直シ藩札ニテ給ス）
城代　君侯不在ノ時ニハ君權ヲ攝行ス　臨時一名
ニ直命ス家老家格ノ内ヨリ勤ム

京都府立総合資料館所蔵

家老　政ヲ執ル二人又ハ三人門閥家ニ直命ス

江戸邸ニ一人アリ邸内ヲ治ム

年寄　家老ニ次ギ執政次官トナル　番頭　武事ヲ掌リ士卒ノ長トナル　用人　政事ヲ分擔ス　江戸ニ在リテハ出役シ多務ナリ　小姓頭　近側ノ事ヲ掌リ近習ヲ支配シ君侯出ヅレバ輿側馬側ニ在リ　留守居　江戸邸ニ住シ幕府ノ公事諸藩ト交際ヲ管掌シ外事ヲ見聞シテ上申シ一藩ノ方向ヲ決スル動機タリ　側用人　君侯ノ顧問トナル　物頭　番頭ニ次ギ武事ヲ分擔ス　勝手頭取　内部事務ノ長タリ　郡奉行　郡村行政ヲ掌リ町奉行　福知山町ノ警察ヲ掌ル　寺社奉行　寺社ヲ掌ル　武藝改役　諸武術ノ事ヲ支配ス　取次　諸方贈答ノ事ヲ掌ル　目付　上ハ家老ノ事ヨリ下ハ足軽ノ了ニ至ル迄ヲ注意シ意見ヲ君侯ニ直聞ス　元締　會計ヲ專務トス　徒士頭　徒士ノ頭ニテ君侯出行ノ際ニハ輿前ニ列ス　狀役　書狀往復ノ了ヲ掌ル　普請奉行　造營修繕ヲ掌ル　馬廻リ　武士ニシテ防衛ノ任アリ君侯出行ノ際ニハ輿側ニ列ス　元方　元締ノ次役ナリ　小納戸　調度ヲ掌ル　惇明館世話役　學校ノ了ヲ掌ル　廣間番　當直侍衛ノ任トス　小姓　近侍ノ任雜役ニ供ス　中小姓　同事件ニ任ス　以上ヲ給人トス家老ハ之ヲ除ク　上餃目見トモ呼ブ是レハ

京都府立総合資料館所蔵

家老家格ノモノヲモ併稱ス禮式ニハ次ノ間ヨリ目見スルヿヲ得ル資格トス　祐筆　狀役ニ次ギ書記又ハ往復ノヿヲ掌ル　代官　郡奉行ノ下役ナリ　賄方　元締元方ノ下役ナリ　大納戸小納戸ノ下役ナリ　以上ヲ中段トス拜謁ノ時一間ヲ隔テ、目見ス家老以下大納戸ニ至ルヲ獨禮トモ云フ一人ツヽ拜禮謁見スルヲ得ルノ資格アルニ由ル　徒士目付　徒士頭ノ下役　徒士小頭　同　酒方　搗屋方　藏方　敲諭方　料理方　普請方　徒士　札座詰　藩札ノヿヲ掌ル　廣門番　大鼓門番　以上ヲ下段トシ惣禮ト呼ブ一同列坐シテ拜謁スルヲ云フ

足軽小頭　表物番　米掛　中間頭　山方　郡手代　下目付　以上ヲ並禮ト呼ブ拜謁スルヲ得ザルモノ　丹波口門番　京口門番　諸門番　作事職　代官手代　足軽　以上ヲ無禮ト呼ブ一切禮式ニ関セザルヲ云フ　醫　茶坊主ハ無席トス

右ノ外ニ女中ノ事ヲ掌ル奥家老アリ以下數人ノ下役アリ多クハ兼役トス

藩臣數　三代相恩ノモノ合四百戸　此ノ内ヨリ二人或ハ三人出勤スル者アリ

物頭七人小頭一人足軽十五人ヅヽヲ預ル　町奉行二人　同心六人ニテ市街十五ヶ町ヲ警察ス町々ノ名左其ノ命令ヲ執行ス　郡奉行二人代官四人手代四

京都府立総合資料館所蔵

人ニテ城下ノ四部分ナル牽郷金谷郷豊冨郷夜久郷ヲ分治ス　代官一人近江領地ヲ治ム　寺社奉行二人手代一人宗旨改役二人　寺社ノ一宗旨人別ノ一ヲ掌ル　寺社奉行ハ給人ヨリ撰擇セラレ手代改役等ハ並禮ノ内ヨリ出ヅ

教育　惇明學校　世話役十餘人　上士ヨリ出デ校務教育ニ從事ス　給人獨禮以上ノ子弟入學ス

岩谷大椽聘セラル池大椽ノ門人ニテ三百石ヲ給セラレ子孫教職ニアリ三名ノ補助アリ漢學ト小笠原禮式ヲ教習セシム

習武場　兵學　北條流　劍術　淺山一傳流　鎗術　和田流　弓術　伴流　竹林流　柔術　起倒流　砲術　武衛流　星山流　飯冨流　中嶋流　馬術

藩士物語一節　惇明校ハアリナガラ文字文章ニ拘泥シテ志士ヲ養成セザイ結果御恥カシイコデ弊藩カラハ人物ラシイ者ハ出マセヌ維新ノ際ニ徵士貢士モ他藩ニ向フテハ遜色アリト申サネバナリマセナンダ兵學ハ家老物頭位ノ學科デシタ劍術ハ一斑ニ行ハレマシタ柔術ハ幕府中世以後大流行デ中士以下ノ必須課目トナリ江戸ニテ凡ソ二十流勃興シ諸藩ノ聘召頻々デシタ起倒関口流心揚心爲我ナド數々アリ中ニモ起倒流ガ其ノ一等デシタ夫レ故弊藩ニモ之ヲ採用シタノジヤソーデス云々

京都府立総合資料館所蔵

幕制ニ於テ小藩ニテ外様大名タリ雁ノ間大名タリ實ハ小名ナリ安政四年民間流行歌ノ中ニモ丹波大名ヲ罵倒シテ柘木モ山ノ賊ヒト謠フニ至レリ本藩モ亦其ノ一ナリキ幕府ヘノ献品ハ毎年春季ニ塩漬雉子暑中ニ蕨秒秋季ニ山椒寒中ニ漬蕨トス江戸参覲隔年路程ヲ百四十三里トシ大抵十五日ヲ費ス川止アレバ二十日以上ニ亘ルヿアリ毎年六月暑季ノ往復ナリシヲ慶安元年ヨリ八月改正アリ八月ハ今ノ九月ナルヲ以テ君臣共ニ歓ベリ

君侯食膳大抵一汁三菜一汁五菜其ノ都度塗板ニ白書シタル献立ヲ以テ賄方ヨリ伺ヘバ君侯手自コレヲ加除指示ス然レドモ賄方即チ膳番ノ準備モアルヿナレバ大抵ハ伺ノ通リト指令ス好マザルモノナル時ノミ其ノ所ヲ消スナリ君主ハ在江戸在国ヲ論ゼズ晝間ハ出デヽ小姓側用人ナドヽ共ナルヲ以テ表ノ間ニテ臣下ノ配膳ニテ獨食ス奥方妾婦ハ奥カラズ夜食ハ往々奥ニテ夫人ト共ニスルヿアリ君侯年老フレバ政務ノ外大抵奥住居ス

慶應二年七月近畿ヲ戒厳ス長防征討ノ際敗走ノ徒立チ入ラザル様ニトテノ幕令ナリ丹波但馬ハ間道山道ニ至ル迄非常ヲ戒メタリ青山左京大夫柘木近江守織田英太郎柘平又七郎小出伊勢

京都府立総合資料館所蔵

守九鬼大隅守谷大膳大夫松平伯耆守等ノ諸藩打
合セヲ爲シ要所々々ニ関門ヲ据ヘ往来ノモノヲ
検査セリ番頭一人馬廻リ両人足軽三十名充任出
張ス
藩主ノ妻子ハ江戸邸ニアリシガ維新前ニ諸藩ト
同ク帰国スルヿトナリ江戸ニ於ケル入費毎年往
返ノ参覲入費ノ罷ミシヨリ上下以爲ヘラク肩ヲ
息フベシ従前ノ罷羸モ償フベシト豈圖ランヤ内
外多事ニシテ新式武器購入セザル可ラズ焔硝製
造セザル可ラズ所々ヘノ出張ニ増扶持ヲ給セザ
ル可ラズ武術師範役雇聘セザル可ラズ藩士ノ數
ヲナキラ以テ次男三男ノ他ヘ養子トシ行クベキ

モノヲ留メ扶持ヲ給シ之ヲ用ニザル可ラズト云
フ塩梅ニ風雲一度掃フラ天下動搖スル毎ニ資金
ノ欠ヲ患フルニ至レリ
明治元年伏見鳥羽ノ一戰ニ幕軍敗レ會桑二藩ノ
兵ト共ニ東ニ走リ近畿全ク平定スルヤ先大ニ官
制ヲ改革シ八職八科ヲ置キ尋ギテ三職八局ニ改
メ各藩ヨリ徵士貢士ヲ出サシメ之ヲ以テ大政ニ
参與セシメタリ大藩四十萬石以上ハ三名トシ中
藩十萬石以上三十九萬石以下ハ二名トシ小藩一
萬石以上九萬石以下ハ一名トス故ヲ以テ本藩ヨ
リモ一名ヲ出セリ徵士ハ貢士ノ中ヨリ才能ニ從
フテ選擧セラルヽモノトス爾後朝政ハ是等ノ人

京都府立総合資料館所蔵

こヨリ料理セラル本藩ヨリ出デタルモノハ漢學者ナリキ

勤王佐幕之士飯田節　　管我村字堀圓泉寺ニ墓碑アリ

福知山藩家老名ハ高節字子興號ハ篤齋而シテ通稱ヲ節ト呼ブ弱冠仕ヘテ君側ニ侍シ家祿百二十石祖父ノ蔭ヲ以テ目付トナリシガ萬延元年罷メラレ憤悲激厲シテ以爲ヘラク吾門地ニ生レテ顯職トナリ酸辛ノ勞ナク民情ニ達セズ交通廣カラズ斯ノ如クニシテ一生ヲ僻陬ニ了ルベケンヤト仕途ヲ絶チ飄然トシテ江戸ニ出デ林學士ノ塾ニ入リテ學ブ然レドモ書生ノ句ヲ摘ミ章ヲ拾フテ事トセズ專古人ノ中ニ就キ慕フ所ヲ撰ブ此ノ時西洋人ノ來ルモノ多クハ跳梁跋扈スルアルヲ見テ國家ノ急ヲ援ハント欲シ藩ニ歸リ同志ノ者ヲ得テ皇朝ノ爲ト幕府ノ爲トニ働カントス是ニ於テ復舉ゲラレテ中老トナル是ヨリ藩政改革ヲ以テ自任シ勵精力行知ツテ爲サヾル無シ慶應丁卯ノ年年寄役トナリ祿二百五十石ヲ加ヘラル八月君命ヲ帶ビテ京師ニ入ルヤ諸藩周旋方ト國事ヲ議シ周旋大ニ勤ノ一藩ノ方向ヲ立テントシテ病ヲ得三年十月廿二日沒ス享年三十一此ノ藩ガ維新ノ際方向ヲ誤ラズ一藩謹ンデ西園寺總督ノ下ニ歸順シタルハ君ガ誘掖ノ功多キニ居レリ

京都府立総合資料館所蔵

因ニ記ス周旋方ノ丁

江戸全盛ノ時ニ當リ三百有餘ノ諸藩ガ交際ノ一大機關ナルモノハ留守居役ナリ元ヲ言ヘバ藩侯ガ在國スル時ニ江戸ニ留守シ君侯ニ代ハリ諸藩ト交際スルノ任ナリシガ君侯在府スル時モ猶コレラシテ其ノ局ニ當ラシメタルナリ其ノ役ニ其ノ人ヲ得レバ折衝禦侮シテ藩譽ヲ揚ゲ藩禍ヲ免レシメル抑一々屈指スベカラザル底ノ功課アリタリ

江戸政府衰ヘテ權力西移スルヨリヤ其ノ情力ハ變ジテ周旋方ノ名義トナリ諸藩爭フテ勞識アル青年ヲ以テ京ニ入レ諸藩交際ノ任ニ當ラシメ之ニ因リテ諸藩ノ強弱貧富ヨリ其ノ方向ノ如何ヲトシ天下ノ形勢ヲ覘フノ用ニ供シタリ江戸ノ留守居タル資格ハ大藩ノ留守居ト交リ小藩柳ノ間大名ノ留守居ハ柳ノ間大名ノ留守居ト交リタルニ今ハ昔小藩ト雖富强ニシテ勤王ノ先鞭タルモノハ其ノ力ニヨリ大藩ノ上ニ列スルト云フ樣ニナリ日ヲ定メテ會シ相互ノ方針ヲ定メテ君侯ニ密聞シ家老ヲ誘掖スルヲ以テ勤トシ時トシテハ妓樓ニ會シテ終タ國事ヲ杯盤ノ間ニ議スルナド毎度コレアリ幕府ノ出ルアルヤニヲシテ議セシメ諸藩擧ツテ反抗スルナドモ其ノ實コノ會議ノ決スル所ヲ行フタルナリ故ヲ以テ周旋方ナル名義ハ大ニ世間ニ尊重セラレ又ハ恐怖セラ

京都府立総合資料館所蔵

レ幕府ヨリハ平常穏密方トシヘル探偵ヲ放ツテ
其ノ挙動ヲ知ラントスルノ方法タルハ傳奏
周旋方ガ朝廷ノ機密ヲ探知スル方法タルハ傳奏
雑掌ニ取入ツテ其ノ事情ヲ察知スルニアリ非藏
人ニ取縋ツテ之ヲ聞知スルニアリ傳奏トハ幕
府ヨリノ奏聞ヲ取扱ヒ又ハ詔勅ヲ幕府ヘ傳達
スルノ公卿ニシテ雑掌トハ其ノ臣下ニテ公務ニ
與ル者　非藏人ナルモノハ公卿ノ次官ニテ其ノ
命令ヲ執行スル官名ナリ
周旋方ガ幕府ノ機密ヲ復知スルニハ老中ノ公用
人ニ交ルヒアリ然レヒ公用人ハ用務多端ニシテ
湯ニ近ヅケザルヲ以テ其ノ藩ノ周旋方ニヨリ老
中ノ腹案ヤ發表セントスル御敕書案（徳川ニテハ御敕書ナドヲ云ハ未共）
ナドヲモ知リ得ルナリ周旋方ハ相互ノ交義ヲ室
シシ大抵ノ一ハ示シ合フナリ
寺田源五左衛門
源五左衛門名ハ則榮　慶應三年大阪ニ在リテ一
隊ノ長タリ幕運衰ヘ西國大藩ノ勢力日ニ加ハル
ノ時ニ最要衝タル安治川口ニ在リテ警邏ノ事ヲ
掌ル薩摩ノ兵卒ト衝突シ其ノ勢止ムヲ得ズ捕ヘ
テ以テ大阪町奉行ニ致ス是ニ於テ薩摩藩ノ怒ニ
觸レ来リ紀スアラントス此ノ時政令多門ヨリ出
デ小藩ノ悲シサ其ノ適從スル所ヲ知ラズ薩藩ハ
幕府ヲ蔑如シ官軍ヲ以テ自居ル源五左衛門災禍

京都府立総合資料館所蔵

ノ藩債ニ及バンヲ憂ヘ同年二月廿九日屠腹シテ死ス年五十九善行寺ニ葬ル寺ニ碑アリ詳ニ傳ス

維新ノ際藩制改革朝令暮改藩知事大参事少参事ナドアクテ政令ヲ掌リ廢藩後藩知事アリ少焉シテ知事ハ華族トナリ大参事以下上士中士下士トナリ更ニ一般ニ士族トナリ四等ニ區分セラレ上士デアリシ分ニハ二十石五斗ヲ給シ中士ニテアリシ分ニハ十六石八斗ヲ給シ下士ニテアリシ分ニ十四石ト十二石トアリ卒卽チ足軽ニモ八石六石ノ二級アリ最後ニ公債證書ヲ下附シ祿制ハ廢止セラレヌ

當時藩制改革ノ際軍務掌ル所アリ其ノ下ニ歩兵頭七人アリ小頭一人卒十五人元ヲ掌レリ維新前ノ物頭以下軍職ト大差ナシ維新當時ハ每事名ヲ換フルノ流行ナセシナリ

天保以来諸藩ノ疲弊極度ニ達シ從前幕許ヲ得テ發行シタル鐵札ハ次第ニ其ノ數ヲ增シ此ノ不換紙幣ノ高凡萬六千七百二十六圓○七錢五厘トナレリ藩札ハ銀幾匁何分ナル銀相場ヲ維新後ノ金札相場ニ引直シタルナリ明治四年當時發行ノ大政官札出デ藩札ハ其ノ影ヲ收メタリ換言スレバ藩債ガ國債トナリシナリ

明治四年丹後ノ久美濱縣下トナリ幾許ナラズシテ但馬ノ豊岡縣下トナリ其ノ支廳ヲ城内ニ置ク

京都府立総合資料館所蔵

之ヲ九年度ノ小藩小縣合一政畧トス而シテ同年
京都管下トナル
明治五年天主閣外門本丸菩提寺下宮津人小室某買
取城地ハ福知山町藤本喜矢衛志保田六矢衛買取
ル
廢藩ノ令出テヽ諸大名ハ城地封土ヲ離レ東京ニ
徙ルヲ以テ朽木氏モ亦數十百年ノ故土ヲ辭シ家
族ヲ率ヒ舊臣ニ送ラレテ東去スルヤ城郭ハ壞タ
レ濠池ハ埋マレ士族ハ邸第ヲ引拂フテ村居スル
モノ市居スルモノ已ガジヽ生計ノ途ヲ立テント
彷徨シ舊君侯ノ賣却品丈デサヘ骨董店ニ溢レタ
ルニ士族ノ什器武器衣類運具等到ル處ニ賣品ト
シテ陳列セラレ如何ニ成リ行クヿカ舊君士族
ノアリテ社數百ノ商賈モ立チ行クナレ斯カル有
様ニテハ福知山町ノ全滅近キニアラント氣遣フ
モノ過半ナリしかも士族ノ商業失廢ニ歸シ其ノ資
金ハ大抵商賈ノ獲得スル所トナリ傍近諸邑ノ購
買力ハ依然トシテ減ゼザルノミカ穀價ノ騰湧ニ
連レテ賣口益〻開ケ金融機關亦倍〻起リ愁
眉ハ次第ニ開ケ行クヿトハナレリ之ニ加フルニ
旅團ト鐵道ト相待ツテ益〻需要供給ヲ盛ンニ
セリ藩士五百所家千軒ト誇レル士族ハ倒レ商家
ハ勢力ヲ擴ケ三十二年篠山間三十哩ニ十二鎊ノ
鐵道竣工シ篠山ヨリ柏原ニ至ルモノモ同年ニ就

京都府立総合資料館所蔵

り三十七年十一月三日天長節ヲ以テ舞鶴閣全區ノ成功式ヲ行ヘリ

福知山聯隊入營記　旌時明治三十一年八月二十六日午前八時大阪城南練兵場ニ大阪師團ノ諸隊方陣ニ整列シ小川師團長ヨリ第二十聯隊ニ對シ訓辭的別辭ヲ述ベ了リテ解散ス

翌二十七日同隊出發頭序ハ　御真影　勅諭書　軍旗　聯隊本部　第三大隊半部　第二大隊半部　第一大隊　第二大隊等ノ殘部　城南兵營ヨリ嶋町北濱々通難波橋　大江橋堂嶋濱通ヲ經テ梅田ニ出デ順路三田篠山竹田等ニ宿シ三十日午前六時竹田發七時五十分福知山新營着京都府兵庫縣福井縣ノ參事官ハ知事代理トシテ其ノ他屬官郡長等ノ參集歓迎ヲリ赤十字社小學校教員生徒其他ノ出迎夥々緑門ノ建設烟火ノ打揚等巨多アリテ本町ハ肩摩轂擊セリ天田郡ヨリ清酒十樽牛三頭ヲ贈ル各村ヨリモ贈品アリ知事代理郡長町村名譽職員歓迎ノ辞ヲ叙ベ聯隊長ハ部下一同ニ代リ答詞ヲ叙ベ式ハ終レリ此ノ日需用多ク供給足ラズ飲食品庶ヲ拂ヘリ魚肉ニ至リテハ黄昏ニハ一尾ダニ得ル能ハザリキ古老ニ聞フ吾輩此ノ盛況ヲ見タルハ今日ヲ始トス

第二十聯隊（管轄井村字國　福知山町ノ南ニアリ）　工兵第十大隊（管轄井村字塚　國ノ南入町）

衛戍病院（福知山町字西尾跡）　練兵場（大師長田ニアリ）

京都府立総合資料館所蔵

弱肉強食ノ間ニ國ヲ立ツルモノ豈夫レ一日モ軍備ヲ忽諸ニ附シテ晏眠偷食ス可ケンヤ吾ガ國上下亦コヽニ視テ要所切所ニ陸海軍ヲ配附シ以テ緩急ニ備ヘタリ東海南海西海ノ防備ノ緒ニ就キ茲ニ此ノ地ノ経営ヲ肇ム夫レ福知山ノ地タル東ハ京都ニ接續シ西南山陰ヲ扼シ山陽ニ通ズ而シ北ハ舞鶴港ト輔車脣齒ヲ相成ス若夫レ國家不幸ニシテ外國ト釁ヲ啓カンニ舞鶴軍港アリテ以テ此ノ一方ヲ鎮護スベク福知山營アリテ軍港ニ後顧ノ憂無シ萬一北海ノ鎖鑰破毀セラレシカ南侵ノ敵兵ヲ邀撃スルニ何レノ地ヲ以テセン此ノ陰ニ當リ大軍對峙シテ勝敗ヲ一舉ニ決スルノ地ハ指ヲ長田野ニ屈ス内國ノ兵コヽニ支持スルヿ能ハズンバ退キテ須知野ニ紀シ以テ雌雄ヲ決セザル可ラズ故ニ軍機ヲ晉ルノ士ハ此ノ地ヲ以テ山陰道屈指ノ要所トスル所以ナリ

航空事業ノ陸軍ニ使用セラレタルヨリ聯合飛航ノ擧アリテ今回美濃各務原本部ヨリ聯合飛航ノ步合ハセアリ福田中尉操縱ノモ式二百七十六並ニ山崎曹長ノ二百七十九同小西軍曹ノ二百七十三ノ三機ハ大正十年五月廿三日午前五時各務ヵ原出發途中篠山聯隊ノ上空ヲ経テ七時半長田野蠶ヶ原ニ着ス　廿四日午前八時ヨリ長田野演習地ニテ三機ハ步兵第二十聯隊ト聯合シ空中ヨリ

京都府立総合資料館所蔵

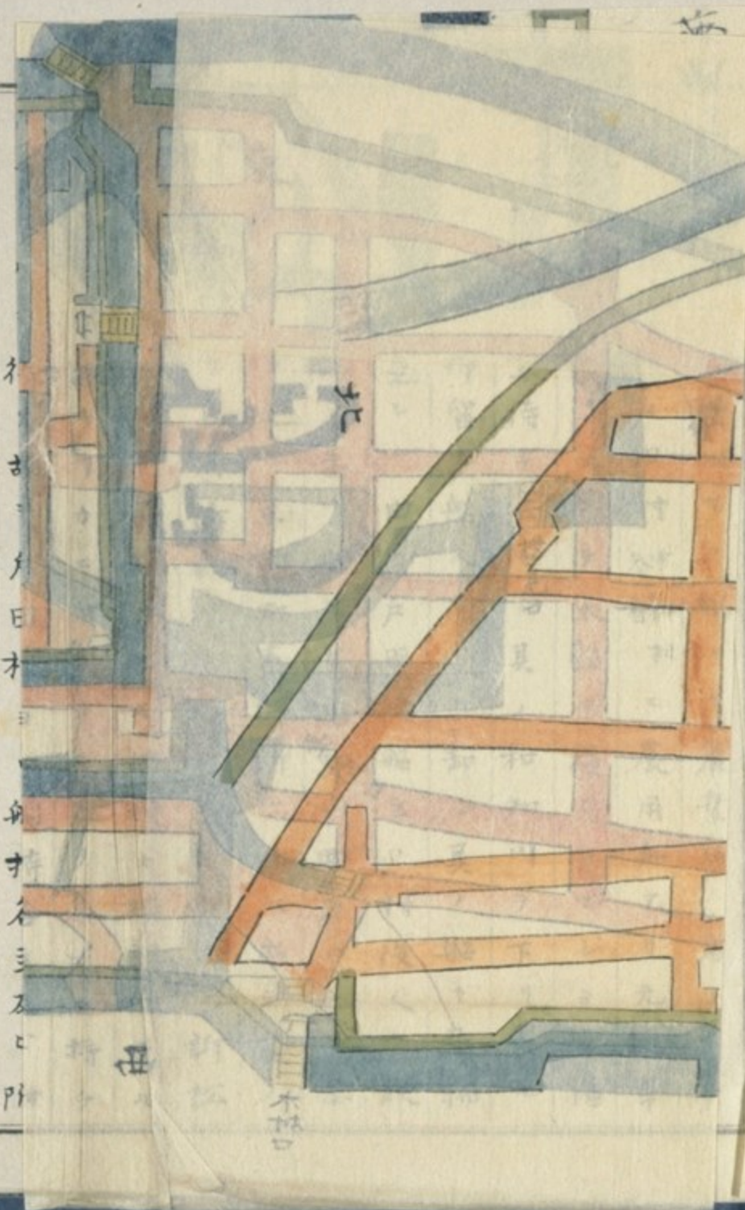
爆彈投下ヲ爲シ地上ヨリハ飛行機狙撃ヲ爲シ九時ニ至リ演習終了後福知山訪問飛行ヲ爲シ午後三時ヨリ惇明小學校ニテ福知山聯隊ノ出身ナル稲田中尉ノ演說アリ　廿五日未明三機ハ各務ヶ原ヘ向ケ出發操縱者ハ二百七十三ヲ小嶋軍曹三百七十六号ヲ杉下軍曹二百七十九号ヲ正廣軍曹トシ美濃安八郡三四郎村字川又ニテ正廣軍曹墜死ス

右ニ對スル遺族弔慰金ヲ募集シタルニ福知山町有志ノ醵金千四百六十七圓ヲ得タルヲ以テ現金ヲ旅團長ニ送リ中ニ就キ墜落負傷シタル杉下軍曹ニ其ノ幾分ヲ配送シタリ

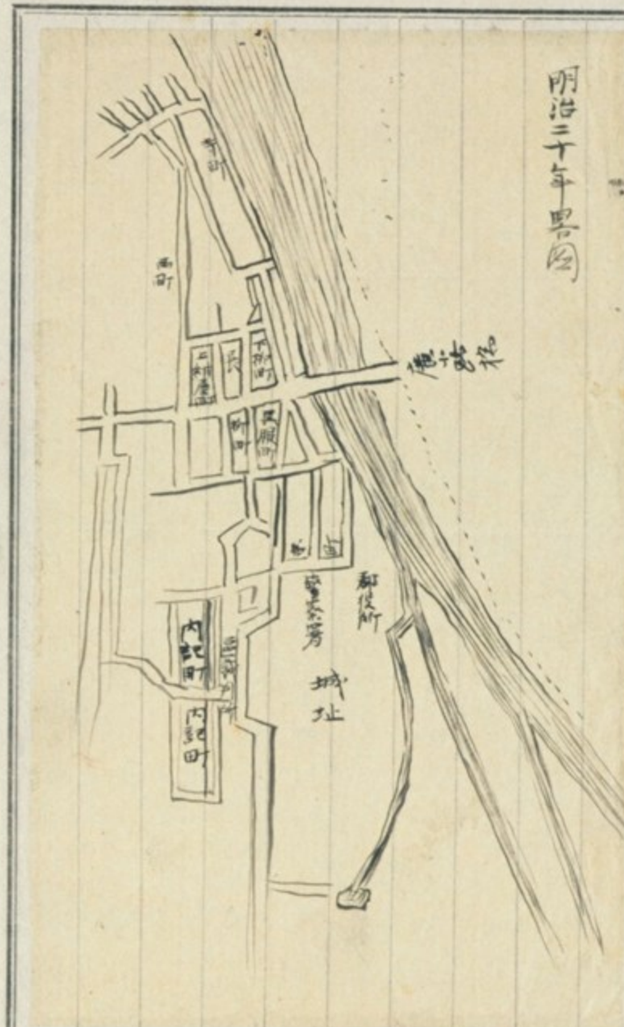
福知山　元錄高七百三十四石　寛政改高七百三十四石〇九升　文久同　文久南岡村高二百七十一石八斗五合　此ノ地ノ本名ヲ木村南岡村トス　曾我丹村參看　明智光秀ノ經營築城ニヨリ土地ニ變更ヲ生ジ之ヲ併セテ城郭地市坊地トシ改メテ今ノ名トス惟任氏ノ丹波民心ヲ得ルニ汲々タルヤ此ノ地モ亀山周山ト共ニ諸役免除ノ令ヲ布ケリ宜ナル哉近時ニ至ル迄盆年ニ高燈ヲ掲ゲ家々其ノ靈ヲ祭リタルヿノ亀山及ビ北桑田郡ノ周山ニ同ジキヿ

通船ノ丹後ヨリ來ルモノ此ノ地以上ニ泝ルヿ無シ而シテ此ノ地ニ川運上所アリテ由良港ヨリ水

京都府立総合資料館所蔵

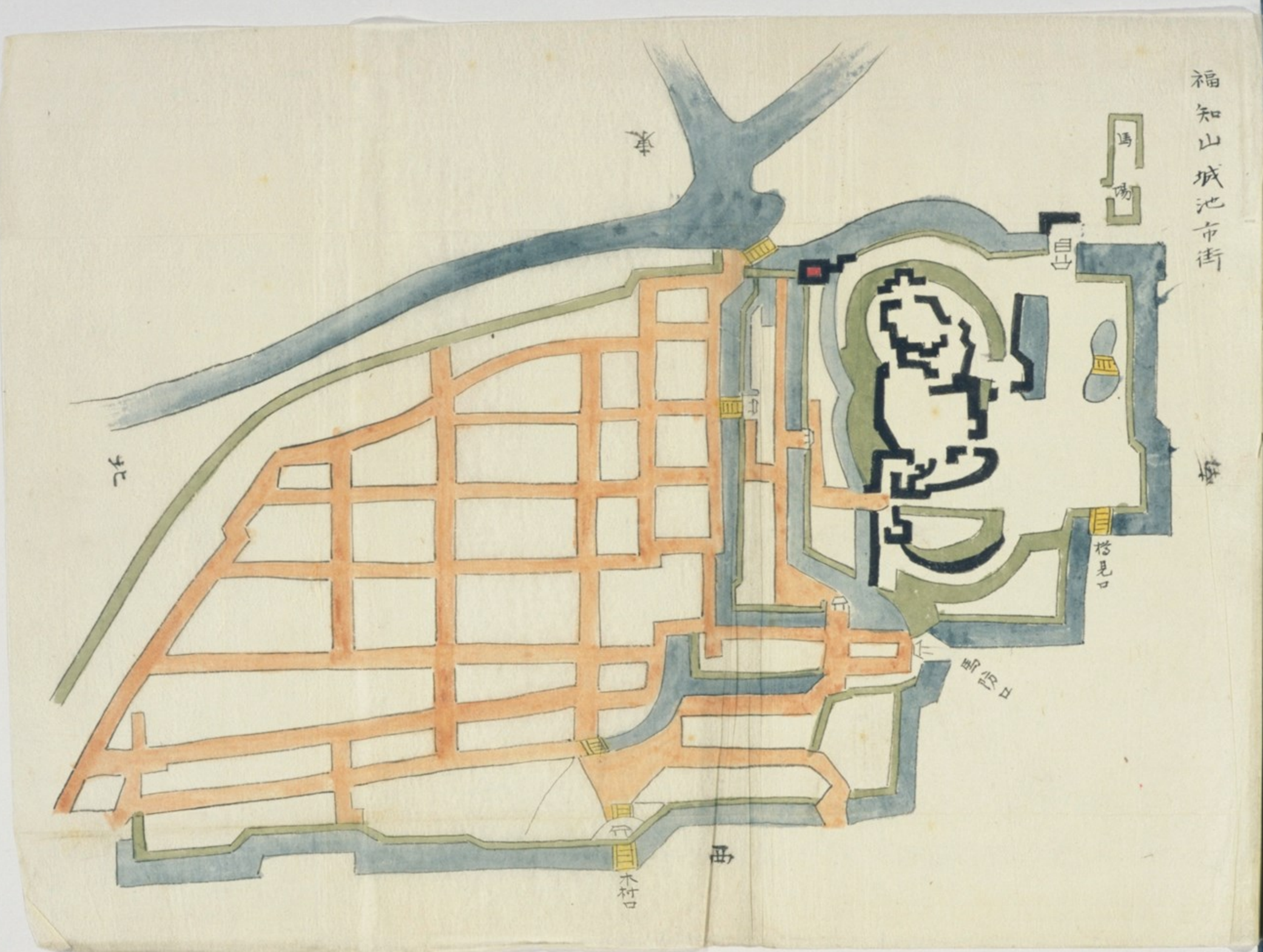


上九里往返ノ舩税ヲ徴ス是ハ藩ノ所得トナル往昔ハ福知山人ノミ通舩ノ自由ヲ得テ他郷他村ノ



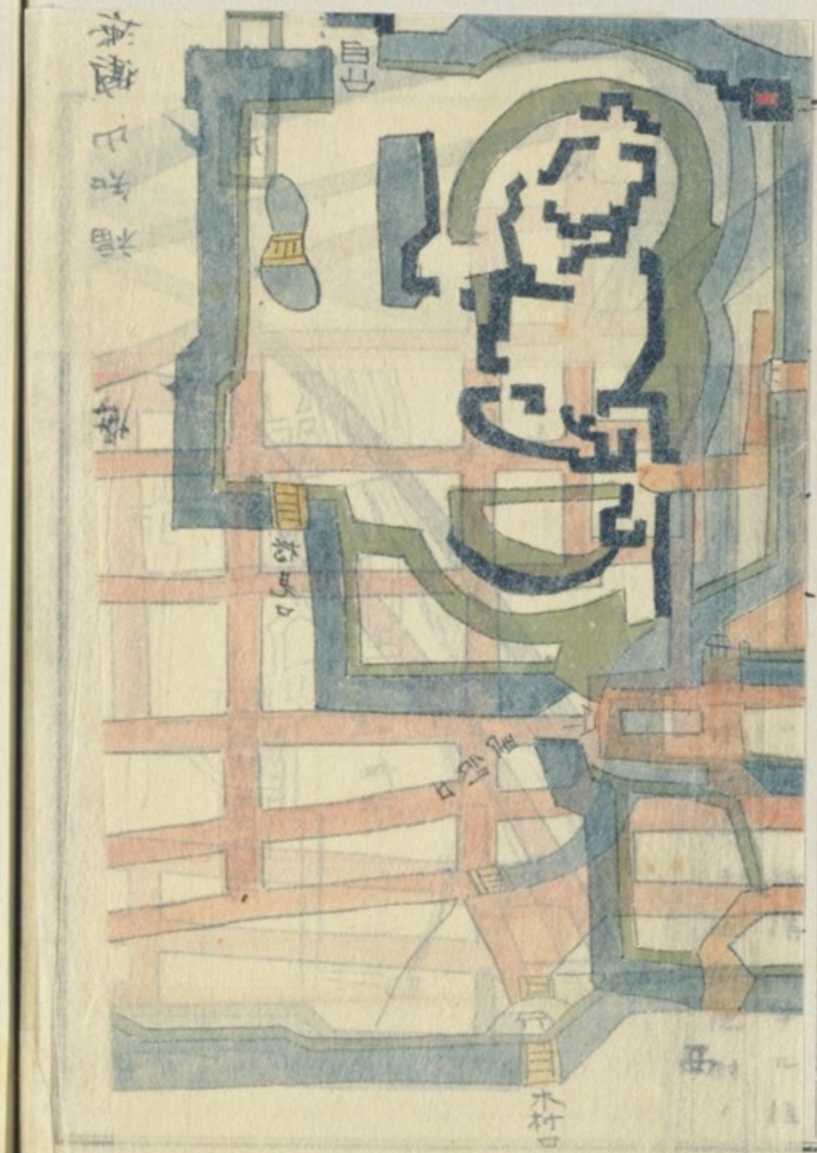
京都府立総合資料館所蔵

福知山城池市街



京都府立総合資料館所蔵

者ハ米二十石積以下ノ船ニテ農業用ノ者ノミナリシニ柏原領戸田村中筋村ニ農用舟アリ元文年中該村人ガ之ヲ用ヒテ米穀ヲ積ミ下セシヨリ福知山船持ノ輩待チ伏セシ其ノ和知川ヲ下リ来ルヲ見テ之ヲ抑留シ船人ヲ追ヒ卸シ其ノ船ト荷物ヲ押收セリ是レニ由リ戸田村船主ハ村役人ト取リ戻シノ交渉ニ来リタルガ福知山町方ハ之ニ應ゼザリシカバ之ヲ京都町奉行所ニ訴ヘ出デ其ノ判決ヲ願ヘリ幕府訴訟ノ方法タルヤ領内ノ訴訟ハ領主代官コレヲ裁判スルモ他領ト相関係スルカ又ハ先例無キヿカニ付キテハ之ヲ幕廷ニ持チ出サヾルヲ得ズ故ニ戸田村ヨリ船持名主及ビ附



京都府立総合資料館所蔵

添ノ藩吏等出京シ福知山町人ハ被告トシテ船持
町役藩吏上京シ町奉行所ニ於テ公事方與力ノ裁
判ヲ受ケ古例ノ通リタルベシトノ言渡シアリテ
福知山町人ノ勝公事トナリ抑留船穀物共之ヲ返
却セズ剌ヘ一札ノ断ハリ状ヲモ取リテ一件ハ落
着セリ

此ノ時福知山ノ船持ハ十七人ナリシガ爾後船株
トナリ賣買スルヿトナリ其ノ賣買ノ度毎ニ親方
ノ小兵衛ナルモノニ届出デ運上ヲ納ム小兵衛ト
云フハ此ノ川ニ船ヲ通ズルヿヲ始メタルモノナ
レバナリ

下シ荷物ハ米穀油粕酒類漆實茶草綿古着類紙草
等
上リ荷物ハ米穀油粕酒類干者杉木薪塩油良石魚
介等

此ノ下リ船ハ丹後國加佐郡有路村ニ船持ガ出来
テ福知山ヨリ積ミ下ス物ノ絶キ立テヲ爲スニ至
レリ由リテ其ノ所ヲ限リトスルノ免状ヲ所持セ
ザル可ラズ是レハ公儀免状トテ幕府ヨリ下ケ渡
スモノトス

町役人　名主兼人　塩問屋　四軒

川猟運上　大猟ハ銀十三匁　是ハ年中大網ヲ用
ヒ鯉鮭類ヲ捕ルモノ　中猟ハ銀六匁　是ハ年
中小魚ヲ捕ルモノ　小猟ハ銀三匁　是ハ鮎ノ

京都府立総合資料館所蔵

ミニテ上リ鮎下リ鮎ヲ捕ルモノ其ノ場所ハ福知山町土師村猪ノ嶋村地域ニアル川線トス但藩人ハ出銀セズシテ獵漁シ得ルナリ

新産物ニハ骨柳アリ此ノ原料ハ城壕ニ植栽シ製造方法ハ但馬ヨリ專工ヲ聘シテ學習セリ婦人小兒ノ内職トシテハ有利ナリ士族亦多ク之ニ從事ス素麪ハ一把ニシテ他所製品ノハ九把ニモ當ルベシ

市坊十九町　寛政年間ニハ十五町ナリシ

京

吳服　東長　西長　上柳　下柳　上紺屋　下紺屋　鍛冶　菱屋　西寺　鑄物師　上新下新　東西七町二十間南北十五町三十間

町

數十五　音無瀨堤防ノ遊郭明治四十年大水流失後前岸猪ノ嶋ヘ移ス

戶數一千百五十九　人口六千四百　二十六年　五千六百三十六　二十七年　五千四百　三十年水災後　六千百三十七人　三十二年　壹萬壹千三百六十四戶　四十一年　壹萬千五百三十七戶　四十二年

郡役所　警察署　區裁判所　病院　金庫　銀行　米穀取引所　織布會社　材木會社　郵便電信局　馬車會社　二十五年

寛政年間路程表　京都二十里　篠山　九里　大阪二十六里　江戶　百四十七里　東海道經由　亀山　亀岡ノ一十五里　園部　十一里　綾部　三里　柏原　六里　三田　十

京都府立総合資料館所蔵

九里　姫路　二十七里　宮津　八里　田邊　舞鶴ノ一八里
由良　八里　出石　九里　城崎　十五里
改正里程　京都　二十三里三十町　亀岡　十五里二十一町　宮
津　十五里　同別路　八里五町
聯隊區司令部　聯隊司令官副官軍吏書記等アリ
テ徴兵事務ヲ掌リ死亡異動勲賞疾病ノ治否歸休
兵ノ一管内ノ兵事ハ悉ク與ル　軍醫モ之アリ三
十一年前土地ハ沖積平野ナリ
人口　本籍人　男三万一千五百六十六人　女三万一千一百四十二人　合六萬二千七百八人
前年ヨリ百七十人増加
寓留人　男三万九百七十二人　女三万一千五百九十一人　合六萬二千五百六十六人
前年ヨリ千九百四人増加

本籍人ノ年内出産　男千二十二人　女九百五十三人　合千九百七十七人
死亡　男七百六十四人　女六百九十三人　合千四百五十七人
差引五百二十人増加
盆踊　材木氏始封ノ頃ヨリ始マリ二百年間行ハ
レ明治初年禁令ニ逢ヒ大正初年大ニ舊ニ優ルノ
盛況ヲ示ス揃ノ衣裳ニハ十六手ヲ踊ルナド他方
稀有ノ風習トスフ三味線以外ノ樂器ヲサヘ用ユ
ルアリ次ニ出ス俚歌ハ踊ノ外ニモ持チ囃サル
福知山サン四ツ目ノ御紋（チヨイ〳〵トコサンセイ）　如何ナ大名
モ叶ヤセヌ　福知山デノ大金持ハ木屋カ汐屋
カ萬屋カ（ドフコイシヨ〳〵）　木ヤカ汐ヤカ萬ヤヨリモマダ
モ善イノガ黒谷ヤ（トツコイシヨ〳〵）　福知千軒皆流レヘト

京都府立総合資料館所蔵

モ一町残レヨ土手ノ町

丸ニ矢ノ字ノ菱屋町水ノ出鼻ガ柳町　寺ツヤ

鄕音クヤ鍛冶ヤ町　イツモ安々魚ガ棚　蛇ケ端

蛇ガ出タ蛇ジヤゲナコワイ蛇々ノ蛇ジヤゲナ

嘘ジヤゲナ

記者一日朋友ノ老母ヲ其ノ寓所ニ訪ヒ古事藩情

ナド問ヒタル所及答辯ヲ左ニ摘記ス

先達テ御子息様ヨリ頼フテ戴キマシタ御話ヲ伺

ヒマスガ苦フゴザリマセヌカ

答　何ナリトモ私ノ存ジテ居リマスフヲ申シ上ケ

マスガ御存ジノ通リ前年ノ洪水ニ押流サレマシ

テニ里モ二里半モ水ニ浮キ沉ミ致シマシタノデ

毫ケヲ仕舞ヒマシテ日々ノフモ後ヤ先ニナリ勝

デゴザリマス併少々覺ヘテ居リマスフヲ御物語

リ致シマシヨー

御承知ノ通リ丹波ニテ海カラノ魚ガ参リマスノ

デ繁華ナフハ第一ト申シマス附キマシテハ町々

ハ中々盛ンナモノデ小藩ニハ似合ヒマセヌ人出

ノ多イフデゴザリマシタ又其ノ代リ若イ者等ノ

不品行ト申シマスト外々御大名ノ御家来ニハ珍

ラシイ程ノフヲ致シマシタズット以前カラ遊所

ガゴザリマシタノデ町人ノ若イモノハ申スマデ

モゴザリマセヌガ藩中カラ澤山参リマシタ私モ

廢藩後當地ヘ（亀岡近傍ノ村住居）参リマシテ亀岡ヤ園

部ヤノ藩士ノ質素ナニ感心致シマシタ左様ニ入
リガ宜シカツタノデゴザリマス故カ亀岡藩ヤ園
部藩ノ人々ノ内職ナサル様ノコトハ徒士以下ノモ
ノデゴザリマシテ私共ノ内デハ昔カラ内職ナド
致シタコトハ承リマセヌ足軽以下中間小者ハ扶持
ノ外ニ毎月味噌一貫目下サレマシタ仲間小者ハ
糖味噌デアツタ様ニ承ツテオリマス身分ニヨリ
マシテノ暮シ方ハ多分ノ相違モアリマシタ様デ
ゴザリマスガ大金持モナケレバ貧乏モナカツタ
様デゴザリマスカ是ハ家元ノ
家ニ下女ガアリマス位ニテソレヨリ以下ニ下女
ヲ置クナドノコトハゴザリマセナンダ兒寺ハ別段

デゴザリマス次男三男デスカ大抵同藩中ノ養子
トナツタ様ニ存ジマス俸御一新前カラ御国メニ
人ガ要リマシタノデ召シ出サレマシタ給米ハ毎
月ニ七ノ日ニ受ケ取レマスノデ飯米ノ要リマス
時又ハ小使銭ノ要リマス時ニハ申シ送リマスト
役人カラ送ツテ呉レマシタ便利ナコトハ真綿小豆
々類其他殿ノ領地ヨリ納マリマシタ品々ハ之ヲ
其ノ掛リ役人ヘ求メルコトガ出来マス其ノ代價ヲ
見積モリ禄米ノ内ヨリ引去リマス着物ハ平生木
綿バカリデゴザリマス堅糸絹雑リ位ハ許サレテ
居リマス下着ニハ絹物ヲ用ルコト勝手デゴザリマ
シタ甲サバ上部ノ倹約デゴザリマシタ様デスナ

京都府立総合資料館所蔵

一嫁入ニハ絹物モ持タセテ遣リマスガ裾模様ナ
ドハ一般禁制デゴザリマシタ嫁入ノゴザリマス
時ハ徒士目付ガ其ノ家ノ近傍ヘ出張リマシテ其
ノ様子ヲ家老ニ告ゲマスノデ過分ノコトガ知レマ
ストセ日ノ閉門ヲ申シ付ケラレマシタ　私デス
カ中分以上ノ家デハ女子ヲ外出サセマスルコガ
出来悪ウゴザリマシテ祭禮ニサヘ見ニ行キカネ
マシタ佛参致シマスノニモ出入リモノヲ雇ヒマ
シテ供ニ連レネバナラヌト云フ手數デゴザリマ
シタ勿論町家ヘ立寄リマスルコハ仕悪ウゴザリ
マシタ男子デモ町人ト交際致シマスルノハ憚リ
マシタ江戸詰デゴザリマスカ是ハ殿ノ側ヲ勤メマ

スルモノハ上リ下リ共其ノ供ヲ致シマスノデ毎
年一度ツヽ行クカ戻ルカトナリマスガ役々ニヨ
リマシテ三年目ニ一度四年目ニ一度ツヽ一年江
戸詰トナリマシタ其ノ度毎ニテゴザリマスガ是
ハ始終相互ノコトデゴサリマス故餞別ナドノコハ
ゴザリマセナンダ留守中ノ依頼ヲ親族ニ言フ爲
ノ廻勤位デゴザリマシタ歸國ノ時ハ魚類ヲ贈ル
コモゴザリマシタ
殿ノコトデゴザリマスカ是ハ一向承リマセヌ何分
勤メ向ノコヲ女ニ云フハ嚴禁ノ様ニ思ハレマシ
タ參勤交代ノ時デモ行列ヲ拜見スルコガ出来マ
セナンダ強ヒテ見タイトキハ通リ筋ノ町家ヲ借

京都府立総合資料館所蔵

リマシテ具家ノモノト土下座シテ拜見スル位デゴザリマシタ左様デスナ｜四十人位ノ同勢デゴザリマシタ高ノ割合ニハ淋シキ行列デアルト承ツテ居リマシタ正月ノ氏神參詣盆正月ノ墓參先祖命日ノ墓參ニハ供人ニ十四五名デゴザリマシタ鷹狩ナドハ承リマセヌ山獵ノコトモ承リマセヌ毎年春一度鯉取ガゴザリマシタ供ハ家老一名近習數名茶坊主賄方足輕仲間ナド二十名餘リデゴザリマシタ毎年ト申シマシタノハ國ニ入ラセラルヽ時バカリデゴザリマス殿ハ殊ノ外ナル不男デアリマシタ故ニ馬ニ召サルヽナドノコトハ無ク常々駕籠ニノミ召サレマシタノジヤト承リ申マシタ正月元日ニハ參賀ノ式ガゴザリマシテ目見ヘ以上ノモノハ叩牛蒡數ノ子ニテ酒ヲ下サレマシタ四日ニハ領内ノ神官僧侶ノ登城ニテ衣服ノ見セ合ヒト申シマシテ吾一ト飾ツテ出マシタ庄屋纖多ノ庄屋ハ三日ニ禮ニ參リマシタ謠初ハ七日カ八日ニゴザリマシタ藩中ニテ上手ノモノガ一人勤メマス目見以上ノモノニ限リマス濟ミマスルト酒肴ヲ下サリマシタ上ニ殿ノ紋付上下ヲ引出物ニ戴キマシタ依ツテ謠ハ流行リマシタ能モ一年ニ四廟所デゴザリマシタ舞臺ハ常モゴザリマシテ役者ハ京都カラ參リ藩士ノ嗜ミアルモノ共々雜子舞ナド致シマシタ

京都府立総合資料館所蔵

是位ヨリ覺ヘマセヌモチト思ヒ出シソーナモノデゴザリマスガ出マセヌ御琴ノフニ付キマシテ思ヒ出シマシタナラバ倅ニ申シマシテ御耳ニ入レル様致シマシヨ——

第二十聯隊記事節畧

軍旗ハ明治十八年七月廿一日宮中ニ於テ御授與ノ舉式ハ同年七月二十六日大阪城南練兵場ニ於テ大阪鎮臺司令官高嶋鞆之助具ノ式典ヲ擧行ス

二十七八年戰役ニハ四月十六日動員令出デ五月五日福知山出發八月神戸着十日兵庫港出帆十九日清國盛京省牽尖澳上陸　大孤山上陸軍ノ前衛トナル　五月二十日初戰王家屯ニ於テ敵騎兵隊長大尉ペケレメチエ以下十一名ヲ斃シ捕虜六名馬四十六頭小銃十八挺刀ニ十本方匙五箇彈藥二千四百四十六發鞍三十一箇隊旗一本地圖三十八葉露紙幣一千七百二十餘ルドフル毛布被服及ビ雜品書類無數ヲ獲得ス吾ガ隊中即死兵卒二名重傷兵卒一名

聖二十一日前哨大隊敵兵九名ヲ斃シ戰利品ニハ小銃七挺刀八本彈藥二百三十七發アリ吾ガ戰死卒一名

六月三日何家屯ノ戰アリ中尉少尉各一名下士以下六名負傷シ兵卒一名即死　敵兵退却同八日岫巖ノ兵ヲ破ル　同二十五日三大隊師團ノ豫備ト

京都府立総合資料館所蔵

シテ派遣ス　廿七日戰鬪スルニ時間其ノ陣地ヲ奪フ支隊本隊モ亦ニ道溝ノ敵ヲ破リ小孤山附近ニ至ルヲ分水嶺ノ戰ト云フ特務曹長一名負傷シ兵卒四名負傷ス鹵獲品ニハ銃十三挺被服巨多

捕虜少尉一名下士以下八名アリ

七月一日第四軍ノ戰鬪序列ニ入ル　同廿一日ヨリ廿四日ニ至ル盤嶺通路ニ戰フ　一部偵察隊牛心山ニテ敵ヲ破リ一名負傷シ敵兵一名ヲ捕フ

敵軍頑強我カ軍苦戰　第五十一中隊ノ撫拔兵絶壁ヲ攀ヂ敵ノ右側背ニ出デ急射擊ス第六中隊ハ前面ノ敵ヲ攻メ北方高地ヲ占領シ夾擊セシカバ敵兵大敗走ス遺屍九十五内ニ大尉三名主計一名アリ下士以下俘虜十一名戰利品小銃四十二挺軍刀ニ振彈藥千五百九十八發方匙八挺小斧三挺彈藥盒二十四個喇叭一箇雜囊百個被服裝具無數

我カ戰死少尉一名下士以下廿一名騎兵二名

二十四日　敗走ノ敵ハ石頭寨ニ停止シ防禦ス歩兵三大隊騎兵五百計アリ乃ニ大隊ヲ以テ前面ヨリ牽制シ主力ハ難路ヲ越エテ後面ニ出デ瞰射シタルニ大半走リ逃ゲタル後ニテ僅ニ三個中隊アルノミ三十分ノ交戰ニテ此ノ地ヲ占領ス　此ノ戰ニ死傷無シ　敵ノ捕虜兵卒一名捕獲品小銃三挺彈藥裝具若干　石頭寨ハ要地ナリ之ヲ取リタルニ因リ後戰ノ便開ケリ

京都府立総合資料館所蔵

八月二十五日　タウビンコーノ敵ヲ敗リ　マホアサンノ敵ヲ敗リ前衛ノ任務ヲ盡シ　第三中隊敵ノ歩兵約一小隊ヲ奇襲シテ其ノ地ヲ占領シ第三大隊ハタウビンコウ高地ヲ取リ小隊長負傷中尉兵卒各一名負傷ス退却シテ又進ム敵勢トウイデスイニ敗走ス

正面ノ敵ハ高地凹地ヲ利用シテ防禦シタルモ近距離ノ急射撃ニ耐エズ退却ス砲二門吾ガ彈丸ノ爲ニ沉黙シタルモ又四門ノ砲モテ来ル敵ニ達フモ應戰シウヽ目的地ニ達セリ聯隊ノ主力ハ高地ニ集結ス　トウイデスイノ偵察ニ向フタル大佐童傳少佐郎先ス（桂大佐　森少佐）砲兵中隊ノ爲ニ敵ハ敗走シフワマイトウン吾ガ手ニ落ツ

第十一中隊ハ十間房ニ於テ敵ノ歩兵約三中隊ヲ攻撃シ第五師團ト協力シテ西方高地ノ敵ヲ排シ高地ヲ該團ニ讓リ大隊ニ合ス　此戰ハ月夜ヲ利用シタルナリ　敵ハ巧ニ退却シ遺屍三アルノミ　歩兵少佐一名下士以下五名　大佐一名負傷中尉少尉曹長各一名下士以下三十七名アリシヲモ顧ミズニ十七日進ンデ敵陣地ヲ占領シ走敵ヲ追ヒ七嶺子ニ至リ靈山寺砲兵陣地ヲ奪ヒ沙河鎮ニテ第二軍ト連絡ス　二十九日聯隊進撃數度ニ轉戰シ到ル處捷ヲ奏シ　タイルエントンニテ戰死者下士以下三名負傷十名アリ　三十日遼陽想攻撃ノ準備ヲ爲

京都府立総合資料館所蔵

スレフイヨーズイ高地ヲ占領ス　四十聯隊ウイ
ビヤゴーニ苦戰ス第三大隊長負傷ス以下死傷益
多シ一進一退高粱ノ間ヲ出デ耕作物凹地ヲ利用
シテ前進スレドモ敵ノ防戰甚巧ニシテ砲火衰ヘ
ズ　敵ハ三大隊計砲八門アリ　吾ガ砲カノ十分
ナラザリシヲ以テ損害過甚ナリシナリ負傷少佐
一人大尉二人中尉一人少尉二人下士以下二百十
九名戰死下士以下三十名　三十一日又戰フ敵夜
半ニ退却ス　九月一日追擊シ處々ニ迫戰ス　二
日バジヤカンツイニ進ミジユジヤトウニ止宿スル
ヤ敵ノ夜襲アリ一時三十分間ノ戰ニテ之ヲ擊退
ス　三日フアエヲ攻ムルノ目的ニテ濃霧中ヲ前

進シ銃砲火ヲ犯シ高粱中ヲ進ム前隊ハ死傷相踵
キ行進ヲ中止ス第八中隊ハ第五中隊ノ線ニ伍間
增加ヲナシ沉默ノ散兵線ノ英氣ヲ挽回シ左轉右
回スル内ニ聯隊長重傷シ聯隊長代理少佐亦負傷
シ大尉代リテ指揮スルノ苦境ニ陷レリ　已ニシ
テ補充成リ進ミニ進ミ右翼ト連絡ス　正面ノ戰
猛烈ニシテ第三大隊ハ二少尉ノ外指揮者皆仆レ
七中隊ノ如キハ上等兵指揮ヲ爲スニ至レリ　暫
アリテ後隊加ハリ士氣興奮シ軍旗中隊ノ進ムト
共ニ突擊喇叭ノ吹奏ヲ聞キ傷者モ亦起チ立ツアア
ンミヤオノ角堡ニ迫ルヤ地雷數發爆發スルニ逢ヒ
タルカ　早ヤ敵壘ニハ旭旗飜リ萬歲ノ聲起リヌ

京都府立総合資料館所蔵

夜中敵迹ヲ逐フテ遼陽城南門ニ向フ　第三大隊
八午後九時達ス　歩兵一中隊南門ニ突入ス　遼
陽城陷ル此戰ニ軍旗モ大負傷セリ　戰死者大尉
一中尉六曹長三下士以下二百七十五　負傷者中
佐一少佐一大尉三中尉三少尉九曹長四下士以下
六百三十八名

感狀

歩兵第二十聯隊

遼陽攻撃ノ際九月三日ユイアンミヤオ附近
最モ堅固ニ防備シタル敵ニ對シ苦戰一日上長
官悉ク負傷シ死傷續出其兵力ノ半ヲ失ヒ特ニ
第二大隊ノ如キハ將校盡ク死傷スルニ至ルモ
能ク奮戰シ全聯隊ノ秩序整然トシテ敢テ乱レ
ズ以テ突撃ノ機會ヲ得セシメ更ニ歩兵第十聯
隊ノ增加ヲ得テ猛然タル突撃ヲ實行シ終ニ敵
ノ堅壘ヲ陷レ續テ敵ヲ追撃シ遼陽城門ノ守兵
ヲ驅逐シ全軍ニ先チ遼陽城ニ進入シ其ノ東南
門ヲ占領シタルハ實ニ赫々タル武功トス依テ
茲ニ感狀ヲ附與ス

明治三十七年九月二十日　第四軍司令官伯爵　野津道貫

十月十日紅土崖子ニ集合ス　孤子庵ニ前進ス
第一中隊ハ前衛トナル　拒子山南方高地ヲ占領
ス　彼我砲ロヲ開ク　十一日　前進中敵ノ大縱
隊ノ進ミ來ルニ會シ　大堡南方ニテ猛烈ナル砲

京都府立総合資料館所蔵

擊ニ遭フ　死傷アルヲモ省ミス　大堡東方ニ達ス
第二第三大隊ハ拒子山東北ニ位置ス
夜戰　彼我混闘　一部ハ敵ノ後方ニ出デ岩下ニ
陷擒シテ鞍部ヲ占領ス　敵兵村内ニ入リ死守ス
吾ガ選抜兵ハ家屋ノ燒却ニ從事ス　天明ケテ彼
我ヲ別ツヲ得タリ　時ニ我ハ山上ニアリテ敵ヲ
山下ニ瞰射ス即時二百ヲ斃セリ敵逃ルヲ追フ
テ又斃ス　三家子ニ集ル　敵ヲ高地ニ攻メ接
戰シ石ヲ投ジテ相闘フニ至ル　遂ニ退却シ雷雨
ノ間ニ濠ヲ作リ堡ヲ作リテ保持ス　戰死大尉一
中尉一少尉一下士以下八十一　負傷ハ大尉二
中尉二　少尉五　曹長二　下士以下二百四十三

十三日　聯隊ハ師團豫備隊トナリ紅葉山圍山
寺ニ進ム　所々ノ戰アリ戰死兵卒一名負傷ハ名
十五日　去十日以來ノ戰モ本日三角山石領ニ
テ終局ス
三月一日　土嚢ヲ以テ造リシ陣地ヲ落成ス　大
隊ノ交代アルモ前哨中隊ハ敵ノ砲擊盛ンナル爲
ニ足ヲ抜ク能ハズ　聯隊ハ昨年沙河會戰ヨリ第
一線ニアリテ今日ニ至レルナリ　即死兵卒一
負傷ニ
二日　降雪アリ加フルニ南方背後ヨリ風ヲ送リ
我ニ利シ敵ヲレラ注視スル能ハザラシム　小戰
數回ニシテ敵ノ本陣地ニ接近ス雪止ミ天晴レ彼

京都府立総合資料館所蔵

我狙ヒヲ定ムルヿヲ得テ砲聲銃聲次第ニ激烈ナリ敵ノ歩兵約一中隊逆襲シ来リ吾ガ機関砲小隊六中隊ノ一部苦戦中ニアリシモ能ク拒ギタリ百四五十米突ノ所ニテ彼我相接ス敵ハ鐵條網狼井鹿柴ヲ以テ防禦ス　迫撃砲ヲ以テ敵ノ機関砲ヲ砕キ鐵條網ヲ破リ其ノ指揮官ヲ斃セリ敵ヨリ光彈ヲ送ルヿ太シ燎火ヲ焚キ又乱射ス　戦死中尉一　少尉一　下士以下五十七　馬二　負傷中尉一　少尉四　下士以下二百四十九　馬一

三日　角面堡ノ鐵條網破壊ヲ敵彈雨下ノ間ニ行フテ突撃路ヲ開キシモ天明ケタルヲ以テ果サズ敵彈過甚ナルガ為ニ前進スル能ハズ　敵ノ機関砲我ガ九ニ中リ往々沉黙セシメラル　戦死少尉一下士以下五十三　馬一　負傷大尉一　少尉三曹長一下士以下百四十九

四日　敵ノ砲兵ハ間断ナク射撃シ重砲ヲ爆送ス戦死下士以下六　馬一　負傷二十九　馬二

五日　敵ノ夜襲アリ三十九聯隊不利ノ情況ニアリ十一十二中隊左翼ニアリシガ援助トシテ来リ第一線ノ頽勢ヲ挽回シ敵ノ奪取シタル陣地ニ入リ之ヲ回復セリ八十ノ死躯ヲ遺棄シテ逃走スル敵ヲ追ヒ下士一名ヲ捕ヘタリ　敵ノ砲撃亦勤ム吾ガ防禦工事效ヲ奏ス　死傷兵卒一　馬一死シ下士以下三十五名　馬一負傷ス

京都府立総合資料館所蔵

六日　戰死兵卒一負傷少尉一　曹長一下士以下十

七日　光彈ヲ揚ゲ我ガ陣地ヲ偵察スルノ敵兵アリ機關砲ヲ乱射スルアリ　戰死下士以下七名負傷十三　聯隊ハ舊ニ仍リ凸出シテ獨リ敵前ニ向フ地位ニアリ

八日　敵ノ抗拒ニ逢ハズシテ第一線ヲ占領ス敵ヲ追伐シテ沙河ニ至リ厚氷ヲ渉リ柳判屯ニ入ル

九日　兩日南風土砂ヲ揚ゲ前進困難ス　渾河ヲ徒渉シテ敵ヲ撃フ　テミラーザヲ占領ス　敵兵五個中隊機關砲數門アリテ頑強ナリ　戰死下士以下二　負傷五

十日　アレキサンダー名譽聯隊以下歩兵約三大隊ト對陣シ日夜交戰已マズ吾ガ機關砲小隊ノ猛烈ナル射撃ニヨリ動搖スルヤ吾ガ軍旗ハ進ミ敵ノ陣地ニ立テラレタリ追撃隊ハ出デ他ハ止マル捜索隊ハ出デ將校斥候モ出デ英ガ堡方向ニ前進ス敵ノ歩兵一個大隊ヲ破リ英ガ堡ノ劇戰トナル敵ハ多數ノ死躯ヲ遺シテ退却ス　追撃中數戰ヲ經テ天柱山孤立村落ヲ占領ス數回交戰ノ際敵ノ大尉一名兵卒八名ヲ斃セリ尚ホ回轉前進シツヽ敵ヲ追ヒ打チ魚鱗堡北方ノ地ニ至ル

第四中隊長ハ敵ノ敗残兵九十名潜伏スル所ヲ知

京都府立総合資料館所蔵

リ投降ヲ勧告セレニ彼ハ容易ニ應シ来レルヲ以テ之ヲ捕虜トシ師團ニ合フ　戰死曹長一下士以下三十六　負傷少佐一　大尉一　中尉一　少尉一　曹長一　下士以下九十八　馬三　敵ノ捕虜將校三　下士以下百七十二　馬百六十三

戰利品　小銃六十七挺　地圏四十八葉　小斧七挺　方匙七挺　行李十一個　電信車輌五輌　輜重車二十八輌　馬車一輌　獵銃一挺　十字鍬十一挺　支那車十二輌　圓匙十二挺　器具器械若干　庖廚具若干　時計二個　洋燭夥多　砂糖三箱　被服　糧食　雜品夥多

十一日　大行李敵兵ニ襲ハレ食料ノ欠歇ヲ来セリ然モ且フ進ンデ夜行シ奉天ヲ包圍ス　奉天ハ早ク已ニ降リシカバ露糧ニ就キ氣ヲ療シ　十三日休養　整理　十四日　進行　十五日同上　十六日同上　十七日大蓮花泊駐紮　十八日前進　十九日將校斥候開原ヲ占領ス　敵来襲ス斥候却テ之ヲ退ク　蓮花街ヲ占領シ兵卒一ヲ捕ス　河右岸ノ戰アリ敵亦走ル　孤榆樹附近ニ數戰アリテ南城子ニ至ル　戰死兵卒一　負傷兵卒七　鹵獲品ハ銃器　被服　鉄線等ナルモ搬運スルノ人夫ナキヲ以テ遺棄セリ

三十九年一月二十六日盛京省柳樹紀ヨリ乘船同二十九日兵庫ニ上陸　三十一日福知山ニ凱旋ス

京都府立総合資料館所蔵

五月東京靖國神社大祭ニ軍旗ヲ奉ジテ中佐以下
功勞多キモノ六名歩兵特務曹長以下百三十六名
臨メリ　行賞多シ履歴夥シ逐一記載スルノ餘地
無キヲ以テ畧ス

歩兵第二十聯隊軍旗歴史概要

一、明治十八年七月二十一日宮中ニ於テ御授與
二、同　年七月二十六日大阪城南練兵場ニ於テ大
阪鎮台司令官高島鞆之助授與ノ式典ヲ擧行セ
ラル
三、明治二十七八年戰役ニ於テハ二十八年四月一
日出征トシテ大阪出發同月十二日宇品港出帆
同月十七日大連灣ニ集合シ第二軍ノ戰闘序列
ニ入ル同月二十二日柳樹屯ニ上陸シ五月二十
九日海城守備ノ任ニ就ク十一月二十五日守備
ヲ撤シ大連ヨリ乘船十二月二十四日大阪ニ凱
旋ス
四、明治三十七八年戰役ニ於テハ三十七年五月七
日福知山出發同月十日兵庫港出帆同月十九日
南米澳上陸直チニ大孤山上陸軍ノ前衛トナル
翌二十日王家屯ニ於テ敵ノ騎兵部隊ト戰闘ス
六月三日何家堡附近ニテ敵ノ騎砲兵ト戰闘ス
同月八日岫巖ノ戰闘ニ參與ス同月二十五日ヨ
リ二十八日迄分水嶺附近ニテ戰闘ス七月一日
第四軍戰闘序列ニ入ル同月二十一日ヨリ別動

京都府立総合資料館所蔵

隊トシテ盤嶺道路及其附近ニ於テ戰鬪ス同月三十日ヨリ八月一日ニ至ル析木城附近ノ戰鬪ニ參加ス八月二十五日ヨリ九月四日ニ至ル臺陽附近ニ於テ激戰其三日敵壘ニ突擊ノ時敵彈ハ軍旗ノ御紋章ニ命中シ一片面ヲ毀損シ一彈ハ旗竿ヲ擦過シ其他十數発ノ彈丸ハ旗地ニ命中セリ十月十日ヨリ同月十五日迄沙河附近ニ於テ激戰三十八年三月一日ヨリ同月十八日迄奉天附近ニ於テ激戰ス其四日敵ノ重砲彈聯隊長ノ傍ラニ爆發シ安置シアル軍旗ハ其彈片ニテ飛ハサレシモ幸ニ破損ニ至ラズ六月十八日ヨリ二日間楊木林子附近ニ於テ戰鬪ス三十九年一月二十六日柳樹屯乘船同月二十九日兵庫和田岬歸着同月三十一日福知山ニ凱旋ス

五、明治三十九年四月三十日東京ニ於ケル凱旋大觀兵式ニ參列ス

六、歴代ノ聯隊長

中佐 河野通行　中佐 矢上義芳
中佐 土屋光春　大佐 大久保利貞
大佐 飯田俊助　大佐 池田正外
中佐 遠山規方　大佐 師岡政宜
大佐 門司和太郎　大佐 桂眞澄
中佐 八木下統　中佐 清水金生
大佐 前田喜唯　中佐 小澤季治

京都府立総合資料館所蔵

福知山歩兵第一大隊長櫻井正吉暗殺事件

少佐櫻井正吉ハ妻千代長男辰之助次男正二三男健吉ノ五人曾我井村字堀ノ自宅ニ住ス原籍山口縣玖珂郡岩國町字錦見ノ士族ニシテ大正二年九月十八日以来當所ニ寄留ス正吉資質嚴格猥ニ人ト交ラズ家ニ在リテモ雑談戯話セズ嗜ム技無ク好ム藝無ク只軍務是レ服事ス而モ部下ニ禮讓溫厚ナリ　二月廿六日ノ夜電話アリ聯隊長ヨリ至急ノ用事アリ来談セヨトノ事ナリ是ニ於テ来客兒玉少尉ヲ送ヘシ共ニ出宅セリ時ニ九時二十分山陰線鉄道踏切西ト北トニ別レ西ノ方ヘ聯隊長ノ宅マデ一町計リノ所ニテ短銃一發少佐ノ後腦部ヲ貫通シテ之ヲ仆ス警官ハ變事ノ急報ニテ驅ケ来リ檢視スレバ一紙ノ斬奸狀アリ其ノ文ニ云ハク

顧ミレバ四年ノ昔　我レ職ヲ失ヒ妻子ト離レ
不過零落今日ニ至ル是レ皆汝櫻井少佐ノ所業
ニ非ズヤ　遥ニ聞ケバ老母ハ遂ニ之ヲ憂ヒテ
死シ妻ハ病褥ニ在リ而モ一人ノ幼兒ハ鐘ニ泣
クト嗟呼天何ゾ奸惡ノ奴輩ニ壽ヲ全フセシメ
シヤ茲ニ我レ積年ノ怨ヲ晴ラシ汝ヲ拉シテ冥
府ニ赴カン

軍人間ノ大評判トナリ警察側ノ大活動トナレルガ手懸カリトテハ右ノ斬奸狀ヲ除イテ外ニハ何

京都府立総合資料館所蔵

モ一ツ無イ而シテ右ノ書體ハ毎字右下リデアル
ワザト其ノ風ニ書キ暗マシタルモノト見ユル
シテ斬奸狀ニ書カルヽ程ニ迄怨恨ヲ買フ人柄デ
無イヿハ軍人仲間ノ言フ所一致ス　警察側ニテ
組織セラレタ捜索隊モ數旬ニシテ解體セラレタ
サ佐ノ怒ハ綿々解クル期無カラン
大正八年七月ヨリ二十聯隊下士卒全部ニ對シ農
業知識ヲ涵養セシムル目的ヲ以テ講習會ヲ開催
シ郡役所ニ依頼シ講演ヲスル左ノ如シ
米麥作　農事一般　林業　蠶業　畜産　絲業
產業組合　各自專門教師出講　本月ヨリ十月
ニ至ル

福知山水害　明治二十九年

幕府ノ施政ニ付キ非議スベキモノ僂指スルニ堪
ヘズト雖ソノ水害ヲ未前ニ防遏シタル工事土功
ハ往々後世ノ模範トスベキ所アリ　天和三年癸
亥三月幕府ヨリ勘定奉行ヲ派シテ水害豫防策ヲ
講ゼシメ貞享元年山城以下近國ニ治水法ヲ發シ
享保八年其ノ規定ヲ確定シ大河川ニハ天下ノ賦
ヲ以テ之ヲ治メ中川小川ハ領主ニ命ジテ之ヲ修
メシムルガ如キ山木伐採ニ法規アル如キ土砂留
土事ノ如キ是ナリ維新ニ至リ百事古法ヲ蹈襲セ
ザル方針トナリ山木モ隨意ニ切レバ堤樹モ隨意
ニ倒スヿトナリ之ガ爲ニ大雨三日ニ渉レバ堤防

京都府立総合資料館所蔵

必崩ルヲ常トスルニ至レリ慨クニ耐フ可ケンヤ
諸番ノ堤防ヲ修繕スルヤ番頭又ハ物頭夏ノ部下
ヲ率イテ出デ兼ネテ村々ヨリ徴集シタル工民ヲ
部分シ之ニ足軽ヲ加ヘ日程ヲ立テズシテ功ニ就
ク頭役人ト雖ソノ家ニ歸ルヿヲ工場ニ於テ眠
食シ日ニ其ノ工事ヲ督ス破損堤防ハ其ノ根基ヲ
堀リ山土ヲ搬運シテ之ヲ埋メ多人數ヲシテ其ノ
上ヲ踏マシメ築カシメ決シテ工ヲ急ニセズ而天
ハ休ミ晴天ニ動ム故ヲ以テ工事ニカヲ增マズ成
ル必強固ニシテ霖雨毎ニ愁苦スルヿ無カリキ萬
一竣工ノ後ニ於テ一洪水ノ爲ニ崩潰スルアラン
カ番頭又ハ物頭ハ罪ヲ身ニ引キ退隱セザルヲ得

ズ是大ナル恥辱ニテ往々自殺スルモノサヘアリ
シト云フ慶應後ハ政府之ヲ顧慮セズ一ニ受負仕
事トナセシカハ根基薄弱ニ石垣軟柔ナリ福知山
町ノ有志者之ヲ見聞シ焦心苦慮シツヽアリテ遂
ニ姑息法ヲ止メ特選受負ヲ出願シ許可ヲ得テ毎
戶順番ニ夫役ヲ出シ日々百數十名工事ニ着手シ
タリ明治二十三年ノ洪水ニ懲リタルヿトテ十二
分ニ成工セシメ今度コソハト安心シテ居タルニ
豫想ハ面餅トナレリ頃ハ九月廿六日午後二時三
十分ヨリ降出ス雨ハ次第ニ度ヲ增シ量ヲ加ヘ雷
ノ聲モ電ノ光モ加ハリ人ヲシテ恐怖ノ念ヲ起サ
シメ見ル間ニ田園一面湖沼ノ如クニ大水源ヨリ

京都府立総合資料館所蔵

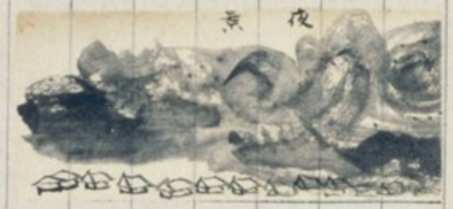
送り来ル流勢ハ堤防ヲ衝キ初メヌ本年ノ盆踊ニ
福知千那流りよがよゝよ土多乃所さゝへ残りやよ
いトヱフ唄ヲ音頭ニシタルヿ一再ニ止マラザル
ヨリ早ク已ニ識者ノ心ヲ傷メシガ何ノ不幸ゾ遂
ニ讖ヲナシヌ三十日ノ夜ハ雨ニ加フルニ風ヲ以
テシ次第ニ暴ラク翌日ニ至リ雨モ亦暴下シ波濤
ノ洶湧一時ハ一時ヨリ猛ク午前二時頃雨モ休ミ
ドンヨリトシタル空ニ半輪ノ月微カナリシカ土
師川和知川相會スルノ水勢ハ二丈三尺ニす平量
ヨリ増スヿ一丈ニ尺大速カ大壓カヲ以テ蛇ケ鼻
ヲ衝突シ舊城京橋ロ間危險ニ迫マリ裏然一響蛇
ガ鼻ニテ舊城ト京橋ノ間ニテ五十間ノ堤防ハ破

レタリ之ニ次ギ廣小路ロノ福知橋ノ處ニテ二十
間亦破レタリ三間五間ノモノ數知レズ瞬息ノ中
ニ連敗シ先ツ米穀取引所ヲ倒シ支障スルモノ無
キ水勢ハ一直線ニ聯隊司令部税務署小學校町役
場ヲ流シテ其ノ傍ノ人家ニ及ブ水ノ満ツルヤ餘
勢ハ更ニ方返シテ福知山ノ町中ヲ浸セリ演劇場
常盤座ハ廣大堅牢ナル建築ナルヲ以テ近傍ノ者
ハ偏強ノ避難所トシ波ニ追ハレツヽ押シ合ヒヘ
シ合ヒ入リ来リシヲ水勢之ヲ追ヒ来リ同座モ敵
シ難ク見ル〳〵中ニ押シ流サレ七十餘名ノ避難
者ハ一時ニ悲鳴ヲ擧ゲ同座ノ破壞ト共ニ怒ヲ呑
ミツヽ流サレテ浮キツ沉ミツ瞬ク間ニ影形モ無

京都府立総合資料館所蔵

クシテ隄坊町ノ妓楼モ將碁倒シノ有様ニテ全家更ニ無ク庫倉一ニ虚ク一望江湖ノ姿トナリ人ノ叫ブ聲ト牛馬ノ悲ム聲トハ水聲ノ中ニ交ハリヌ長町通リノ傘屋ハ家高ク且ツ廣シトテ町民期セズシテ集リタルニ水嵩ノ次第ニ登リ来ルヲ以テ屋上ニ避難シタリ吁〳〵何ノ不幸ゾ屋下火ヲ失シ屋上ニ焼ケ揚ガリタレバ九死ニ一生ヲ求メ一人ダボント水ニ入レバ二人入リ三人入リ多クハ水ニ死セリ水中ノ丈軍ヨ水火ノ責ヨトテ悲ムモノ嘆クモノ狼狽スル中ニ火ハ消ヘタリ此ノ急劇ナル惨劇ハ曉天ノ了ニテ家具ヲ持出ス暇ナキノミカ狼狽ノ餘リ逃路ヲ失フテ水勢ノ来ル方ヘ走ルモノサヘアリテ濁水ノ中ヘ葬ラレタルモノ尤多カリキ

暴風前天候險惡ノ圖



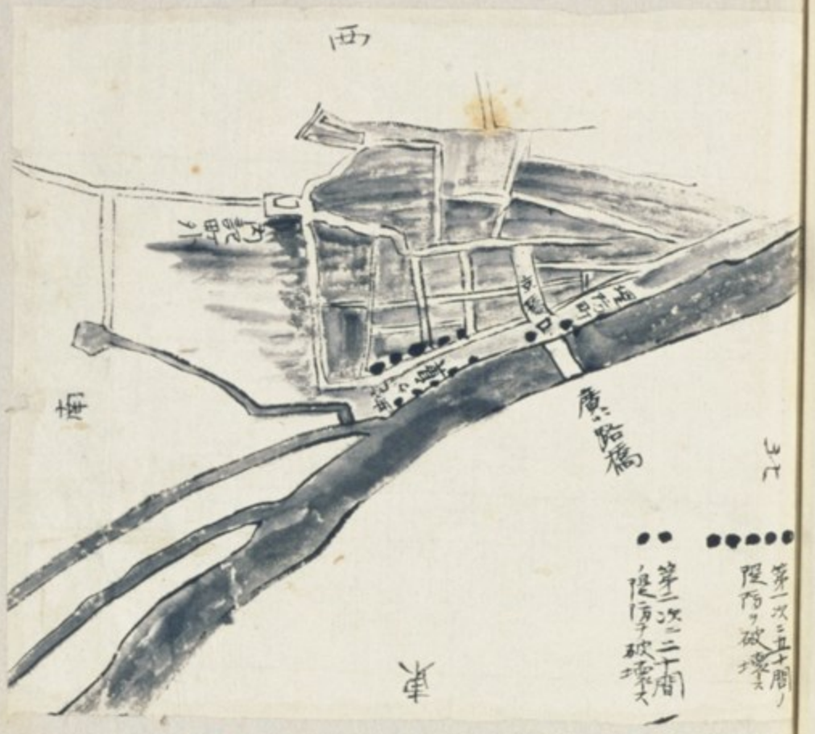
京都府立総合資料館所蔵

斯クテ一難ハ一難ヲ加ヘ慘中ノ慘ヲ演ゼシガ九月一日午前十一時頃ヨリ引去ル水ハ来リシ時ノ如ク次第ニ減シタ景ニハ道路サヘ土砂ヲ露スニ至リ人々ホツト一息先ツ安ぶハシタルモノヽ大半ハ屋上ニ薄衣ヲ纏フタル儘飲食セザル故ニ眠食セザル可ラザルモ一片ノ焼飯サヘ給與セラレズ感冒ノ患ニ罹リタルモノ比々是アリキ而シテ其ノ家ニ歸ルヤ自己所有ノ箪笥ハ無シ什器モ無シ然ルニ何處ノ人ノ衣類ニヤ誰ガ家ノ桶樽ニヤ庭上ニ顛ガリアリ而シテ家人ハ歸リ来ラズ一個茫然天ヲ望ンデ哭スルアリ

翌二日ハ救濟軍應援ノ聲四方ニ聞ユ飢餓ニ啼ケル叫喚ハ全ク止ミヌ町役場ハ十石ノ米ヲ焚キ出シテ給與セリ千五百ノ家影モ無キモノ百五十倒レタル潰レタル二百有餘死傷三百ニ過ギヌ空腹ヲ醫シヒタルモノハ失踪ノ家屬ヲ捜索セザルヲ得ズ傷者ハ之ヲ保護セザルヲ得ズ死者ヲ之ヲ埋メザルヲ得ズ他所ヨリ来リタル奉公人ノ如キハ之ヲ問フノ暇無シ

郡長柳嶋誠ハ去ル三十一日午前二時頃四方ノ光景容易ナラズト看テ取ルヤ馳セテ役所ニ至リ諸員ヲ警誡スル内ニ濁水奔入スルヲ以テ諸負ト共ニ屋上ニ跳ネ上ガリタルモ如何ンセン満面満眸水ナラザル所ナク其ノ職責ヲ竭クスニ路ナキヲ

京都府立総合資料館所蔵



以テ屋上ニ佇立セシガ水勢ノ漸去ルヲ待テ吉田
原ヲシテ使ヲ氷上郡柏原ニ馳セ京都府ニ打電セ
シメタリ被害ノ通信ハ實ニ之ヲ以テ嚆矢トス是
ニ於テカ府廳ハ慘害ノ過甚ナルヲ知リ書記官係
安課長衛生課長等夫々部下ヲ引キ連レ急行現場
ニ馳セ付ケ救助ニ務メタリ

京都府立総合資料館所蔵

第一着ニ屍體ノ片付ニ近村ノモノヲ雇フニ一日ノ雇賃壹圓乃至貳圓ナラザレバ應ズルモノ無クシテ其ノ金ノ出路ナキヲ以テ強テ有志者ヲ募リ漸ク埋メ又ハ其ノ家ニ送ルヿヲ得タリ猶ホ土砂中ニアルモノハ日ヲ逐フテ之ヲ掘出シ且ツ付器衣服ノ知ラレタルモノハ之ヲ其ノ主ニ還付シ知ラレザルモノハ之ヲ施ス等事務ノ夥キ何日平常ニ復スルヿカト思ハシメタリ堤防ノ邊リ鳥ノ群ルアレバ其所ニ必ス屍躰アリ人ノ心付ク時ハ已ニ完膚ナキ胴幹ナリ此ノ如キヿ數日繰返ヘサレタリキ

福知山ノ慘禍ハ元和六年ノ火災ニ全町燒土トナ

京都府立総合資料館所蔵

りタルハ岡部内膳正が領主タリシ時ナリ而シテ嘉永年間ニ洪水アリ爾後無事ナリシヲ今回ニ至リテ此ノ惨害ニ遇ヘリ和知川ノ源泉ヤ遠ク若狭ノ界上ヨリ落来ル諸溪ノ水ヲ聚ムルヲ以テ霖雨三日ニ至レバ常ニ大波ヲ湧カシム漁魚漕運ノ便利アル又ハ夫レ丈ノ禍胎ヲモ含蓄スルナリ災後ノ審査ニ係ル所ニヨレバ

流失家屋　壹百八十九戸　全潰　壹百八十八戸　半潰　壹百三十八戸　破損　七百四十八戸

死亡　壹百九十二人　負傷　二十四人

當時戸數　壹千二百餘戸　住宅　人口　六千四百餘

災後ニ於ケル　人口五千四百餘ニ減セリ

土手ノ町ノミ残リテ前ノ識ニ符スルモ亦奇ナリトスヲベシ

従前ノ水害ハ下流ノ堤防ヲ破壞シタルニ今回ハ上流ノ處ニテ決潰シタルヲ以テ豫備ナキ所尤モ惨害ヲ蒙レリ

西町中町ノ士族邸宅ハ悉皆流失シ士族ノ老幼ニテ一里許モ流サレテ助命セラレタルアリ尋ノ知人ニ之アリ

劇場ハ水害ヲ助カルニ宜シトノ考ニテ私ハ娘ニ人ヲ携ヘ行キ他ノ家族ヲモ引連レ行カントノ途中ニテ劇場ノ流失スルヲ見テ娘モ其ノ内ニアルナラントト胸モ潰レン計リノ悲劇ヲ演セリトハ松

京都府立総合資料館所蔵

井某ノ物語リ

柳嶋郡長ノ宅ニテ前夜談話シテ又ノ後期ヲ約シ歸リタル聯隊區司令部ニアル曹長土佐某ノ妹ヲ見舞フタル郡長ハ訣姉妹ガ相抱キテ其ノ窩部ニ死シ居タルニ酸鼻セリ曹長ノ屍躰ハアリタレト妻ハ見當ラズ　有馬某一家十三人樓上ニアリテ樓下ニ流ル其家他家ト相衝突シテ二分ス老人ハ吁者ヲ助カラシメントシ少者ハ父母老人ヲ助ケントシ相拿フ所ヘ救護船來リテ之ヲ救援セリ某曰ハク若シ彼ノ時ニ助カラントシテ泳ギタランニハ死スベカリシナリ

登記所ノ森直記收税署ノ森俊郎訓導ノ森準輔ハ同胞ナルガ流失シテ三人ノ未亡人ヲ生ゼリ三未亡人其夫ヲ伍牌ニ祭リ三人其前ニ號哭スル連畫夜

赤痢避病院看護婦山村某妹某ハ郡長ニ隨ヒ病院ニ却キ救護ニカヲ竭シ事ヲ終ヘテ家ニ歸レバ家屬ノ屍躰相重ナルヲ看テ起ツ能ハザリシト云フ

内記町ノ某家母子五人屋材ニ打タレ眼珠飛出デタルアリ　退水後泥深サ尺餘ニシテ家財ハ往來ニ山積シタルモ之シキハ水ト塩ト米ニテ白米玄米ノ合セタル握リ飯給與ヲ受ケ數日ノ命ヲ續ケリ金錢山積ストモ何程ノ價値モナカリキ

牛馬ノ屍体アリ大猫ノ死体モアリテ是等ハ外濠

京都府立総合資料館所蔵

中ニ委棄セラレタルヿトテ臭氣鼻ヲ撲テリ
泥中ヨリ銀貨五千圓ヲ發見シ警察署ニ届出デタルアリ
一家ナニ人樓上ニ避難シ居タルニ其ノ家浮流シ下流ノ町外レニテ留マリタルヲ以テ家諸共其所ニ寄留セリ
屋根ノ上ニ避難シタル者屋ノ上ニ蒲團ヲ敷キ坐シ居タルニ蒲團モロトモ引ズリ落サルヽヲ以テ流レ来ル木板ヲ拾ヒ上ゲソレヲ下ニ敷キ以テ蒲團ノズリ落ツルヲ防キ止メタリ
減水後ニ至リ土臺ノ堅牢ナラザル家次第ニ自滅スルガ如クニ外ル此ノ如キ家人ハ追々村落ヘ逃グ家ヘ戻リタルニ家人ノ影ダニ無キヲ以テ茫然トシテ庭中ニ立ツ時足下ノ泥ノ凹ムヲ見テ熟視スレバ足ナリ泥ヲ掘リタレバ親ノ屍躰ナリシ他人ノ屍躰ガ押入戸棚ニアルナド珍ラシカラザリシトキヲ

六十年前ニ決潰シタル迹ヲ謂ハユル大名普請ヲ軍隊組織ニテ仕上ゲタル所ガ脆クモ破レタルニ付キテハ原因ナカル可ラズ蓋シ廣小路ヨリ前岸巷我村字猪崎ニ渡ル福知橋ヲ新築シ假橋ヲ本橋トナセシヲ以テ水勢ヲ益ニ幾分カ防遏スルヿ曾我井村蛇ヶ鼻ノ堀ヲ築上ゲ家屋ヲ建造シタルヿ

米穀取引所建築ノ際ニ堤裏ノ土砂ヲ採取セ

京都府立総合資料館所蔵

レ丁上船渡ニ香良ノ別荘ヲ建ツルニ大ナル石垣ヲ築キレ丁福知和知両川ノ衝ニ當リシ丁廣ク路堤防ノ決潰ハ下流ノ浅クナリ上流ノ勢ヲ捌ク能ハザリシナリ

米穀取引所ヲ流シ聯隊司令部ヲ流シ收税部町役場小學校等ノ建造物ヲ一時ニ搬ビ行ク様ハコレヲ見ル丈ニテ魂ヲ失フニ足レリトゾ

水ニ漬サレタル疊ハ復タ用ニ供スル能ハズ皆之ヲ捨テタリ水中ヨリ米苞ヲ揚ゲ其ノ云米ヲ焚キ梅干壺ヲ拾ヒ其ノ浸水ノ梅干ヲ洗ヒテ食用ニシタル家アリ

高等小學校教員吉田某ハ學校ヘ驅ケ付ケントテ出デ家ト家トノ流レ来ルニ拭マレタルマヽニ三町流レタリシガ

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

不思議ニモ助命セリ郡長桁嶋ガ柏原ヨリ打電セシメタリト云ヘル吉田ハ此ノ仁ナリ

一女屍躰アリ堅ク柱木ヲ抱ケリ之ヲ離サシメントシテ大ニ人力ヲ費セリ謂ハユル女ノ一念ナランカ

聯隊區司令部ノ鈴木某ハ部ニ秘藏スル所ノ十五年詔勅ヲ頭ニ戴キ棟瓦ニ騎リ跨ゲ居タルガ柏手シテ兩陛下ノ萬歳ヲ三唱シ破壞スルヤ否游泳シ助カルヿヲ得タリ

三丹運送會社ノ廐馬八頭騎死シ之ヲ取片附クル時ハ已ニ臭氣迫傷ヲ發ヘリト

福知山ノ死人ニシテ一里餘下ノ下川口村字天津

京都府立総合資料館所蔵

不思議ニモ助命セリ郡長桁嶋ガ柏原ヨリ打電セ

京都府立総合資料館所蔵

ニ繫カリシモノ許多アリタリト云フ

銀行會社ハ家屋器材ノ蕩盡シタルモノカラ配當金モ從前ノ如クナス能ハズ三十一年ノ定式總會ヲ開キ福知山銀行ニテハ年八朱ノ配當ヲ爲シ米穀取引所ハ三朱ノ定率トナセリ

決潰箇所モ三十一年ノ夏ニハ堅牢ナル堤防ヲ築キ了レリ毎戸建築又ハ修繕モ了レリ是ニ於テ一見シテ舊ノ如キモ裏面ニ至リテハ慘害ノ傷ヲ遺セリ

内記町近傍ハ今猶人家稀疎ナリ本年夏秋ノ際ニ於ケル連日霖々ノ雨ハ前禍ヲ追想セシメテ人面ニ愁眉ヲ蹙メタルヲ見ニキ

再度ノ出水　明治三十年

明治三十年九月廿九日朝来降雨歇マズ夜ニ入リテハ益〻太甚シカリシモ福知山地方ノ習見トシテ御靈祭後ハ決シテ水害ナキモノト迷信シ居ルモノカラ出水ヨ洪水ヨト呼ベド叫ベトモ老人ノ落付キ掛フラ居ル故ニ大抵ハ安堵シ居タリケルガ函脚ハ愈〻劇シク雷鳴サヘ加ハリ由良川ハ漫々タル濁流ノ岸ヲカワヲ以テ昨年ノコナド思ヒ出シ恐怖ノ情ヲ惹出スナド誰トナク集トナク高所ナル字岡ニ避クルモノサヘ出来リ同日午後八時ニハ由良川ノ水位ニ丈二尺ニ達シ字内記町ノ裏堤三間餘破壞シ京口明覺寺裏ノ堤防二間

京都府立総合資料館所蔵

餘危殆ニ瀕シ字吳服町ニテハ床上五寸以上浸漬セラレ字鑄物師ニテハ二階マデ浸サレタリ内記邊リハ昨年ノ経驗アルヲ以テ死傷ハ無カリキ

京口堤防ノ破壞セントスルヤ曾我井村ノ工兵ニ救援ヲ乞フモノアリテ隊長ハ直ニ部下百五十名ヲ率ヒテ来援シ舊城石垣ヲ以テ數分時間ニ之ヲ堰止メ間一髪ニ災禍ヲ防止シ數箇所ノ小破損ニテ事濟ミ一同愁眉ヲ展ベタリ

同隊ノ效力ハ過大ナルヲ以テ酒ト者ヲ具ヘテ一同ヲ犒ヘリ

鳴呼音無瀬ノ川ハ大ニ音アルノ瀬トナリテ大害ヲ流出シ来レリ

水害　明治四十年八月

八月廿四日以来ノ降雨ニテ大川小川ノ出水アリ一旦減水シタルヲ以テ洶々タル人心モ一時平静ニ歸ス二十五日午後二時又大雨ス同九時ニハ前潦後洚相擁シテ一層ノ恐怖ヲ懷カシム同夜全町水底ニ陷リ廿六日朝五時水量三十尺ヲ超エ逃グル者屋上ニ昇ルモノ、漂フモノ流ルトモノ具ノ數ヲ知ラズ堤防ノ決潰スル毎ニ激流ノ當ル所家屋幾十百相衝キ相連ナリテ流ル屋檐哭聲叫音ヲ載セテ漂フ歩兵隊工兵隊其ノ他ノ救助船ハ必死トナリテ救助ニ盡カセシガ午前十時頃ヨリ雨漸次ニ熄ミ水勢ノ緩和スルヲ見ルニ至ル

此ノ時電報ヲ亀岡ニ発ス曰ハク　汽車不通日ハ

京都府立総合資料館所蔵

ク流失家屋百三十　死亡人三百餘　云々　汽車ハ篠山近傍九ル相野ニテ止マル　税務署ハ去ル二十九年ノ大水ニ流失ヲ免レタルモ今回ハ濁水俄ニ侵入シ重要書類ヲ取出スノミ其ノ他一物モ影ダニ無シ　天田郡長電報ヲ京都府ニ發スルニ篠山線ニ於テ曰ハク　焚出シノ必要アリ吏員ノ派出ヲ望ム　曰ハク流失家屋二百二十四戸　潰レ家屋百七十戸　死者發見十三人　尚多數ノ死者アルベシ　云々　廿八日福知山驛ヨリ栢原驛ヘ客車三輛貨車一輛ノ發送ヲ試ム　町内ノ水量ハ減少スレドモ家屋倉庫ノ崩潰ト流滞物品トニテ道路通セズ　内記町外重要ナル所々家屋ノ影

ナ残骸ノ柱楹傾倒スルアルノミ　新吳服町ノ崩壊家屋縱横交錯重疊スルヿ海嘯ニ過ヘルニ匹似ス　町役場ノ焚出所ニハ顔色蒼然タル罹災者ガ悄然トシテ握リ飯ヲ乞フテ手ニ受ケ直ニ之ヲ嚙ルアリ年若キ娘ノ襦袢ノ派出ヤカナルヲ一枚引キ掛ケ脛モアラハニ握リ飯入レタル鉢ヲカタゲテ走ルアリ水滴ル米俵ヲ荷フテ行クアリ　音無瀨川ノ堤ニハ濡レタル衣裳ヤ汚レタル布團ヲ男女入リ合セ立チ代ハリ洗フアリテスアリ　此處彼處潰レ家ノ屋根ヲ傳フテ往来スルモノカラ足踏ミカブリ覆ヘルアリ落込ムアリ履物無キヲ以テ大抵ノモノハ足趾ニ傷痕ヲ留メタリ　美

京都府立総合資料館所蔵

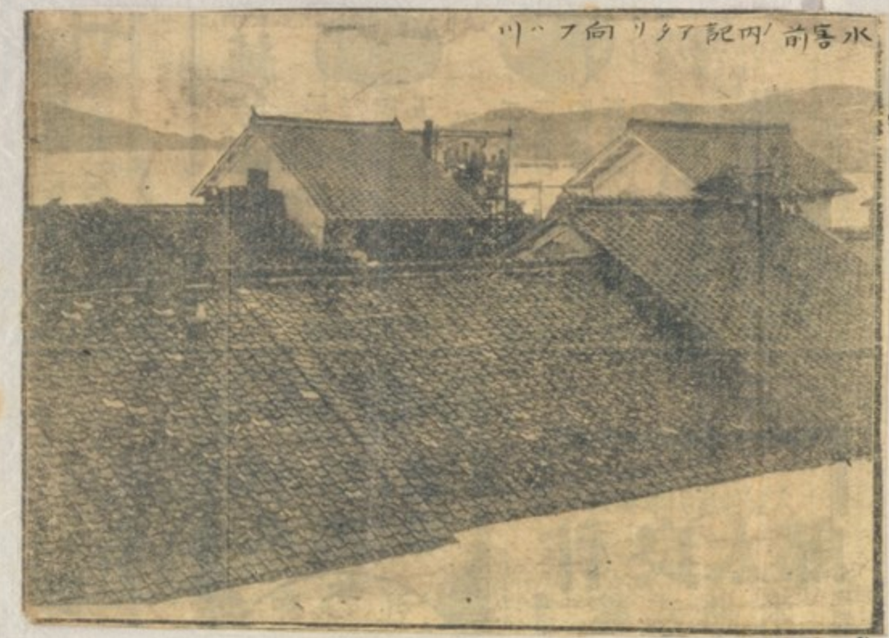
麗ナリトノ評判アリタル郵便局ハ露骨ノ遺骸トナリ電信依頼者ハ山成シテ推シ来リ未曾有ノ繁忙ヲ来ス　柏原篠山間ハ明日ヨリ人力車ヲ配置シ片道九十銭ニテ旅客ノ陸送ヲ為ス張紙アリ

福知山大阪間ノ連絡コレニ因リテ通ズベク人々欣喜ノ顔ヲ落ク　内託町ノ平佐旅館ハ地勢高キガ上ニ三層楼モアルヿ逆主人モ客人モ洪水ヲ平氣ニ眺メ居ケルニ預想ハ亜餅流水溜々ト下層ヲ浸シ戸ヲ破リ壁ヲ衝キ中層ニ湧キテ中層没シ遂ニ上層ニ及ビ隣家ノ三層楼ト時ヲ同フシテ流蕩スヿヲ見タル警察ト工兵トノ救助船ハ櫓楫ヲ並ベテ馳セ来リ客人ハ之ニヨリ生命ヲ拾ヒヌ

助命者ハ警察ノ舊廳舍衛戍病院憲兵隊所等ニ收容セラル其ノ数三千餘救助食物ニ不足ヲ告ゲ餓ニ泣クモノ叫ブモノ数フル遑無シ溺死者大凡三十餘ト注セラレタルニ比較小数ヲ喜ビ工兵ノ熟練ト警察ノ敏捷ヲ唱ヘタルガ漸次歸来スルアリテ蘇息スルアリテ遂ニ死者ハ六名ナリトノ報アリテ諸人安堵セリ　二十九年度ニ百餘名ノ溺死者アリタルニ比アレバ不幸中ノ大幸トヤ云ハンケリ

罹災者惣計八千人　内炊出シ米ノ給與ヲ受クル者五千人　米ハ各村ヨリ寄贈セシモノ而已ニテ月

京都府立総合資料館所蔵



水害前ノ内記アリタル向フ川

水害前ノ音無川ノ図

戸沼論

未迄ヲ支フベシ猶屠々ノ寄贈ヲ見ルステーシヨン汽車中ニ難民ヲ入レテ宿眠セシム

翌三十日ハ道路ニ堆積シタル汚穢物ノ酸酵シ腐敗シテ盛ンニ悪臭ヲ放チ悪疫蔓生ノ虞アリ左顧右眄只是レ

京都府立総合資料館所蔵

金小林商店

漁業家ニ謹告ス

船舶用發動機

上野織工場

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

大正十年九月二十五日午前六時　福知山線石道　二十六日午後四時開通
最高二丈四尺ノ水嵩　町ノ大部分濁水ニ浸ル　約三千戸ノ流没　死者四名　救助セラレタル者五人
三千五百戸　一万五千ノ町民　悪疫艱苦ヲ救フ工兵隊ハ堀ト岡トノ免高地ヘ人民ヲ舟載送運
猪ノ崎町ノ一家五家族八家ト共流サレタリ　歩兵ノ救助中ニ溺没シタルモノ数名アリ
飲水ノ輸送ト焚出シノ運搬ト泥土中ヲ奔走ス　初報警誡ヨリ二時間ニテ全市水中ニ陥ル
損害一千万圓ノ見込　恢復一二ヶ月ヲ要ス　音無瀬川堤防ノ決潰ハ免レタリ　若シ此ノ堤防ニテ
決壊セバ全市ヒ滅スベシ　二十七日朝ニ至リ人家傾頽ヲ始ム
明治四十年以来ノ大惨禍ナリ

泥ノ海　露宿ノ人　井戸浚ハ為ザル可ラズ　醫
薬器械ハ購入セザル可ラズ　假病院ハ設ケザル
可ラズ　醫師トシテ赤十字社出張ノ木村某獨身
夏ノ衛ニ當レリ　梅干澤菴漬缺乏スルヲ以テ炊
事場ニ於テ本日ヨリ塩ノミヲ支給ス　巡査二十
一名ナルヲ以テ事務ノ渋滞ヲ防カンガ為ニ郡部
ヨリ漸次召集シ又府廳ヨリ警部一名巡査三十名
到着ス復舊工事被害整理ノ看督犯罪ノ豫防奸商
ノ看督等ニ着手シタルガ事件ノ複生スルヲ以テ
猶夏ノ不足ヲ告ゲ更ニ二十名ノ増員ヲ求メタリ
人夫ノ募集ヲ數里外ニ行フ　國縣道ハ府費ニテ
其ノ他ハ町費ニテ一週間内ニ整理スル豫定モテ

京都府立総合資料館所蔵

着手ス　赤十字社京都支部救護班本日午後看護長及ビ婦人事務員各一名材料器具ヲ携帶シテ来着ス　小學校ヲ整理シテ開場シ即刻施療ス　柏原町ノ僧梅菴具ノ托鉢シテ得タル白米三石二斗五升澤庵漬二樽梅干一樽醤油一樽野菜四籠其ノ他草履草鞋等ヲ送リ来ルニ遇フ副食物缺乏ニ際シ瞬ク間ニ盡ク　氷上郡前山村青年團五十名天田郡上豊富村字榎原ノ青年二十名整理助手トナリテ活動シ　篠山町舞鶴町ヨリ贈品着ス

三十一日　昨日午後ヨリ開設シタル赤十字社臨時救護所ハ百餘名ノ患者ヲ收容シ患者ハ猶屠々来ル　歩スルアリ　扶ケラルヽアリ　戸板ニ載セラルヽアリ　負ハルヽアリ　荷ハルヽアリ

下痢嘔氣負傷等ナリ中ニ就キ下痢患者ハ傳染質ヲ含マザレドモ類襲ノ狀態ニアレバ最警誡スルヲ要シ負傷者ハ一名ニテ他ハ跣足ニテ泥土ヲ踏ミ尾石ガラス等ニテ小疔ノ創傷ヨリ膿化シタルモノ而已　住民及ビ他所ヨリ入リ来レルモノヽ飲料水トシテ混濁ナル井水カ川水ヨリ無シ其ノ危險ヲ苦慮スルモ如何シトスル能ハズ之ヲ煮沸シテ供給セントスレドモ鍋釜無シ人夫ヲシテ泥土ヲ掘リ之ヲ求メシムルニ一個半個ダニ無シ　夜来ノ微雨ハ降リニ降ラズミナルモ露宿者ノ心膓ヲ寒カラシメ往々天公ノ無情ヲ言フ　公園内

京都府立総合資料館所蔵

ノ救助小屋ノ竣成ヲ告ゲルアリテ姑息ノ手段ナガラ一時コレニ收容ス　土堤ヨリ列ヲ為シテ往ク不面目ヲモ羞ヂズ異様異常ノ姿ヲ運ブ相顧ミテ凄然タリ　家屋ノ流失ヲ免レタルモノ二階ノ泥塗ヲ除ヒ退ケ立戻リ住居ヲ定ムルモノアリ

損害大凡五百萬圓　此ノ内呉服商其ノ二萬圓ヲ最大損失トス　整理人夫一日五百名　箇人トシテ雇ヒ入ルヽモノ無數ナリ　疊一枚ヲ運ブニモ數人ノ手ヲ要ス　丹ハ泥水ノ重量加ハレバナリ

汽車ハ四輛ノ客車ハ輛ノ貨車アリ石原貝原間ヲ往復ス　山崩レニテ死セシモノ發見セラレ之ヲ合セテ死者ノ數六名トナル　官公衙ノ帳簿流失シタルモノヽ泥土ニ封ゼラレタルモノ濕潤シタルモノヽ整理ニ着手ス　水量ヨリ言ヘバ百六十年目ノ洪水ニテ明治二十九年ノヨリ五尺以上高シ

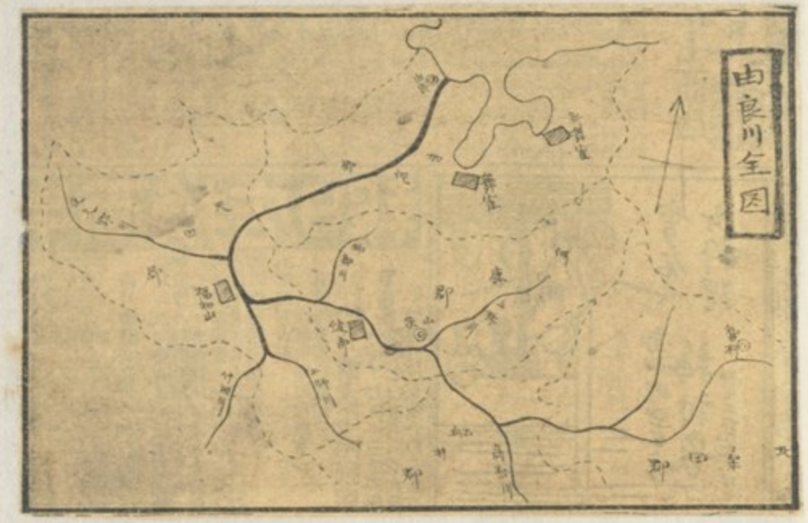
今回ノハ晝間ノ事ナルヲ以テ避難ニ易キト経驗アルトニヨリ大ニ死傷ヲ減ゼリ　工兵隊ノ使用シタル舟ハ架橋用鐵舟ナリ此ノ鐵舟十五隻ニ木舟二十八隻ヲ加ヘ救助ニ從事シタルナリ　今回ノ出水ハ各國各地非常ノ損害ニテ山林田畑ノ荒廢ニ歸シ家屋倉廩ノ破壞シタル一市數村ノ浸水シテ食物及ビ飲用水ニ窮乏セル逼信機關ノ杜塞セル等ノ苦經驗誇夥多アルモ急劇ノ災禍襲来ニテ父子離レ夫婦分カレ稚子流レ老媼漂フ等惨中

京都府立総合資料館所蔵

ノ惨悲上ノ悲トモ言フベキモノハ此ノ福知山ニ
屈指スベシ水去リテ後一個ノ茄子ニ銭ニ値スル
モ之ヲ買フ能ハズ之ヲ買ヘルモノハ珍味トシテ
舌ヲ鼓ス此ノ一話以テ類推スベシ幾度ノ水害ヲ
受クルモ惨澹タル光景ヲ現出スルモ又久シカラ
ズシテ其ノ舊態ニ復スル不可思議ナルカ量ヲ具
備スルハ福知山ナリ今四十二年ノ冬此ノ地ヲ訪
問スルニ飢賑ノ度遙ニ曩日ニ超越ス平均十年毎
ニ一水害ヲ被フルニ関セズ毎災後其飢賑ヲ倍ス
ル何故ゾ是レ主トシテ町地ガ奥丹波ノ衝ニ當リ
貨物ノ呑吐此ノ地ニ由ラザル無ク近郡諸村ノ者
ノ足跡ガ此ノ地ニ印セザル無キノ致ス所歟天田

氷上多紀船井北桑田何鹿諸郡ノ水脈ガ灌注シテ
一大川トナリ遂ニ此ノ地ニ来ルガ如ク水害ノ多
キ大利潤モ亦多キナルベシ　怪ム可キハ町民ガ
水災ニ罹リ希代ノ難厄ヲ嘗ムルモ之ヲ天災ニ帰
シ深ク其ノ源由ヲ窮メズ人爲ニ由リ之ヲ免レ得
ルノ路ヲ語ルモノヽ寥々タルニアリ藩政ノ時ニ
ハ斯カル災厄ノ無カリシハ何故ゾ假令シヤ之ア
ルモ斯カル數次ノ大厄ナラザリシヿヲ考究セザ
ルヤ川底ノ高キニ因ルカ吐流スルノ委ロナキカ
町位ノ低キカ堤防ノ不完固ナルカ林政ノ布及セ
ザルニ由リ渓谷ヲノ水ヲ貯ヘザルカ或ハソレガ
爲ニ土沙ヲ流域ニ落シ来ルカ曰ク何曰ハク何考

京都府立総合資料館所蔵



究スベキ所夥多アラン施行スベキ所亦多カラズ
トセザラン　想フニ水国ヨリ害意ナシ水ヲシテ
言ハシムレバ我ニ悪意ナシ我ハ自然ノ性ニ率フ
テ舟キニ就クノミ我ハ福知山町ト恩怨無シ我ヲ
遇スルノ道ニ於テ缺如スルアル故ニ甫ルナリト
音無瀬川堤防竣功ス石畳ニシテ長サ約九百間其
ノ費六萬餘圓

京都府立総合資料館所蔵

由良川ノ改修ニ付キ技師ト地方有志家トノ談
田良川ハ本郡ノ問題ノミニアラズシテ京都府下
ノ問題トナレリ　流域三十餘里
水源ナル北桑田郡宮島村字宮脇ニ於テ棚橋川ト
合流スル而シテ其ノ元ハ知井村ニアリ　其ノ邊ナ
ル諸山ノ濫伐ハ棚橋川畔ノ山崩レトナリテ多分
ノ土砂ヲ流出セリ
棚橋川ノ支流ハ鶴岡村ニ於テ置鄕ト盛鄕トノ両
方面ヨリ流ルヽモノ相會シテ下ル所ノ荒廢驚ク
可シ豊鄕ノ方尤甚シ
宮鳴ヨリ山家ノ間ハ両岸山迫リ谿間悉ク流身ナ
レバ此ノ區間ニ就キ上流ヨリスル砂防ト水源地

京都府立総合資料館所蔵

附近ノ涵養ト成功セバ何等手ヲ下スノ要無シ

山家村ニ於テ上林川合流スル地點ノ如キハ山ノ迫レル爲ニ一朝出水ノ際ニハ山ト山トノ間悉皆水ヲ以テ滿タサル四十年ノ出水ニハ實ニ六十尺ノ量ヲ示シタリキ山家錢橋ノ高度ナルハ實ニ之レガ爲ナリ

高原上林ノ兩枝川　山家ニ至ル迄ニ本流ハ高原上林ノ兩枝川ヲ合流セリ高原川ハ船井郡北部ヲ流ルヽモノニシテ相當ノ田面ヲ有シ洪水ゴトニ多少ノ損害ハアレド他川ニ比スレバ其ノ程度少シ故ニ護岸工事ニシテ完全ナランニハ大改修ヲ行フノ必要ヲ認メズ

上林川ハ山家ニ於テ本流ニ合スルガ水源地其外皆荒廢スル丁棚橋川ニ於ケルガ如シ

畑川合流地點マデハ府費支辨トナリ居レド畑川上流ハ郡費支辨ナルヨリ此ノ地方人ガ編入潛運動ヲ爲シ居レリ四十年度ノ洪水ニハ此ノ邊ノミニテ五百有餘箇所ノ府支ビ國庫ノ補助ヲ爲シタル佐ナレバ編入潛ハ必要ノ丁ナルベシ

綾部福知山間　山家綾部モ亦兩岸山ヲ以テ扼ム故工事ヲ要スル所無シ　綾部附近ニ於テハ綾部ノ橋　水利組合ノ堰　以久田村字位田ノ堰　郡道白瀬橋等大關係ヲ有スレド橋ハ四十年ニ掛替ヘ頗堅固ニ竣功シタルヲ以テ今後ハ堰トシテ附

京都府立総合資料館所蔵

屬スル堤防問題ナリ　中ニモ佐田ノ堰ハ大ニ考究スベキ所タリ　此ノ部落ト以久田村トノ絶エザル紛爭ハ此ノ堰アルガ爲ナリ　此ノ區間ニ物部中筋ノ兩枝川アリ孰レモ流域ノ短キ割合ニ被害ヤ大ナリ

福知山附近　此處ニ至リ初メテ由良川被害ノ本場ニ達ス此邊ヨリ下流田良ニ至ル迄ニハ洪水數立棄アリテ密林ノ如シ庵我曾我井下川口ノ三村尤甚シク三坪ニ一本ノ割合ニテ大ナルモノハ十五尺ヨリ二十尺ニ達ス　之ヲ以テ田面ヲ保護スル爲ニ作ラレタル川中ノ藪ト云フ　此ノ藪ガ洪水ノ疏通ヲ妨ゲル丁巨大ナルヲ認メタルカラニハ之レガ處置ヲ爲サヾル可ラズ　土師川ノ合流點ヲ更ニ下流ニ變更スベキヿヲモ認メタリ福知山ヨリ下流ノ所ニ於テセバ同町ノ水患ヲ減ズルヤ大ナリ　莫大ナル費用ヲ要ストハ云ヘ緊急事件ノ一ナリ

土師川枝流ノ上方ハ田面道路トモニ水面ヨリ高ケレ共六人部村三村ニ至リテハ之ニ反シ川底却ツテ田面道路等ヨリ高シ故ニ被害亦大ナリ　枝流ノ竹田川ハ氷上郡ヨリ來リ由良川系中害惡ノ劇甚ナルモノトス　其ノ流域水量川幅等ヨリ云ヘバ府縣費支辨タルベキモ兵庫縣ニテハ氷上郡費トセリ　此ノ川系ヨリ流ス土砂ノ量ヤ無量ナ

京都府立総合資料館所蔵

り

和久川ト牧川　福知山町ノ下流ニ此ノ二流アリ

前者ハ流域川幅共ニ短小ナルモ府費支辨タリ改修ノ要ナシト認ム　後者ニ至リテハ上下庭久野一帯ノ水ヲ受ケ且ヤ水源地ノ佳良ナラザルヲ以テ年々ノ被害大ナリ　上下川口村ノ邊ニテ由良川本流ノ逆押ヲ受ケテ名状ス可ラザル害ヲ生ズ其ノ本流ト合スル所ハ撞木形ヲ為シ居レバ是亦ズワト流身ヲ下グルノ要アリ

福知山町ノ下流ニ在ル三四ノ小島ハ之ヲ取除カザル可ラズ　福知山町外ニテ流勢ノ緩慢トナルハ嶋ソノ物ガ支柱スルト川底ノ傾斜ヲキニ因ス

沿岸耕地ノ菜園豆畑雜穀田ハ肥料乏シク其ノ幾育善カラザルヲ以テ出水後天然ノ肥料ヲ得テ其ノ後ノ發育善良ナルヨリ表面ハ洪水ヲ嫌忌スレ氏内情之ヲ歡迎スルノ族往々アリ又能ク水患ノ準備ヲナセリ福知山町民ガ水患ニ懲リツヽモ猶且他轉セザルニ齊ナリ　其ノ心ニ期スル所ハ堤防ヲ一入高クシテ石材モテ堅牢ニ為シタルニ因リ今後ハ霖雨洪水アルモ大慘事無カルベシト云フニアリ　又其ノ船着ノ地ニシテ商業ノ利アルニ因ル　此ノ邊一帯ヲ利スルモ水此ノ邊一帯ヲ害スルモ水　町ノ過半ヲ水底ニ沉メ何鹿郡ヘカケテ二千町歩ヲ荒廢セシメタリ　姑息ノ法ヲ去

京都府立総合資料館所蔵

リ百年ノ計ヲ講ゼザル可ラズ　其ノ法如何　浚渫ヲ第一トシ加佐天田二郡ノ疆界ナル流域ヲ廣クシ和江ノ瀬戸島ヲ取除キ福知山庵我以下ニアル洪水敷ノ中ニアル障害物ヲ除却シ立来ヲ刈来トスル等是レナリ

四十四年水害ハ三百五十二万九千二百七十一圓ニテ全國害表ノ第三位ニアリ

福知山町寺院

補巖山久昌寺　曹洞宗　本尊観世音　開山威雲庵　創建文禄元壬辰年開基高橋源太妻某　法名久屋妙昌尼　再建元禄壬申六月南後数度改建

竪二十七間幅二十間除地

郡中ノ名刹ニシテ領主ノ位牌ヲ安ンジ廿六末寺ヲ有スル而シテ永上郡伊中ノ圓通寺ヲ本山トス

西蓮寺　福知山　金色　正眼寺　福知山　東光寺　字　圓應寺　笹尾　圓住寺　小倉　圓淨寺　郷　高淨寺　岩間　圓覺寺　土師　東林寺　前田　善光寺　多保市　洞云寺　石原　頼光寺　川北　法樂寺　永上郡竹田　長圓寺　何鹿郡私市　昌寶寺　何鹿郡報恩寺　瑠璃寺　何鹿郡大畠　隱龍寺　何鹿郡高津　慈恩寺　何鹿郡延　高臺寺　同郡栗村　淨泉寺　同郡位田　清絃寺　同郡岡　龍寶寺　同郡小呂　真福寺　同郡白田　龍昌寺　同郡中村　長松寺　同郡坊河内　光明寺　丹後加佐郡有路

靈光山法鷲寺　浄土宗　開基　一井次郎左衛門

京都府立総合資料館所蔵

法名　念譽道光居士　開山　實譽　竪二十七間
幅二十間除地
寶珠山常照寺　日蓮宗　本尊釋迦　開山日範
創建曆應三庚辰年　山陰道最初ノ道場　大檀越
當藩家老星野善右衛門良行　慶安三庚寅ノ年荒
河ヨリ移ス　南無妙法蓮華経ノ塔ハ明曆二丙申
ノ年ノ建設　表三十間裏四十間　南北三十二間
ヨリ二十八間斜界地アリテ除地
妙遠山善行寺　日蓮宗　本尊釋迦　開基日圓
慈雲山海眼寺　臨濟宗　本尊釋迦　開山無關　郡
西國二番ノ札所
明覺寺　真宗　本尊　阿彌陀　聖德太子作ト云フ

開基高橋越後　天正十二年
永領寺　真宗　本尊　阿彌陀　惠心ノ作ト云フ
開山安立　創建元和六年九月
明鏡山正眼寺　曹洞宗　本尊　地藏　聖德太子
ノ作ト云フ開山道花　慶長十八癸丑年創建
成德寺　真宗　本尊　阿彌陀　脇　太子　七高僧
開基　祖傳　創建萬治元戊戌年
智澤山西蓮寺　曹洞宗　慶長四年創立　今ハ廢寺
トナレリ

京都府立総合資料館所蔵

大字　堀　和久市　笹尾　天田

本村ハ福知山町ノ南方ニアリテ北ニ向ヒ福知山町ヲ包容セントスルノ狀ヲ爲スヽ而シテ堀ハ其ノ南九一里ニアリ堀ニ南岡ヲ併セテ曾我井鄕ノ名アリシニ正保年間ニ別レ明治年間ニ復合フ此ノ邊産物ニ裕ナリ五穀菜蔬概能ク生育ス枚實一千八百六圓ノ價ヲ有ス明治四十年

大正七年二月十八日臨時參事會ヲ京都府ニ開キ曾我井村ヲ廢シ其ノ全部ヲ福知山町ニ編入シ曾我井村有財産ハ施行期日前日ノ現在ニ基キ其ノ全部ヲ福知山町ニ移スヿヲ決定ス

大字　堀　高七百七十四石二斗九升七合　寛政改千

六百五十二石内二百七十三石二斗一升六合藏郷分改文久　福知山藩領　小字蛇ヶ鼻ハ土師由良ノ西麓川ニ抱ヘラレタル所ニテ六十餘戸ノ部落ナリ

大雨ト云ヒ洪水ト云ヘバ始終村人ノ肝ヲ冷スナルガ四十四年マデ前後水害ヲ蒙ルヿ幾回ナルヲ知ラズ四十四年六月廿八日ヨリ降リ出シタル梅雨中部落内ニ死人アリ午後四時ニ葬儀ヲ營マシ豫定ナリシモ綾部ヨリノ急報アリ因リテ葬式ヲ午後一時ニ繰リ揚ゲ周章テヽ葬具ヲ取リ寄セ僧侶ヲ急キ立テ墓所ニ到ルヤ早クモ水ハ襲来シテ人家ノ軒迄ニ及ビヌ會葬者ハ式モソコ〳〵ニシテ逃ケ歸レバ自家ハ已ニ水、底ニアリテ家族ハ離散シタル後ナリキ

一宮大明神社　一宮ハ一ノ宮ナリシヲ中古以来音讀スルヿトナレリ祭神大巳貴命　慶雲四年麻呂子親王ノ創立ニ係カルヲ以テ郡内ニ於ケル由緒ノ祠宇トス祭禮舊暦九月九日　境内東西三十八間南北七十八間櫻馬場三町ノ並松アリ末社

八幡　大原　天神ノ三祠アリ祭式ハ神奈備山ノ榊ヲ切リ之ヲ先立テヽ神輿ヲ渡御ス神木ノ向フ所ハ田圃ヲ論ゼズ家屋ノ別無ク蹈藉衝突乱妨極メテ太甚ク心アルモノヲシテ嘆息セシメタルヿ數百年ニ渉レリ平素目指サレアル家ハ祭日ニ必大禍アルベシト豫測セラレ誰レ言フト無ク福知

京都府立総合資料館所蔵

山町ノ何商店ハ今年ノ祭日ニ神輿ノ舁キ込ミアルベシ扨果シテ其ノ日ニ輿丁ハ聞シテ神輿ノ棒鼻ヲ店ヘ衝キ込ミ土足ニテ表ノ間坐敷ノ別ナク蹈藉シ神輿ヲ斜ニ表ノ間ニ据ヘ屏風襖具ノ他ノ物品ヲ破壞シ又聞シテ神輿ヲ揚ゲ驚キテ去ル此ノ家ニ招カレタル来客ハ咎式ヲ見ントテ表ノ間ニ連坐シ臭ノ間ニハ杯盤狼藉献酬スル所ヘノ大破壞ニ遭ヒ婦女小兒ハ啼ク老人ハ微傷シツヽ逃ゲ惑フナド惨酷ナル出来事アリ當日領主ヨリモ警固ノ同心許多ヲ出ダスモ之ヲ如何ヒスル能ハズ自然ノ制裁トシテ之ヲ看過スルハ保護ノ任ニアル奉行ノ失態ト謂ハザル可ラズ維新以来警察カモテ之ヲ禁止シタルヲ以テ老成者ヲシテ安堵ノ思アラシメヌ舊領主松平主殿頭忠房ハ慶安年間ニ土地ヲ奉納シ爾後領主代々奉納ス其ノ文

一宮社領於同郷内高拾五石（本田ノ外也 目録別紙在）事

紀先例今度潤色而令寄附之畢全可社納并社廻林爲古跡上者不可有相違者也仍如件

正德四甲午年二月廿二日　朽木民部少輔植元○

社人中

目録　堀郷内田六段五畝九歩 畑一段三畝六歩　同地本所之外也同断

右一宮社領紀先例所被載寄附状也仍如件

正德四甲午年二月廿一日　谷川平藏○

京都府立総合資料館所蔵

平田八郎右衛門 ○
森 傳八郎 ○
吉川七郎兵衛 ○
荒木對馬殿
福林石見殿
蘆田清八郎殿

朽木氏代替リ毎ニ同文言ノ書付ヲ與フ谷川平藏以下ノ連名ハ代官ニテ社寺掛カリノ役人ナルベシ對馬石見ナド云ヘルモノハ神官ニテ京都ノ公卿ナル吉田トカ白川トカ云フ神道管長ヨリ受領シタル官名ナリ中ニハ對馬守石見守又ハ丹波介河内介ナド稱スレドモ領主ト同等ナル官級ヲ嫌ヒ守助ナドノ字ヲ除クナリ

本社拜殿祝詞殿其他主ナル所ハ領主ヨリ建造修繕ス正五九ニハ湯立式アリ正月ハ十一日五月モ同日九月ハ九日ヲ以テ領主本式ノ供立ニテ參拜ス否ザレバ童臣代參ス

昔時兩部神道ノ時ハ福照山神光寺ニ住スル修驗者コノ社事ヲ管掌シ又時トシテハ庄屋名主等ガ勸メタルフモアリキ

外ニ小社三個アリ 武神社諏訪神社三柱神社コレナリ

切岸山城址 武者ガ谷ノ上ニアリ事歴詳ナラズ

高畠城址 外賀修理大夫ナルモノガ天正年中居

京都府立総合資料館所蔵

守シタル所ト云フ水ノ手無シ
兒ガ渕城址　横山大膳亮ガ居守セシ所東北ニ川
アリ南西平地
横山大膳亮五人ノ子アリ第二子モ亦大膳ト稱シ
家ヲ継ギ土師猪坂中村牧荒河ノ安尾ナル五所ニ
擬ギ上ゲノ城ヲ作リ兄弟之ヲ分守セリ第一子某
ハ丹波平定後大阪ニ出テ後ニ加賀ノ前田家ニ事
フ
横山大膳墓　小字水内ニアリ　法名天祐香雲大
居士
香雲居士俗塩見大膳嘗住横山老讓其子横山大
膳采地而逸居于水落里永祿年中終天年而卒慮

後世失其葬所立碑
元祿八乙亥年二月日　横山善左衛門
孫左衛門
左次兵衛
谷兵衛
茂兵衛
荒木一學墓小字荒木谷ノ餃ト云フ所ニアリテ小
祠ヲ建ツ荒木氏數家アリ皆其ノ裔ナリ
大字　和久市　高百四十石七斗三合　福知山領
原ハ猪ノ嗜ノ支部ナレ氏大川ヲ隔テタルヲ以テ分
離シタリシナリ和久庄近傍ニアリテ其ノ市場タ
リシガ故ニ此ノ名アルナリ古ハ何鹿郡ヨリ流下

京都府立総合資料館所蔵

スル和知川ガ福知山城ノ北ヲ西ヘト指シタリキ今ハ彼ノ木村田圃ノ中央ナル字大橋ノ邊リハ大凡テ大沼澤ニテ夫レヨリ和久市ノ西ニ出デ又一筋ハ尊村ト岩井村トノ間ヲ流レ荒川村ニ至リテ會流セリト云フ　今ハ和久市ノ西ノ尊トノ間ニ柳瀬ト云フ所アリ又神明社ノ後ニ市場ノ前ト云フ所アリ之ニ由リテ考フレバ今ノ和久市ノ南ヨリ西ニ流レ東方ナル猪ノ嶋トハ地續キナリシト想ハル明智氏築城ノ時ニ城山ヲ切通シ其ノ土ヲ以テ町裏ヘカケ下ノ方ナル和久市マデ凡ソ十五六町ノ堤ヲ築キタレバ猪ノ嶋ト和久市ガ今ノ姿ニナリシト傳フサレバ彼ノ大橋ト云フ邊リハ今尚沼澤ナリ斯ノ此ノ所ハ澮流ノ所ニテ舟楫運輸ノ便アレバ市場トナリテ百貨集散ノ地トナリ今ノ名モ起コリシナラン此ノ地ハ沙原ナリシヲ何日ノ頃ニカ信州ノ浪人中島小室ノ二人来住シ次第ニ来住ノ者アリテ村落トナリシナリト故老ノ談アリ

神明神社

和久寺ハ大刹ニシテ大門遺殘レリ市寺正明寺ナド皆ソノ由緒ナリ之ガ爲メ船舶定繫所モアリタルナリ

小字　曾我井木村和久市三味ハ刑場ナリ萬延元年強盜西郷半十郎斬首セラル　福知山記事中ニ

京都府立総合資料館所蔵

出タス　此ノ邊古来莨菪ヲ産ス　小字木村高七百七十四石二斗九升七合　文久高五百二石四斗九升二合

大字　笹尾　文久高六百十五石　福知山藩領

矢見所城址　方二町許平地ヨリ高キ丁ヤ間許東西ニ谷アリ中間ニ平地アリ古ノ和久城ハ是ニナラント云フ又一所アリ城主ハ和久氏ナリト云フ又石井山ニモ堀切ニ段アリ事迹不詳ナリ寶暦以来此ノ邊一帯ノ桑野ヲ以テ領主ノ調練場トシタリ

後村上天皇ノ正平年中此ノ所ハ一大戰場トナレリ今ソノ梗概ヲ記セン官軍山名左衛門佐冬治部大輔小林民部丞ヲ侍大將トシ二千餘騎大山ヲ越エ播磨ヘヤ越サントヲ出デタルガ室町方ノ但馬ノ守護仁木彈正少弼安良十郎左衛門菩ノ立テ籠モレル城未タ落ケザルヲ以テ丹波ノ官軍方ナル長九郎左衛門尉安保入道信禪等ハ我ガ國ヲ闇キラ他ヘ赴カンヿノ危道ナルヲ唱ヘ小林ノ率フル所ノ者ノミニテ進入スベシト一決シタル所ヘ赤松直頼大山ニ城ヲ構ヘ官軍ヲ塞グト聞キ但馬行ハ止ミタリケル然ルニ仁木義尹當國ノ守護トシテ在國ナレバ直ニ戰爭ニモ及ブベキニ持重シテ官軍ノ進退擧動ヲ窺ヘリ室町ニテハ此ノ報ヲ得テ京辺ヲ丹波ニ官軍ヲ入レ置クベキヿカハ迚若

京都府立総合資料館所蔵

犬ノ守護尾張左衛門佐入道心勝遠江守護今川伊
豫守參河守護大島遠江守三人ニ三ヶ國ノ勢ヲ添ヘ
テ三千餘騎京都ヨリ和久ノ本陣ヘ差下サル其ノ
勢已ニ丹波ノ篠村ヘ着キシガバ當國ノ兵共心ヲ
兩方ニ懸ケテ何方ヘカ附クベキト思案シケル者
共今ハ將軍方ノ強カランズラント見定メ我先ニ
ト馳村キケル程ニ篠村ノ兵ハ日々ニ增シテ程ナ
ク五千餘騎ト成リニケリ山名カ軍ハ僅ニ七百餘
騎國遠シ兵粮モヒク人馬疲レ城ノ構容カナラズ
角テハ何様フベキ聞諮ニゾセンズラント覺エケ
ル處ニ小林右京亮伯耆國ヲ出デシヨリ今度天下
ヲ動カス程ノ合戰セズバ生キテ本國ヘ歸ラジト

申シ切ウテ出デタリシカバ少シモ驚クベキニ非
ズ一所ニテ討死セント氣ヲ勵マシ心ヲ一ツニス
ル兵者共神水ヲ飲ンデ已ニ篠村ヲ立ツト聞キシ
カバ何處ニテモ廣ミヘ懸合フテ組ムニ力タント
議シケル間篠村ノ大勢コレヲ聞キテ却テ寄セラ
レヤセンズラントニ日路ヲ隔テタル敵ニ恐レテ
一足モ先ヘハ進マズ木戸ヲ構ヘ逆茂木ヲ引テ用
心密シクシテハ居タリケレ共小林ハ兵粮ニ迫ツ
テ又伯耆ヘ引退キケレバ御敵ヲバ早追落シテ候
フト氣色ボウテヅ歸洛シケル　扨ソノ後細川頼
之大勢ヲ率ヒテ攻メ下リ義尹ヲ懸シテ殺シキ明
後ヨリ夏治ノ間モ荒木煙トテ前後二回ニテ迄ビ

京都府立総合資料館所蔵

タリ風呂ノ餘ハ即ソノ亡跡　後文參照

大字　天田

稲荷神社　二社アリ　武神社　水神々社

模範家畜場ハ山陰常設家畜市場ニシテ從來浮動市場ナリシヲ當地ニ一定シ千七百坪ノ地ニ壹萬圓ノ工費ヲ以テ府下ノ模範タルベキモノタリ工費ハ村債ヲ以テ集金セリ四十四年十月十日開場式ヲ行ヘリ

小字　荒木

荒木山　本名神章山又神章備山ニ作ル大嘗會ノ歌　永上郡柏原町　何鹿郡上林村ノ部　參看

常盤なるかみなる山乃榊葉をさしてぞ祈る萬世のあと

ミヽまゆふ青々とうゑ神事俵の山乃榊をかざしよそする

荒木神社　式内　祭禮三月十六日　祭神　天神七代地神五代　此ノ故ヲ以テ十二社ト云ヒ又神佛混淆以來十二所權現トモ云フ　三代實錄ニ貞觀元年五月四日荒木神社ヲ官社ニ列ストアリ大化年中例ノ法道仙人ガ寺院ヲ多ク建立スル際ニ當所モソレガ爲ニ盛況ヲ呈シ人居僧坊俄ニ增加シ荒木千斬寺千斬ト歌フニ至レリ其ノ大ナルヤ想フベシ然ルニ南後兵火ニ罹リ社殿モ燒後荒廢シタルヲ寛文年中國學ノ泰斗ナル吉川惟足ノ門人ナル中目權兵衛盛治古記ニ徵シテ社殿ヲ再建セリ今ノ實況コレナリ　後來之ヲ權現山ト云フ

京都府立総合資料館所蔵

八十二所権現ノ名ヨリ取リ誰レ云トナク呼ビ為セルモノ　山ノ高サ五町ノ登路ニシテ山腹ニ社アリ

荒木山城址　獨立ノ山ニシテ谷深ク八分以上太険シ　正平十六年山名時氏ノ兵此所ヲ過グ仁木義尹之ヲ室町府ニ報ズ將軍義詮諸將ヲ遣リ之ヲ助ク時氏戰ハズシテ退ク　仁木義尹ノ居址ハ荻野朝忠ノモノト共ニ此所ニアリ　翌十七年西来ノ山名ノ敵將小林民部丞氷上郡ヨリ来リテ搦手ヘ廻ハリ余田ノ上高ニ攀登リ谷間ヲ隔テヽ攻撃シ山名ノ本軍ハ和久郷ニアリ大手ニ向ヒ来ラントス連戰一晝夜ニシテ敵軍々資ノ欠闕ヲ以テ口實トシ伯耆ヘ退軍ス此ノ一戰ニ山下ノ民居荒廢ニ歸ス寛文年中再興ノ際ニ社地ヨリモ大俣雁鍬數株ヲ掘出セリ　天正年中氷上ノ赤井軍モ押セタルコトアリ　内藤波多野ノ取合モアリテ内藤ハ大敗戰殘シタリト云フ

風呂ノ谷ハ寺千斬ノ浴場トモ云フ又ハ後世ノ名稱トモ云フ　義尹ノ墓ナリトテ仁木墓ト呼ブモノアリ　菩提樹ヲ植ウ半町ヲ間テハ老梅樹庵ノ一墳アリ之ヲ荻野朝忠ノトモ云フ又荻野朝家ノモアリ是ハ田中ノ一小祠ニテ子孫コレヲ祭祀ス

仁木兵部大輔義尹系圖

清和天皇（人皇五十六代）　貞純親王　経基　満中

京都府立総合資料館所蔵

賴丈　賴信　賴義　義家　義國　義康　義清
義實　實國　義俊　義經　師義　義勝
賴章　義尹
近藤瞬翁傳　墓碑ヲ以テ傳記ニ代フ其ノ文ニ曰
ハク　墓ハ矢見所ニアリ
我福知山有老先生諱義制字商臣通稱善藏世稱
知山藩臣父曰抱義祿六拾石官至元締　先生少
旣健達刺槍最好學師佐藤一齋稚記堅忍遂出藍
以儒名仕　格齊錦江修齋之三公而　格育公學
識秀文之主也　先生以古學特被尚童尋及　錦
江公勤勉卓絕祿至百石官進側頭賜特旨　先生
勇於文學晝宵不離筆硯年四十餘患偏趾醫藥

無徵　先生賴杖日往来淳明館者三十年未嘗闕
其任其衰也公輿昇降　先生七十以督學老世俗
交々譽稱精勤　先生必先鷄鳴而起自煎茗溫顏
口授書門弟未見倦怒之色弟子感其淳德　先生
沿病於平安也儒名素聞應請講經於順正書院
先生居常簡言溫柔特發仙言於詩賦張雄辭於文
章其集若干皆有可觀日新錄三十卷記載周密宜
備遺失矣　先生娶出石櫟田氏之女先　先生而
年女子二人長矢迎嫁於同藩田中氏次再迎若之
高濱昕奉行高橋氏曰安至襲祿　先生老後九年
寔以明治九年七月廿九日卒年七十九葬矢見所
先塋之墓側僧諡曰一譽聰翁慈仙居士安至將建

京都府立総合資料館所蔵

碑家子哭弔相謂曰　先生大老鴻德非莫墓銘竟
合力建之碑竟氏代衆誌而銘々曰
激烈易折　弱不勝強　先生頑長　歳柔勝剛
嗟維先生之德光
明治九年仲秋　門家　西垣克氏謹撰
用瀬德全謹書

北丹軽便鉄道

大正八年ノ頃大阪市ノ人故阿波長兵衛等ノ發起ニテ福知山ヲ起点トスル由良間ノ軽便鉄道北丹軽鉄株式會社ハ會社設立ヲ見ルト同時ニ山本辰次郎ヲ社長ニ推シ以来工事着手ノ設計中ナリシガ大正十年五月二十五日當町ニ於テ地鎮祭ヲ執行シ五百餘名ノ關係者ヲ招請シタリ

大正十年天田福知山街道ノ東部田園中ヨリテウムヲ含有スル溫泉湧出ス樂用鑛泉ナルヲ以テ公許アリテ福知山鑛泉株式會社ヲ組織シ浴場旅館宴會場ビルデング等ノ經營ニ着手ス總額十万圓ノ豫定

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵